



情報宣傳研究資料

第十二輯

次期戦争と宣傳

内閣情報部

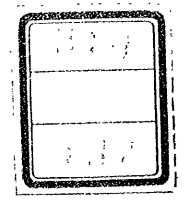
310  
137

情報宣傳研究資料

第十二輯

次期戦争と宣傳

内閣情報部



シドニー・ロチャーソン

次期戦争と宣傳

一九三八年

内閣文庫  
八九四九六号  
和書  
冊



310  
137

本輯は事務上参考のため『次期戦争叢書』中のシドニー・ロチャーン著  
「次期戦争の宣傳」(“Propaganda in the Next War” by Sidney Rogerson, 1938 London)  
を翻譯せるものなり。

昭和十五年一月

目次

第一章 「宣傳」の本質	一頁
第二章 現在の状況	七
第三章 手段と方策	九
第四章 敵諸國、中立並びに同盟國	一四
第五章 國內戦線	一八

# 次期戦争と宣傳

## 第一章 「宣傳」の本質

(一)

およそ將來戰に於ける宣傳の效用を豫測せんとしても、結局臆説に過ぎぬものである。宣傳とは、彈道學の如き嚴正科學でもなく、また戰術や用兵術の如き精密な研究でもない。固より宣傳が心理學、殊に群集心理學と密接な關係を有してゐる事は明白であるが、併しこれが歴とした一つの學問であるか爲され得るか何うかは疑はしい。何にしても今日までの處では、かの軍事思想家等が戰爭遂行の規準となるべき諸原理並にその實行法を整頓し且つ之を解説したやうな風に、宣傳と言ふ問題を支配する主要原則を綜合して之を検討せんとする眞剣な努力をした者が未だない事だけは確かである。即ち宣傳は大部分未だ開拓されてゐない領域であり、且つ又その場その場の條件に應じて方法を更へて行かねばならぬ特殊のものである。

そこで次の戰爭は如何なる條件を備へて來るものであらうか？ 惟ふに一九一四年——一九一八年

歐洲大戦  
と宣傳の  
關係

歐洲大戦  
の特質

の戦争は、聯合國側の宣傳に随へば、『民主主義の爲に世界を擁護する』戦争であつた譯であるが、これを歴史的に言へば、實に、強力な武器としての宣傳の價値が決定的に認められた最初の戦争だつたのである。彼の世界大戦が宣傳の發達に貢献したところは、まことに甚大であつた。但し必ずしも二者直接の因果關係があつたと言ふのではない。そもそも世界大戦は、一舉に勝負を決すると言ふやうな急速な戦鬪の無い戦争であつた。昔の「セダン」や「ワテロー」の如き戦鬪はなかつたのである。今日獨逸の宣傳家が非常な熱意を以て唱へ續けてゐる如く、戦鬪に於ては獨軍の決定的敗退のないうままに終つた勝負無し長い苦闘であつた。而して又、次の如く斷じ得るのである。即ち中歐兩帝國は完全に負けは負けたが、彼等の膝を屈せしめたものは、戦場に於ける聯合國軍の現實の成功であつたと同時に、その經濟上精神上の力並に宣傳の力に依る制壓にあつた。さうして來たるべき大詰へ來るまでに、四箇年以上を要したのであるが、此の間を通じて戦争其物の本舞臺は、實際のところ變化を見ずして終つた。又演技の範圍が極めて狭められたものであつたと言ふ事も、亦看過し得ない事實である。實際の作戦の舞臺は、これを東に取つては今日のロシアからルーマニアへ懸けての諸國境に添つて蛇行する一線、またこれを西にしてはベルギー、佛蘭西の東部諸地方を通じて瑞西に至り更にオーストリアと伊太利との國境方面に及ぶ一線、と概略此の二ヶ所に限られてゐたのである。戦争の潮汐は、此の二戦線に於て時に干満を示したが、而かも其の差は驚く可き程少なかつた。かるが

前線と新  
聞記者

故に、戦争は主として住民達が最も鋭敏な民族意識を有つてゐる人口稠密な地域で行はれたのである。勝敗が決せられたのは、非文化種族や開拓移住者等が散在する廣漠たる地方に於てではなく、隅々まで耕作の行届いた農業地や大規模な工業地帯に於て、且つ互に傳統の根強さに培はれた民族的憎惡を持つた國民間に於てであつた。最後に又、戦場は參戰諸國の新聞社と固く結び付けられてゐた。各戦線の後方には、新聞通信員のためにあらゆる技術的便宜を備へた宿舎が設けられてゐた。それこそ今日の衆議院記者席を見るやうな、或は種々の競技會などで電話室がすらりと並んでゐるやうな、それにも劣らぬ設備が整へられてゐたのである。新聞寫真班や映畫班の連中も押し合ひへし合ひして、恰度現今のカメラマン等が國際ラグビー試合やサッカー試合でタッチラインにへばり付いてゐるやうな工合に、本國の新聞や映畫館への土産になる場面を狙つてカメラの砲列を敷いてゐた。特別に發行される塹壕新聞さへ別に珍らしくはなかつたし、若しそれ西部戦線に至つては此の塹壕地域で日刊新聞を賣出した事も一切に留まらなかつた。予は今もまざまざ記憶してゐるが、ちんちくりんの佛蘭西人の小僧がヴェルメルの火線の附近をうろ付いて、訛言も露はに『英字新聞!』と怒鳴つてゐたものである。

宣傳の發  
達

兎に角戦争が左様に長引き、且つ動きの少ない性質のものであつたから、遂に宣傳をして漸く發達させて仕舞つた。その發達は又、宣傳用の機械器具が容易に整備される事に依つて一段と助成された。

更に此の戦争が夫々傳統的な憎悪や念願を抱いた雑多な國民を包含してゐたが故に、結局宣傳が一の優秀な武器として認められるやうに成り、これを以て一方を打ち据え他方を奮ひ立たせる業物たらしめたのであつた。

次の戦争の様相

扱て次の戦争が、すべて前回の戦争と似たものであらうと斷ずる理由は何處にも無さそうである。然り、それ程歐洲の情勢は變つてしまつた。戦争の新しい手段がしかく速かに發達し、軍事行動の全テムボがしかく急速に發展して、今と成つては次の戦争は前回の戦争に呈示された主要な様相を繰返して見せる事はあるまい、と言ふはうが先づ無難であらう。蓋し各種機械化部隊の運動性、速度と活動範圍を著しく増大した航空機と通信機關等は、いづれも兵力の運用圏を遙かに縮めてしまつたのであるから、現代の兵器裝備を以てして一九一四年——一九一八年程度の規模の歐洲戦争を考へることは難しい。既にして軍事専門家等は、將來に於ては兵籍に登録した軍隊の数が尨大であることは、利益に非ずして却つて一のハンディキャップであるだらう、と指摘してゐる位である。勝利の神は大隊兵力の大きい方の側に立つと言ふ事があるのだとすれば、それは英國に關する限り好都合な原則ではある。併し乍ら大陸諸列強が同様に然う認めるか何うかは保證出來ない。唯だ茲に一つ確實な事は、これからは恐らくは奇襲戦法に則つて、戦争行爲をスピードアップするためにはあらゆる努力が行はれるであらうと言ふ事である。現にその舞臺稽古が過般獨軍の奧大利占領の時に行はれた

譯である。今日では敵味方の參謀本部の狙ひは、如何なる手段を盡しても先鞭を付ける事、宣戰をしない裡でも構はぬ、兎に角著戦を奮ふ事にあるのである。一九一八年以來文明國民間に於ける戦争道徳の低下して來た事、實に斯の如くである。その先鞭たるや、重要都市や重工業の中心地帯に於ける住民の上へ、空中から大編隊爆撃を行ふなど其の一であらう。仍ち戦争と成るや忽ち敵の内陸深くを衝き、その住民の窺の火が未だ樂しく燃えてゐるところへ持つて行つて急に戦禍を叩き付けるのである。一滴一粒の水か小石を投するだけでも、最高能率の内燃機關を停止せしめる事が出来る。同様に何か豫期せぬ突發事が起つただけでも、喩へば極めて細心に計畫され機械化された攻勢の真中へ螺廻を叩き込むやうな具合に、結局は一般の狀勢をして一九一四——一八年の時と酷似せしめる事に成るであらう。かの西班牙の内亂に於ける遺口がそれであり、又支那に於ても或る程度まで然う言ふ工合であつた。併し斯くの如き偶發性は姑く措くとして、矢張り差當り斯う論ずる外はない、即ち次の戦争は何處で起らうとも前回の戦争の比ではなく、一層迅速且つ慘酷に武裝なき良民に襲ひ懸かるであらう。

次の戦争の宣傳

大體以上の前提からすると、次の戦争は前回の戦争ほど宣傳の發達に資する處は無さそうに見える。戦争の續く限り餘りにも夥しい動きがあるであらうし、又恐らくは政治工作なる緩漫な車輪を轉じてそろそろ宣傳の機關を動かし始める等と言ふ餘地を持つほど永續きはしまし。而かも他方に於て



次の戦争は宣傳の重要性を著しく増大するであらう。就中銃後に於ける市民の間に在つて空からの脅威に對して彼等の精神を鼓舞し、亦その脅威に對處する技巧を教へる上に於て、特にその重要性を増すものであらう。

六

尙ほ此外に、次の戦争を支配すべき諸條件に就てもう一つ大切な事を付度すれば、それは幸か不幸か、必ず戦ふと言はぬが戦ふ可能性のある國々が最早それ程不確でないと言ふ事である。仍ち吾人の主要な敵となる可能性のあるのは、ローマ・東京・ベルリン樞軸の諸國即ち伊太利、日本、獨逸であると言ふ不愉快な事實を擧げて、何等差支へはない。更に、何か豫見し難い事件が他の國々との間に醸されて其處から閃光が飛び火花が出ることを、忽ちそれは尾を曳いて上記三國の孰れかを若しくは全部を包んで仕舞ふところまで燃え進むに違ひない。考へて見ると實に憂ふべきである。予をして此處に挿入する事を許されるならば、予は正直に言はう。——それ程世界にとつても破壊的な悲劇であり殊に獨逸と英國にとつて決定的に悲惨な悲劇が起つてよいものとは、どうしても予には考へられない。斯くの如き戦争が始まつたら言語に絶した戦争となり、結局は兩國の潰滅とヨーロッパの潰滅に終るものであらう。されば、戦争勃發の際やがて宣傳が働くべき筋道を、予が能ふ限り批判的に検討したからとて、直ちに予が戦争を避け難しと豫想し、若くは戦争が起りさうだと考へてゐるとされては困る。反對に予は、率直な討議が能く獨逸國民の眼を開け同じく英國人をも醒まして、兩國

英國の可  
想敵

間に常に摩擦點ありとするのは全く莫迦げてゐることを悟らしめ、其の様なものは火の中へ投じて焼き棄て、仕舞ふやうに成らむ事を望むものである。

對獨、伊  
日、宣傳  
の相違

假りに獨逸、伊太利並に日本が相率ゐて文句無しに次の幕の敵役を買つて出るとすれば、先づ以下の事を豫斷出来るであらう。即ち何等かの突發事が起らぬ限り、又作戦の諸行動が軌道に乗つていよいよ息もつかせぬ進攻を始めぬ限り、獨逸に對する宣傳の役割は主として防禦的性質のもの、即ち國內戦線の防衛の爲に働く事と成るに違ひない。これが日本と伊太利とに對しては一段と攻撃的と成り、夫等の國の國民へ働きかけて此の兩國を困惑せしめんと計畫されたものとなるであらう。

一體本書のやうな小著の限界内で、各國に對する適確な宣傳戦の分類規畫を爲さんとし、若しくは各國が英國に指向ける宣傳に對抗するための必要な防衛手段を研究せんとするは無理なことである。随つて本書の意圖するところは宣傳の教科書と言ふよりは寧ろ概論であつて、現在吾國に於ては此の問題に對して當然拂はるべき注意が疎にされてゐるに鑑み、茲に大方の思索と討議とを多少とも刺戟せんとする意味で書いたものである。そこで此の目的を十分に果たすためには、予は進んで技術上の諸點を詳述する必要を感せざるを得ない。伊太利、日本、獨逸——と斯う並べると、吾國の立場から見るとその最大なるものは獨逸である。獨逸こそは主要な假想敵なのである。かゝるが故に予は敢て言ふ。次の戦争に於ける宣傳は主として獨逸を目標とせよ、伊太利及び日本を直接相手とする事はは

七

研究の順序

八  
んの時折りで宜しいと。宣傳問題を論理的段階に随つて發展させて行くために、先づ第一に曾ての歐洲大戰が残して行つた宣傳の遺産を、就中宣傳なるものが一九一八年以來いよいよ發達して來た経路並に今日の世界に影響してゐる所を詳細に考察する必要があるだらう。第二に、國內及び國外に對する宣傳の技術と、宣傳を創出するために在る諸機關とに検討を加へる必要がある。續いて、戦時に於ては宣傳を如何に發展せしめて、以て主たる敵を襲撃すべきか、又中立國及び同盟諸國に向つては如何にこれを適用すべきか、尙又宣傳の力を以て如何に國內戦線を防衛し吾が英國國民の精神力と戦闘意識とを保持せしめるかを研究するのが至當であらう。最後に、右の諸目的を達成するために如何なる機構を必要とするかを檢し、且つこの點まで其の要求を充し得るかを計量する事が必要であらう。

(二)

宣傳とは何ぞや

併し乍ら第一に、宣傳とは何ぞやを吟味して懸かるのが本當であらう。だが厄介なのは、此の語が無關に使はれてゐながら案外その意味を知られてゐない事である。それは未だガラス越しに薄暗く視かれてゐると云つたやうな活動分野なのである。呑氣に鏡の中を覗き込んで居られぬ秋であるのに、困つたものである。それにしても宣傳の意義を全く知らない者が吾國の上流人士にも居るといふ事は驚くほかはない。外國ではまさか、それ程困却されてはゐない事は確かである。それが廟堂の大

連や今を時めく高位高官の人々と此の題目に就て論議を交はし、それに對する彼等の應答や態度から察して、予が用ひてゐる此の語の意味を彼等が殆んど知らないか、又は全然無智である事を知るに及んで、予は實に愕然たらざるを得なかつた。之は宣傳と次の戦争問題に關して甚だ悲觀す可き状態である。何故ならば次の戦争の爲めの宣傳を大いに準備す可き時は、正に今だからである。

宣傳の字義の進化

要するに此等名流人士の無智識も、或はそれ程不思議ではないかも知れない。現在我々の運命を支配する地位にゐるお歴々の多くは、光榮ある中年を夙くに過ぎた人々で、今世紀の始めに學業を終へて仕舞つた人達である。彼等の大部分は遅くとも一九〇〇年頃迄には、その學習書を子供っぽい品々と一緒に之を最後と片付けて仕舞つた。今假りにその時代の辭書を、或はエンサイクロペディア・ブリタニカを引いて見ると、此のプロバガンダなる語は『コンスイリウム、ド、プロバガンダ』即ちローマの本山が外國宣教師を統轄するために設けた一の教議會を引用して簡単に片付けられてゐる。事實その時代にはプロバガンダと云へば、布教の機關又は施設の名稱であつたのである。而して今日吾人が宣傳と稱するところのものは、當時プロバガンダと云へば、肝心の點は、概略一九一四年の頃まで、プロバガンダには福音傳道會に於て用ひられてゐた以外の意味はなかつたといふ事であり、又教會の宣教師以外にはプロバガンダと自稱する者も無かつたといふ事である。故に歐洲大戰が始まるまで此の語は其の舊套を脱する事なく、随つて新しい意味、即ち事柄自體を指し

最早事柄を遂行する手段媒介を指さないといふ意味を附與されるに至らなかつた。かくて大戦もすつと後のほうに成つて、これが漸く右の新意味を持つて大衆の間に流通し始め、やがて今日の意義を保つ有するやうに成つたのである。故に此の語も亦、一個の『戦争が生んだ子』である。

宣傳の定

抑、宣傳とは、これを廣く定義すれば『主義主張の普及の實踐』であり、更に平たく言へば、新聞又はパンフレット、演説講演、劇や映畫、ラヂオ、流言の私語等民衆の耳目に觸れさせる事の出来る表現傳達の具を計畫的に驅使して以て民衆の心の中に所期の意見を形造らせることである。是を以て觀れば宣傳は、文明以前には無かつたとしても、文明と同時に生じたものである。それは市政府程度のものに在つても若くは大帝國に於ても、政府の仕事や政黨政治とは不可分のものであつた。平時に於ても、宣傳は盛に行はれてゐる。各國とも自國のために平時時に於ても宣傳を行つてゐる。或る國はとりわけ計畫的にそれを行つてゐるが、それは他國民の間に自國に對する好意を生ぜしめるために是非宣傳を必要と感じた諸國である。意識的に宣傳に乗出したのは極く最近の事であるに拘らず、英國は從來外國の好意を常に多大に享受して來たのである。吾國が宣傳の問題に關心を持つに至つたのは「英國旗を振る」必要を痛感したからで、從來は英國の行動に對する諸外國の關心と英國が多くの國際報道網を支配してゐた事が、自ら英國の宣傳となつてゐたのである。吾國が現代式な宣傳事業から甚しく遅れてゐる今日に於ても吾國の種々な民衆的式典、議會行事、運動競技會、様々な社交的會合、

英國の宣傳

その他國民的な行事等々の舊式な宣傳を依然として多量に續けてゐる。吾が宮廷の戴冠式や二十五年祭、ダービーやアスコットの競馬、スコットランド及ハイランド地方に關する感傷的な宣傳、かのスコット風な短袴とパイプ、ウェールズのスチール帽、巨船クレーンメリー、ウエストミンスター大寺院、果ては『貴國の巡查はえらく御立派で』など、是等はすべて、海外に對する英吉利斯の宣傳の具に非ずして何ぞやである。或る意味に於て吾が君主制體はこれ一箇の宣傳施設であり、而かも大いに成功を収めてゐるものである。併し現代に於ては之より遙かに勝れたもので、世界最大ではないとしても最も成功を収めてゐる宣傳機關がある。それは即ち米國のフィルム工業で、今日まで此の世界に現はれた最大の宣傳力である。これは別段その意味で統制されて居らず、専ら商業上の利益に依つて指導されて來たのであるが、實に偉大な効果を擧げ來たつた。それは他の如何なる社會的若くは宗教的な運動にも増して、最も短時日の間に凡ゆる人種を含む廣汎な地域に亘つて、物の見方、習慣道徳の上に大きな影響を與へた。だが、以上に述べた凡ゆる宣傳機能は固より重要大切なものではあるが、その統制が餘りに散漫であるから、これを一の特殊な目的に向つて指向する譯に行かない。

戰時に於る宣傳の必要

惟ふに宣傳は、平時に於ては政府の仕事から自然に派生して來る底のものであるが、一旦戦争が勃發すれば、これが喫緊第一の事と成つて來る。たゞへ野蠻民族と雖も『悪い人間ぢやない』と考へてゐる者を敵に廻して戦へるものではあるまい。故に國民の戦争意義を完全に激成せんとすれば、先づ

その前に上述の如き感情を一掃し去らねばならぬ。戦時に於てはその當事國の國民の間に、よろしく敵に對する憎しみがなければならぬ。自國の戦争理由並に自國の指導者に對する信頼が無くてはならぬ。而して敵國の精神力を覆し敵の心膽に恐怖を叩き込むためにあらゆる努力をなさなければならぬ。かるが故に古往今來、多くの將師及び國王達は偏に宣傳の力を藉りて、以て彼等の目的を達成せんとし、頻りに相手方に對して惡聲を放ち、彼等が如何に恐ろしき復讐の念に燃え立つてゐるかを説いて相手の戒心を掻き立て、或はその讓歩を慫慂し、而して最後に自國臣民の精神を昂揚し且つその和を望まんとするを妨げたのである。

茲に特筆すべき一事は、遠からず吾人は或る戦役の二百年記念祝典を擧げる事に成つてゐるが、その戦役たるや、一人の英國船長が自分の耳を失つた事を宣傳の種として遂に戦争を捲き起したのであつた。即ち一七三九年の事、ジェンキンズなる者が自分の耳を鹽漬けにして壘に容れ、これを携へてスペイン本國から英國へ歸つて來た。而して彼自ら謂ふ處に依ると、耳を斬り取られた上心ならずも西班牙人共の前で永い間曝し者にされ、漸く放免されたから、如何にもして此の殘虐に對する恥を雪いで貰はうと念じつ、懐かしの本國へ歸つて來たのであつた。その手に取るやうな巧みな物語りが、忽ち宣傳の波を生じて輿論を燃え上がらせ、遂にかのジェンキンズの耳戦争を惹起せしめるに至つたのである。固より此の一介の耳無しジェンキンズの背後に一層有力な利害があつたからではあらうが、

ジェンキンズの耳戦争

單なる耳一個に關する宣傳が遂に民衆の戦争要望の聲を湧き上がらせたと云ふ、その經緯に重大な意義が存してゐるのである。

ビスマルクの宣傳

現代史上の多くの偉大な將領の中で、宣傳の重要性を認識してゐた點で圖抜けてゐるのは、ビスマルクである。一八七〇年の戦役中彼は幾度か下僚を呼んで、犀利なる新聞掲載文書を書かせ、以て佛蘭西側新聞紙の抗議を反撃した。また後に、プロシアの殘虐がロンドンの紙上で謳はれるや、彼は忽ち夫等の紙上に於て一矢を酬ひしめ、又フランスが小冊子を作成して國內及び海外に頒布するや、彼は直ちに『佛蘭西人がゼノア協定を蹂躪して、凡ゆる野蠻殘虐行爲をなした事』を印刷して、これに應せしめた。而して彼等は夫等の命令を次のやうな適切な注意で結んだ。曰く『愚圖々々してゐては讀み手が無くなつてしまふ。急いでやれ！』と。戦役が終局に近付いた頃のビスマルクは、そのコミュニケーションをすべて自から眼を通し、後に外國の新聞が獨逸に對して逆用しそふな條項は悉く削除したのであつた。

大戦前の獨逸の宣傳

ビスマルクは斯の如く「宣傳」の力を體得して、それを後に傳へたに相違ない。何故なら一九一四年に於ける歐洲で、豫め國家的宣傳組織を設けてあつた國は、獨り獨逸のみであつたからである。實に獨逸は、その陸海軍並に工業方面の充足を計つたと同等の方法を以て、獨逸にとつて有利な報道が完全に世界中に行き亘るやう努力してゐたのであつた。即ちツキルヘルムシュトラッセ街なる外務省

新聞班からよし、在外大公使館からよし、その他電信局から官立諸銀行から工業組合から海運會社からと、その孰れを問はず夫々間斷なく宣傳が發せられ、これが皆、獨逸に有利な印象を擴め、その國民の勤勉な性質を又その平和愛好の意志を傳へ、而かもこれに配するに一度び蹶起すれば非常な實力を藏した國である事を仄めかし、同時に、例へば獨逸の南米に對する商業的侵略とか、伯林バグダッド鐵道建設の蔭に隠された軍事的意圖とか言ふ穿ち過ぎた説を爲す獨逸に不利な論評を打消したり豫防したりする事を目的としたものであつた。故に一九一四年一旦戦ひが宣せらるるや、上述の如き組織を有つてゐた結果獨逸の享けた利益は顯著なものがあつた。聯合國側は忽ち防勢に陥れられたのである。即ち彼等の報道は貧弱であり、偶々あつてもそれは何等統制の無いものであつた。併しそれも東の間で、漸く双方歩度を伸ばして頑張り合ひ、聯合國側は遅れ乍らもびたりと中歐兩帝國の後にくつ付いて大量の宣傳を吐き出したのである。双方ともが夫々自國民と世界とに向つて、相手側が此の戦争を始めたのだと極め付け合つた。各々の側で天帝に訴へて、各々の腕力を強め給へと祈つた。獨逸人は例の『慈悲深い獨逸の神』に念じ、佛蘭西人は『佛蘭西の民を愛し給ふ基督』に祈つた。双方とも、不正を艾除し奴隸化された者共を解放するために戦つてゐるのだ、と宣言した。英國も『白耳義を見捨てな』と言ふスローガンを作出し、又我々は『ポーランド』、『チエック』、『クロアト』、『スロヴァーク』等の諸民族をプロシヤ人の泥靴からハンスブルグ家の壓政から救出する聖戦を行つて

大戦勃發  
の宣傳

宣傳の一例

ゐるのであると宣言した。獨逸のはうでもそれと同じ傳で、獨逸こそは憐れなる印度人、埃及人及び愛蘭人の肩に加へられてゐる英國の帝國主義の重壓を取り除くために戦つてゐるのである、と頻りに中立諸國に向つて吹聴した。聯合國側も我等はかの野蠻から、カイゼルなる匈奴の手から、而してニイチエの所謂金髪の獸の頃から此の世界を救ふために戦つてゐるのだ、と吹聴した。すると獨逸側もこれと同等の熱と力をこめて、彼等はフランスの自墮落に對抗して修養の大旗を掲げ、英吉利斯の唾棄すべき商人根性に拮抗して士道の旗幟を守るものであると唱へた。双方ともに各々國際法の擁護者を以て自ら任じた。即ち聯合國側は『紙屑同然の條約』(註、ベルギーの中立を侵した時のドイツ首相の言)と獨逸のベルギー侵犯から宣傳を作り、獨逸は、亦英國が傍若無人に侵略した諸海洋の自由のために、又弱小諸國をして自由に通商する権利を得しめるためにと唱へた。此の競り合ひが聽て段々國粹化して今度は獨逸とも各々の歴史に磨きを懸けて擔ぎ出し、夫々選ばれたる民族の聖戦だと號した。最後に互に相手をも最も悪むべき殘虐の民だと極め付けた。此の處まづ各自の歴史が宣傳家の御用を勤めて種々傳統的な物語を供給した形で、謂はば歴史の蒸し返し焼き直しが繰返されたのである。その揚句双方とも如何なる物語りも事實談も種切れとなつたので、純然たる捏造事を驅り集めての泥仕合とは成つて來た。或る有名な米國の教授が双方互に難じ合つた罪惡を克明に記帳して見たところが、恰度その數が略同數で相殺すると零に成つたそうである。此邊で一つ實例を擧げて見るのも面白からう。

當時吾方の熱心な宣傳家達は、獨逸人がツェペリンや飛行機で闖入し來り無辜の女子供の頭上から死と破壊との雨を降らすと言つて、頻りに民衆の憤激を煽り立てた。だが英國に於る空襲に依る死傷者の總數は、前後四年間を通じて四・八三〇人を超えず、その内死者は一・四一四人であつた。一方聯合國側の烏人連が獨逸の都市で行つた殺戮に就ては、口を拭つて知らぬ顔をしてゐたのであるが、次の二つの例を見れば大凡その状態を察する事が出來よう。即ち一九一六年六月英・佛の飛行士がカルスルーへを空襲して、折柄コルプス、クリスチの行列騒ぎをやつてゐるところを爆撃し、女子二十六人小兒百二十四人を殺傷した。又九月の同市二度目の空襲に於て百〇三名の死傷を生せしめたのである。

以上の如く喧囂を極めた戦時宣傳も、その中に實質的に新奇なものは一つも無かつた。いつの戦争でも同じ様な主張が兩側から持出され、同様の殘虐行爲の極印が互に相手方に押されたのである。強ひて相異を求めれば、それは此の大戦に於ける宣傳の量と烈しさが蓋し空前であつた事にあるであらう。從來曾て此時ほど種々の條件が宣傳に好都合であつた事は無かつた。曾て此時ほど宣傳撒布の機械が長足の進歩をしてお蔭で宣傳家の手間の省けた事は無かつた。而して此の大戦に於けるほど宣傳に重きを置かれた事も曾て無かつた。

(三)

大戦末期に於ける宣傳の變化

宣傳に一變化がもたらされたのは、大戦も四箇年近く打續き交戦國中の若干が戦ひ疲れて動搖した頃になつてからで、宣傳は其處を轉機として今日吾人の知る如き強力なる機關に變つて來たのである。即ち一九一八年に至るや俄然、宣傳に強力なる形態を與へ、細心なる綜合的操作を以てすれば特殊の目的を達成し得ると言ふ事が判つたのである。此の事は例の戦車と同様まつたく英國の寄與に依つて、戦争の一新武器を増した譯である。その次第は先づ一九一八年、かの奇才ノースクリップ卿を長官とする宣傳省の設立から始つてゐる。但し茲では是非一言して置くべきは、これが如何にも皮肉な追想の種と成つてゐる事である。と言ふのはノースクリップ卿の就任事情が、實は當時の政府としては卿を左遷して何が一段低い役どころへ追ひやる心算だつたのである。結局ノースクリップ卿は國內戦線や中立諸國方面への宣傳とは別個に専ら敵側諸國に對する宣傳を受持つ事と成り、先づ其の宣傳の二指導大綱を指示した。第一に、それは眞實でなければならぬ、第二にそれは常に一定の政策と相關して行かなければならぬ、而かも能ふべくんば寧ろ該政策に一步先んじて行き度い、と言ふのであつた。予は宣傳省の仕事に關して更に後章に於て詳述する心算であるから、此處では單に、ノースクリップが長官と成つてからの變化の最たるものは、彼が事の遂行に際して時間を浪費しなかつた事、時

ノースクリップ卿の宣傳方針

宣傳省の設立とノースクリップ卿の登場

間を最も重視する戦時であるから敵を抜き下ろし若くは誤まれる對敵觀念を空中に吹き飛ばす上で實に電光石火の如きものがあつた事だけを、言つて置かう。彼れは常に誰よりも先頭に立つてゐる「報道者」であつた。且つ彼れの宣傳は歴とした事實の上に立ち、分り易く表明されてゐて、夫れ迄のやうな歴史や法律や人道主義や果ては天帝などを擔ぎ出す行き方は異つてゐた。彼れは敵方の精神力や政治的連鎖の弱點を狙つて、極めて冷然と且つ客觀的に問題へ近附いた。而してその手筈を確かると固めて置いてから其の弱點を擴大するやうなニュースを矢繼早に放つた。例へば、彼が第一着手として狙ひを付けたのは、埃太利匈牙利帝國が正體を包んでゐる洗ひ酒しの蒲團の繼目に向つて攻撃する事だつた。蓋し一九一八年には此のぼろ蒲團を無理に引張つて、中歐諸帝國の戦線の一部まで覆ふと言ふ弱身を見付けたからである。當時敵方の幕下にあつた諸民族中ポーランド、ルーマニア、クロアト、並にスロヴァキア等は既に戦に疲れてゐたのみならず、夫々の民族としての願望を抱き隨つて亦憎惡を抱いてゐると言ふのが衆知の事柄であつた。ノースクリップは此の感情の纏れに向つて驀地に突込んだ。彼れは先づスロヴァキア人が自由を求めて離反し懸かつてゐるのに眼を付けた。そこで彼れは政府當局とも相談して、若し聯合國側が勝利を獲た曉には此のスロヴァキアの自主權待望を聯合國側として何の程度まで協へてやる意志があるかを糺して見た。すると、その答へは聯合諸國の責任ある政治家連から極めて明瞭に與へられた。茲に於てか彼れは斷然火蓋を切つた。凡そ民族主義に眼

醒めた總てのスロヴァキア人が切實な興味を感じる具體的なニュースの巨弾が放たれたのである。而して卿はあらゆる宣傳機關を總動員して此の民族開放の確約が獨逸側の軍隊内で闘つてゐるスロヴァキア兵士の各人に洩れなく行き亘るやうにした。此邊が凡そ從來の行き方との相違である。斯う成つて來ると宣傳とは最早、單に大勢集まつて大きな聲で怒鳴り立てるだけの事柄ではない。少くとも何等か口外すべき確定的な事柄があり、又それが何か一定の人間に關聯のある事柄で且つその相手の人間に向つて言はれると言ふのでない限り、ただ譯もなく怒鳴る法はない事に成つて來たのである。かくて其後に至り敵軍の中に飢餓と物資缺乏の頻發してゐる事實を突き止めたノースクリップは、時を移さず彼れの全精力を擧げて敵方へお土産の寫眞を配つた。それは聯合軍戦線の内側は牛乳や蜂蜜の洪水と言つた狀況、捕虜まで見違へるほど肥つて大喜びでゐる有様を撮影したものであつた。而かも相手方に一點の疑ひをも生ぜしめぬために、それ等の捕虜の寫眞に各自の名前を記入させ且つ好遇を享けてゐると言ふ白筆の證明まで添へさせて、之を敵の戦線内に撒布したのである。やがて敵方に、戦力疲弊の徴候が種々看取された。と忽ち日毎に情報飛び込んで、聯合國側では米國軍隊の戦線到着に依つて人的物的の資源が益々増強されて行くと言ふ事が、手に取る如く知らされる。又一方、獨逸の造船諸都市が歸らぬ潜水艦に就て漸く危懼を抱いてゐると言ふ情報が入るや否や、あらゆる手段を盡してUボートの撃沈表が敵方に投入される。而かもこれが先方の海軍省でも太鼓判を押すほ

二〇  
ご正確を極めた表であり、各Uボートの撃沈拿捕の状況から乗組員の生死に至るまで詳細なる説明付きのものであつた。

その手段たるや蕪にも述べたどほり、歴然たる眞實の報道を具體的に提供する事であり、更にもう一つ肝心な目標としては、先づ一定の政策の表明を待ち然る後にこれを宣傳の上で生かす事にあつたのである。それ程ノースクリップと言ふ人は、此の仕事の域内に於て偉大な人間であり、且つは彼れが宣傳の發達に特別の寄與をなした點でより、以上高く買はれていゝ筈でありながら、彼れの現實の仕事が全部記録として残つてゐるかと言ふと遺憾乍ら少々疑はしい。仍ち茲でもう一度振返つて見る必要のある事だが、彼れが上述の任命をされた時期は一九一八年三月になつてから過ぎず、然もその後二三ヶ月は、此の仕事の檢討に彼一流の組織の完成に、將た又政府の明確な政策を得るために、費されたのであつた。だからして實に一九一八年の八月に至つて、はじめてクルー、ハウスの宣傳冊子作成に着手されたのである。然るに此の頃までに千二百萬を下らぬパンフレットが、既に陸軍當局から頒布されてゐた。而かも其の宣傳は當時なかなかの効果を擧げてゐた。タイムスの『大戦史』も八月八日を『宣傳の効果を最も切實に感じた日』と記してゐる。また敵方でもフォン・シュタイン將軍が、此の八月の廿五日の自記に於て『宣傳に於ては敵は正しく吾に優越せり』と書いてゐる。然もクルー、ハウスのパンフレットが刷上がったのは漸く九月四日、實際に出されたのは更にその二日後であつた。此邊の事情を見ても、その頃まで宣傳と言ふ事は海軍省陸軍省が之を効果的に且つ十分に果してゐた事が合點出来る。英國の陸海軍將校の中から拾つても、例へばサー・レギナルド・ホール若しくはマクドノー將軍チャリス將軍型の人物が多勢ゐて、孰れも獨逸側宣傳部の軍人とは較べ物に成らぬ優秀な宣傳家としての手腕を示してゐた。正しく此等の人々は戦争が最も困難を極めた時機に於て、其後ノースクリップが打樹てた組織の基礎工事を固めたわけではなく彼等の仕事自體が既に立派な成果を收め始めてゐた。ただ困る事には、此の人々は夫々の役柄上所管事項の中に閉ぢ込められて、然う然う手を擴げかねたのであつた。扱てその次に、ノースクリップの宣傳組織はそれが樹立されるに際して時の利を得た、と言ふ事も拒み難い。即ち宣傳省が店開きをした時の心理的雰囲気は逃へ向きであつたのである。そこで是れは後章に於て重ねて説く心算であるが、敵に對する宣傳が致命的に利くのは、どうしても敵が疲勞してゐて、敵自から戦の大義を疑ひ自らの武力を疑ひ始めてゐる時でなくてはいけない。斯く言つたからして何も宣傳省の成功を否定する譯ではない、蓋し其處に鍊達の士を得た事に間違はないのであるが、併せて時機に投じたのである。扱て同省の顔觸れを見ると、聊か

宣傳省首  
腦部  
寄合世帯の觀があつた。——即ち次官はワシントンの大使館から呼び戻された若いカナダ出身の將校で今日のサー・キヤムベル・スチュワートである。その下の首腦部連には、經驗深き海外特派員のウキックハム・スチード、有名な動物學者チャルマーズ・ミッチェル博士、これは陸軍省から貰つて來



ノースク  
リップ卿  
の今日の  
獨逸の宣  
傳

た)それから、世界論壇に著明なエッチ・ジー・ツェルズ等を揃へた。併し寄合世帯の弱味はあつたがその成功振りは冒頭から實に驚嘆すべきものがあつたのである。何しろノースクリッフが此の地位に据えられるや、果然それが非常な憎悪と俱に敵側に反映し、就中獨逸の國內では戦争中は固より休戦後と雖も彼れの雷名は轟き亘り、これが亦今日の獨逸の宣傳部方面の噴賞を恣にしてゐる次第である。何にせよ眞似をしようと云ふ事は最も眞摯なる阿諛追隨に等しいのであるから、若しノースクリッフ卿にして今日も生きてゐたならば、彼自身造り上げた武器が今日の獨逸で爾かく發達してゐるのを見ては流石に悪い氣持ちはしないであらう。尤も予をして言はしむれば恐らくノースクリッフ卿は、今日の獨逸の宣傳事業は最も完璧なものであり乍ら卿が得意とした心理的浸透力に於て缺くる處がある、と觀するに相違ない。だが其の彼れと雖も、現獨逸の組織的宣傳が遂に埃太利を斷裁して大きくグロツセドイテラントと抱え込むに至つた事を認むるに由なかつた。此の兩者の結合に就ては、序でながら茲でノースクリッフの覺書手帳を一寸再吟味して見なくてはならない。之に依つて見ると彼れは、先づ埃匈帝國内に於ける親獨と反獨の住民を數字的に檢べて見て、大凡反獨三千百萬、親獨二千百萬と言ふ結論に到達した。さすれば『親獨の小數が反獨の大多數を支配』してゐる譯に成る。そこで彼れは此の反獨分子の引き離しを説き、次いで次の文に終つてゐる。曰く『埃太利内の獨逸人は何時なりと勝手に獨逸聯邦に合流出來る譯合ひである。彼等はどのみち變形した埃太利から離れようとするなら

う蓋し變形した埃太利と成つて仕舞つては最早彼等が非獨逸人民を支配する事が出來ぬからである』と。果して其後の歴史は、ノースクリッフの先見の明は當時の政治家達の到底及ぶべき限りでない事を示した。

(四)

宣傳に對  
する世人  
の考へ

此處で一應觸れて置くべき點がある。それはこかく宣傳と言ふ言葉に附いて廻る一つの考へ、即ち嫌惡とまで行かぬにしても疑ひの事である。一般の人は宣傳と言ふと何か、信を置けぬとまでは考へないにしても下らぬ事だと決めて懸かつてゐる。宣傳とは取りも直さず嘘を製造しこれを流布して、それで一部の人が他の利益を奪つて自分のはうの得を増すもの、と信じ切つてゐるらしい。成程宣傳も事戦争に關する限り、その目的とする處は明かに敵の損害ではある。併し乍らそれも經驗に徴して明かなる如く、その宣傳が眞實と歩調を合はせて行く程いよいよ効果が多いのである。虚偽の報導と言ふものは、いづれは虚偽である事が曝れて仕舞ふに決まつてゐると言つてもいいし、又眞實の隱蔽もやがては露はれるものであつて、ごつちみち樂屋落ちがする外はない。現に、かの『屍體加工』の如き、何處から見ても捏造したものが好い例である。その謂ふところを聞くと、獨逸は幾多の工場を設けて其處へ戦死者の屍體を運び、何か爆藥の製造に用ふる膏を取る、のだそうであつたが、さすが

宣傳と眞  
偽



にそんな噂は幾日も保たなかつたのである。惟ふに宣傳は快刀亂麻を斷つ底の武器である事に間違は無いが、同時にそれが眞實である時に限つて刃が鋭く成るのである。随つて宣傳家の信條を擧げて見ると「眞實を述べよ、但しこれに汝が欲する解釋を與へよ。何よりも先づ、役に立つとしても絶対に虚言を吐いてはならぬ。さもないと嘘偽の烙印を押されて宣傳家としての命數は盡きてしまふが故である」と言ふ可きであらう。蓋し何時も眞實に即した事がノースクリップの宣傳の特徴で、また恐るべき効果あらしめた所以である。

國內宣傳の必要なる所以

此の外特に國內戦線に關する限り次の如き一般の感情があるらしい。即ち宣傳と言ふものは國民としては別段そんな意向に成りたくもないものを強ひて一定の説なり一連の見解なりを植え付ける不愉快な且つ外來の手段であるとするものである。國民の聲だからとて固く政府の宣傳の反映であつて見れば、必ずしも神の聲ではなからう。故に吳々も、其事が牢固たる眞實だと云ふ事を示さなければいけない。中には然う言ふ方法を目して何か邪惡なものやうに考へる必要が何處にあるか、と言ふやうな人間もあるであらうが、矢張り眞實がいい。それにしても輿論と言ふものは、對外及び國內政策の若干面に於て輿論の全貌を變へぬまでもこれを十分踏み固めて置く必要が多い。とりわけ國際危期又は内亂等に際して然りである。其處で多くの眞實を蒐めて之を基として大いに論陣を張れば、民衆が健全な國民として正しい心を有つてゐる限り、その眞實さに促されて應ては必ず自ら進んで見解を

改めるやうに成つて來るものである。問題は、迅速に然う變つて來るか否かに懸かつて來る。今日の世界を眺めると、行動とそれに對する反動とが日毎に速度を増しであり、新に態勢を整へた全體主義國家が一旦中外に宣揚した願望は立所に決心と成り、一瞬の間に行動に移されるのである。扱て吾が英國民は、一切ならず其の歴史の上で證明した如く世界の諸國民中最も明快な政治常識を保有すると言ふ卓絶した長所を有してゐる。彼等は如何なる危期に直面した時でも、独自の立場をこらせば殆んど常に正しき方向に向つた。但し彼等はそれに時間を要するのである。されば厄介なのは、今日の如き状態ではそれ程悠長に待つて貰へるか何うかである。その上、最早獨りにされてはおかれず、必ず英國自體及び外國からする宣傳戰の混迷裡に置かれなくてはならぬ。此邊の事情は、予自身最近に經驗した事があるから、それを茲に述べれば恐らく能く分るであらう。予は或る製造會社に招かれて或る新製品の廣告に助言を依頼されたのである。その會社は古く設立されたもので、極く保守的な企劃をする處であつたから、廣告で賣込む考へを好ましく思つてゐなかつた。色々の異論が出たが、その最も問題となつてゐるのは、此の會社には既に津々浦々に行きわたつてゐる二製品があるが、然も之は曾つて廣告したことがない。だから新製品だからとて從來の品同様に良いものである以上(彼等は茲に確信を有つてゐたが)從來の品同様素晴らしい賣行を見せぬ筈は無いのだが、と言ふのである。予は種々尋ねて見ると、結局彼等はその製品の賣行と評判とを固めるために營々として廿年間の努力を費

したといふことを承服した。そこで予は、若し時間と言ふものに何の變哲も無いならば、今度の新製品も前同様の年月を経る内には同様の賣行に到達するを考へるのもよからうと告げてやつた。然し乍ら然う悠長にしてゐる間に、何か取引上の變動があつたり新しい競争相手が出現したりして、その商品の立場を根こそぎ覆すかも知れぬ。だから要するに廣告をすると言ふ考へは、より短時日に同様の成果を擧げるためであらう。『仕事は山程あるがやる時間が少い』といふ事が、國內宣傳を正當とす所以である。状態に依つては、或は此の時間を無視しても輿論に急轉回を與へる必要も間々生ずる。戦時に於ては國防上屢々斯かる必要が起る。殊に將來戦に於ける國防の安全は、懸かつて此の處にあるであらう。

此の外にもう一つ、宣傳の正當なる理由がある。今から數年前の事デー・ケー・チエスタトン氏は、オールド・ユニオン派の者が押され勝ちにばかり成るのは不思議だ、と言つた。永い年月練つては正し經驗に經驗を重ねた揚句に打樹てられた秩序が、何故に甘んじて單なる未試験の理論にたすけられた非正統アン・イン・ド・ソックスに攻撃されてゐなければならぬのか、甚だ訝しいと氏は言ふ。予も常に此の事は考へてゐたが、過去二十年間といふもの何故英國に於ける正統派の要素が他の國々では餘りに革命的又は非現實的で非社會的と云はれる理論家達の巧妙且つ強力な宣傳に攻撃され通してあつたか、予は了解に苦しんだのである。一つの施設なり秩序なりを宣傳に依つて攻撃する方が、これを防ぐよりも容易

であるのは勿論である。而して若しその施設や秩序が良いものであれば、良い事自體が大いに防衛の役を爲す。即ちその良さが、宣傳以上に物を言ふからである。随つて若しそれが悪いものであれば全く防ぎ得ない。元來そればかりでなく、舊慣を墨守する事よりも變化の方が之を通じての進歩の望みが多い、但しこの望みは間違つてゐる場合が多い。だが理由は何であらうとも、革新派アン・イン・ド・ソックスのほうが通例宣傳上手でもあり亦氣合の懸かつた宣傳をするやうである。

最後に、戦時に於ける宣傳と言ふ問題を研究しようとする者は、先づ客觀的な態度を持ち感情的に成らぬやう、心の縮を締めて懸からなければいけない。必ず自己の先入的感情を先づ除き去り、特に又自分の國の宣傳が未だ利いてゐる處を覗いてその儘それを取り上げぬやう戒心を要する。如何なる英國人も、その心持ちが今尚ほ一九一四——一九一八年頃の宣傳の圓盤レコードを鳴らしてゐる蓄音機に過ぎぬものであるとしたら、その人間は最早將來戦に於ける宣傳に就て論ずる資格は無いのである。全く反對に先づ相手側の立場から問題を眺め、而して此の見地よりしてかの大戦當時敵をそうであるところへたと同様に彼自身が野蕪至極な條約の侵犯者であり女小兒の殺戮者であることを見られたことを了解せねばならない。扱て段々述べたが、茲にもう一つ英國國民の政治的感覚を示す例を擧げて見よう。それは我々英國人は大陸諸國民と異つて、幾百年に亘つて戦つて來た佛蘭西が然らざる限り、何處にも傳統的敵國と言ふものを有つてゐない、といふことである。世界の何處かに於て最も吾人の利益を脅

戦時宣傳  
研究の態度

英國國民の  
對外國感情の變遷

對露

すと思へる國がいつでも吾人の敵である。これをもう少し具體的に言つて見るならば、如何にしてロシアは永年印度の邊境を窺ふ妖魔であつたか、されば一九〇四年彼等が『山椒は小粒でも日本人』のために打ち挫かれたとき、吾人はどんなに喜んだことか！それを聽て、吾々が伯林街道の地馴しをする地均機關車の仲間内に加へたのである（而かも今度は日本ごもごもに）。すると其の次には何時の間にか世界革命の宣傳に依つて大英帝國の基礎を覆さんとする憎むべきボルシェヰキの國と成つた。而して今日では亦、佛蘭西を通じてち、附き合ひ難くはあるが再び吾人の同盟者なのである。また日本は如何。一九一四年には日本は吾々の勇敢なる同盟國で、『赤坊を王様に戴いた子供の天國』『ミカドの國』櫻花、菊の國であつた。日本が商業上工業上長足の進歩を爲してゐた間は、英國商品の大きな市場であつた。或時の如きは日本の軍艦を英國の造船所で建造した事もある。而して極く最近一九二三年の東京大震災の頃は、前の同盟國といふ感情を以て日本を眺め、且つ、大した品物は買つて呉れぬまでも矢張り大切な顧客と見做してゐた。然るに日本が吾國の製造家から買つた機械や設備を十分自家のために驅使して、漸く英國商人に閉め出しを喰はせはじめ、のみならず其の英國の市場にまで一段安い値で賣込んで來、而して段々帝國主義的且つ露骨な併呑政策を發揮して來ると、英國の輿論は儼然一轉した。忽ち櫻も菊も何處かへ吹き飛んで仕舞つた。入れ代つて現はれたのは、汗みづくで働く百姓の姿や、兩親を饑餓から救ふため吉原に賣られて行く娘達の凄愴な繪であつた。然うなる

對日

と會ての『山椒は小粒でもびりりと辛い日本人』は、率然と早變りをした。日本人の微笑は牙を露き出した形相と成り、『黄色の猿』だとか『東洋の獨逸』だとか有難い極印を頂戴したのである。

對佛

今世紀の始め頃は、矢張り佛蘭西が吾人の敵であつた。歐羅巴に於て然り、地中海に於て然り、或はアフリカの諸地方に於て英帝國の進出する處すべて佛蘭西が仇であつた。彼是れ中年の人ならば、折柄擡頭し來たつた獨逸の脅威に刺戟されて出來た英佛紳士協定に對し民衆の支持を得るために猛烈な宣傳が行はれた事を想出せる。親佛を謳ふにせよ、反獨を鼓吹するにせよ、此の協約を存続させるには實に熄む間なき宣傳を必要としたのである。予は茲で民衆の支持と言ふ文字を使つたが、その意味は無言の民衆の支持を指すのである。此の無言の民衆は、もともと智腦も高くなく、又政府の政策も、彼等のお臺所に直接響いて來る政策の他は大して關心を持たず、隨つて宣傳が餘り利かない連中なのだ、而し民主主義國家でも、結局は此の民衆の意見が物を言ふのである。予は英國に於ける此の民衆層は、決して眞に親佛に成る事はないと信じてゐる。正直のところ彼等は、獨逸の頑固さや強引な進方を實際に見せ付けられれば、漠然とした焦燥の感情を経験する位の事はあふかも知れないが、およそ何れかの外國に親し味を感じるにすれば彼等は生得親獨なのである。予自身の見聞した處に依れば、大戰中最も猛烈な反獨宣傳が行はれた時分でも、一般兵隊は將校クラスほど其の宣傳を相手にしなかつたのである。將校クラスと謂ふのも可笑しいが、他に適當な言葉も無いから先づ然う呼

大衆の對  
獨逸情

んで置かう。現に平たく言ふならば、かのアトキンズなる人にしても、正規兵か義勇兵かは知らないが、フランス紳士なんかと付き合ふ位なら『捕虜獨兵』と一緒に暮らすほうが氣樂だと稱してゐるのである。一九一七年予の居た師團の陣中芝居で喜劇役者が公然と『俺達は敵味方を間違へたのだ。俺達はジェリーのほうの味方をすれば良かったのだ。そうすれば世界を征服出来たのに』と言つたのを聞いた。之は破れるやうな喝采を博したが、予がプログラムの臺本を檢閲しなかつた事が問題にされた。占領地駐屯軍に隨行した部隊は、過去數箇年の戦争中同盟國であつた人達から受けた待遇と、その後昔の敵であつた人々から受けた虐待とを比較して、最も不快なる意見を藏して戻つて來たのであつた。扱て以上の親獨感情がすつと兵隊階級に行き亘つてゐる一方、予自ら分つたのであるが、將校連のはうはそれ程誰も彼も親獨ではなかつたのである。かくて予は、他の國々に對する吾々の感情と言ふ問題を掘り下げられるだけ掘下げて見て、結局吾々の友情なり敵意なりは、先天的偏見の結果よりは宣傳の結果である場合が多いといふ信條に到達したのであつた。即ち吾々の感情と言ふものは宣傳に依つて色彩を附けられる。その宣傳は亦自國の利益に基礎を置いてゐるのである。これは固より然るべき處であり且つ正常な事であるが、然し此の事實を知つて置くことは宣傳研究の一助たるを失はないのである。

宣傳の殉  
難者  
ウエル  
看

予はトラファルガル、スクエアの銅像の處からキャヴェル看護婦の像のほうへ歩いて行く度に、

對外感情  
と宣傳

かの『愛國の情を以て足れりとせず』の記銘に更に『宣傳も亦必須たるべし』と附け加へる可きであらうといつても考へるのである。若し世に宣傳の殉難者と言ふ者がありとすれば、それはキャヴェル看護婦である。斯く言ふのは、かりそめにも彼女を貶謗めて、彼女が畏るゝ事なく生命を捧げた祖國の首都に永遠の記念像として飾られるに値しないと言ふ心算ではない。尙ほ又、彼女は軍法に照らされて死刑に處されたのであると言つても、それは彼女の追憶に對して何等汚點を印することにはならない。尤も獨逸人側の罪は彼女を射殺した非行ではなく、判断を過つたといふ事である。彼等としては彼女を間違なく死刑に値する者と見極めたのであつて、それに依つて恐かにも茲に謂ふ殉難者を作り上げることは當時考へてゐなかつたであらうし、又現在でも或は考へてゐないかも知れない。兎に角キャヴェル看護婦の銅像は、實に金剛不滅に突立つてゐる。獨逸人の殘虐を此世に記念すべく建てられてゐるのである。ところが史を按ずるに、彼女の死刑の後問もなく佛蘭西の官憲は、彼女と同様の罪科を理由として二人の獨逸看護婦を銃殺してゐるではないか。而かも此事を知つてゐた筈の獨逸軍にはその氣配すら見えず、獨逸のあらゆる宣傳機關が事の次第を叫び立てると言ふ事も無かつたのである。それは何故か！ 蓋しチュートン人の心は極めて嚴密に論理的である。就中その軍隊心理が然うである上に、獨逸の兵隊は當時見事に獨逸側宣傳の統制下にあつたからである。彼等の考へから謂へば、佛蘭西軍憲が當然悪い事をしてゐた二人の間諜を見付けてこれに命令ごほりの斷呼たる處置を下した

からさて、何も然らざる必要はないとしたのであらう。尙ほ當時の獨逸軍は、キャヅエル看護婦の銃殺に對して聯合國側が喧嘩を極めたのを、全く氣が知れないと思つたらう。予は右に『當時』と言つた言葉を強調したい。何故ならばその後いくばくもなくして、獨逸側の宣傳は若い貴族、士官の手を離れ、爾來一段と牙えた進歩を見せたからである。

三二

人道宣傳  
の影聲

扱て此のキャヅエル看護婦とかフライヤット大尉とか其の他の事件から作り上げた猛烈な宣傳は國志を煽つておく爲に必要だつたのである。之を以て吾々に有利な終局へ戰を運ぶ事が出来た。が不幸にしてこれが先例となつて、平和（これが亦いつも杜撰に使はれてゐるお芽出度い言葉だ）とか、政府の對外政策などに關する類似の宣傳の効果は左程有効にはならなかつた。寧ろ爾後數次の政府の歐羅巴の合同演奏の中から階調音を見付け出さうとする苦心を甚だしく妨害したのである。斯かる矛盾は、かの理想家の著名な一派が之を示してゐる。即ち彼等は國際平和の爲に大童の宣傳を始めたのは、いが、これが國內に向つては軍備縮少を叫び、而かも他の國々の中で最も強大で吾が假想敵らしい方面に對しては如何にも挑戦的に怒罵を放つたのである。（然し彼等の高い主旨は買つてやらねばならぬ、さもないと彼等の行動は何處から見ても反社會的であり且つ破壊的である）。之は實に奇妙な行き方で、特に驚く可き事はおよそ識見あり見聞の廣きを誇る男女が、全く彼等自身の宣傳の自己催眠に懸かつてゐたことである。然しこれをしも笑ふべしと言ひ去るには、餘りにも悲惨であつた。と言ふのは

理想家及び自稱外交の全部が、一齊に大衆に働きかけて彼等と同様の意見に改めさせる事に懸かつたのであるが、何ぞ知らん彼等が大衆の用に作出した事を彼等自身が信じてしまつたのである。さりながら彼等の活躍は實に宏大に亘り、その謂ふところは明晰を極めたので、數年間あらゆる宣傳機關は彼等の哀訴嘆願で一杯であつた。新聞の綴込を調べ、相變りませぬ顔觸れの署名入りで掲載される編輯長宛ての手紙の量を檢べると一目瞭然である。名前の賣れた連中の一團があつて、而して鳥の鳴かぬ日はあつても、大新聞の紙上に右の連中の一人なり數人なりの投書が載つてゐない日は無いと言つてもいい。時に依つては亦、先生方は平生思想的に信奉するところの『集團保證』を地で行つて、夫等の投書に十人十五人の連署名を爲し、署名の集團的威力を以て遮二無二掲載させる、と言ふ策を打つ事さへある。斯う言ふ種類の宣傳仕事を、その本來の姿に於て検討して見るのが適當であるが、茲では何等役に立たない。又そんな事をする、曾て今も同様に劍呑な事に成る。と言ふのは餘り詮議立てをして行くに遂には打突かる先が、國家と言ふ船の舵輪を握つてゐる航海の至難な部門に從ふ人と云ふ事に成つて來ると、ハムチー、ダムチーの言葉ではないが是だけ並べればもう『耳の傍へ持つて行つてはつきり怒鳴つて聴かせた』も同然であらう。

以上の事柄は、民主主義を奉ずる英國人としては専ら個人の自由に屬することである。然し戰時に於ては、それは正しく犯罪として訴へ得るものである。目下のところ肝心なのは、宣傳に携はる人達

三三

の最も罹り易く又最も致命的な疾病である、自己陶醉の危険を能く心に留めて置く事である。近頃大分その病が兆して來てゐる事を、宜しく悟るべきである。

眞の宣傳家は

では眞の宣傳家とは何を、誰を指して言ふのか？ 市俄古大學のラスツェル教授が一九二七年に書いた『世界大戰に於ける宣傳技術』なる書物の中に、宣傳は一つの職業に成つたと言ふ見解が述べられてゐる。教授は『現代の世界では、自分では何事もせず居て而かも他人の心を變へたり縛つたりして自分と同じ信念を有たせる方法を種々研究する者が、次々に目まぐるしく數を増して行く。即ち宣傳は目を逐ふて其の實行者を、その學者や指導者並にその學說を發達せしめてゐる。やがて政府のはうでも、職業的宣傳家の助言と援助に益々期待を懸けるに至ること必定である』と書いてゐる。扱て屢次の出來事に依つて明かにされた如く、一九一七年——一九二〇年の數年間最も重大視された宣傳は、爾後、強力爆發物や海上封鎖や扱ては毒瓦斯などと俱に、これを最後と打棄てられた戦争の恐怖の厭ふべき想出となつたのである。それは戦争中の高い地位から急轉落して而して、情報宣傳省で大いに御役に立つたお歴々はさつさつと手を洗つて夫々舊の古巢である動物學や政治、新聞界や將た又法曹界に立歸り、若くは大學なり軍隊なりに引込んでしまつた。此の人達の趣味や本職を斯う數へ擧げて見ると、つまりは鍊達なる宣傳家必ずしも職業的宣傳家である必要は無い事に成つて來るのであるが、右のラスツェル教授の言ふやうな本職宣傳家が吾國には滅多に見當らぬと言ふ事は、矢張り一

つの弱味であらう。現に獨逸に於ては斯る本職宣傳家がちやんこそれらしい制服でおさまつて、而かも小隊編制中隊編制と組織的にかたまつてゐるのである。今若し吾國のさゝやかな宣傳事務局でも何かに主宰させる必要が生ずるときは、さしづめ新聞人か、廣告關係の「實務家」、又は政界の世話役、陸海軍方面から適當な候補者を物色する事に成るであらう。殊に優秀な人物が陸海軍將校に多かつた事を忘れてはならない。成程新聞人と廣告家は有爲な宣傳家として使へるが、宣傳の指導と言ふ方面に成ると必ずしも優秀ではない。

理想的宣傳家は

曾ては、眞に偉大なる宣傳家は先づ自らする宣傳の精髓を自ら信じ込むべしなどと説かれた時代もある。言ひ換へると、其の人は目指す大衆に向つて意圖を反映させる前に、よろしく自分がそれに陶醉して懸かれ、と謂はれた。だがこれは、上に述べたとほり、予には信じられぬ所である。大體宣傳家と言ふものは、後から作られる者と言ふよりは生れつきのものでなければならぬ。孰れにしてもその論陣を張るに際しては一時的に夢中に成るのは結構であるが、全然目標とする處を見失つてしまふやうな事があつてはならぬ。予が茲で謂はんとする事の最適の例は、有名な辯護士連に求める事が出来る。彼等は何かの事件を抱えて法廷に這入ると、その仕事にすっかり夢中になるが、一旦閉廷して法服を脱いでしまへば、事件に對する個人的興味は殆んど持つてゐるか持つてゐないか位のごころである。而かも彼等は一度起つや常に毅然たる法曹家であり、判檢事連を動かすに足る有力な辯論者な

のである。斯かる資格に持つて来て更に宣傳のイロハ的修業を附加へるとすれば、先づ期待し得る理想的宣傳家に近い者が出来るであらう。

## 第二章 現在の状況

### (一)

大戦終了  
の宣傳

苟も將來戦に於ける宣傳の活動を評價しようと言ふ以上は、先づ今日宣傳が占めてゐる地位を多少とも詳かにして懸からなければ困難であるし、而して之を判断する爲めには勢ひ復た後へ立戻つて恰も大戦が終りを告げた一九一九年當時の事を糺して見る必要がある。されば暫くその頃の状況を、戦時宣傳を完全に了解した人々の觀點から考察して見よう。それまでの永い四年間と言ふものは、舊式宣傳の諸々の機關は専ら唯々自己辯護と憎惡の叫びとを奔流の如くにほとばしらせたのである。獨逸側は大童に成つて、自國民は固より、その同盟諸國民からあはよくば全世界の中立諸國民に對してまで説得これ努めて、或はロシア軍が東プロシアで殘虐行爲を犯したと言ひ、英國は非道にも海上封鎖を斷行して爲に吾が無辜の良民は飢餓に陥入れられたと謳ひ、たださへ唾棄すべき佛蘭西人いよいよ憎むべしとなし、將た新來の米人亦嫌忌すべきだと叫んだ。此の『憎しみの歌』も吾々の側から言へば曳かれ者の小唄と思へるもの、其處には當時としての實感が十分に表現されてゐるのである。佛蘭西側も、その國民の傳統的な憎惡心に油を注いで國民の戦意を持続せしめるに努める一方、希くは



他の國々をも引入れて『美しきフランス』を扱わせようと思つた。さて吾が英國民はと言ふと、これは然う急には憎惡の念を燃やし民族的僻見を固執しようとしなかつたが、結局さんざん使噓そのかされて、獨逸人はすべて無慈悲な野蠻人ばかりで、赤ん坊を磔にしたり、女を犯したり、文明的戦争の常規を悉く破壊する奴等だと考へさせられた譯である。これだけのお土産を残した上で、扱て戦勝國が寄り集まつて戦争が捨て、行つた塵芥の山を掃除しに懸かつたのである。其時の彼等の心算では、然うやつて敵味方いづれが眞の戦争の責任者であるかの問題を一舉に又徹底的に解決し、また戦敗國を國際法廷に召喚して、裁判官氣取りで戦争惹起者の烙印を押し付けてやらうと言ふのであつた。かゝる裡にも、互の敵對行爲は一應熄み、中歐兩帝國は和を乞ふたにも拘らず、例の封鎖の手は少しも緩められる事なく、たださへ食糧の缺乏してゐる幾百萬の男や女や小兒等を愈々困窮の底へ追ひ込んで行つた。而かも勝つたほうの側の諸國民はそんな事には一向お構ひなしで『戦争を失くする爲の戦争』の終幕を雀躍して迎へた。さるにても『戦争を止める爲の戦争』とは正しく盗人猛々しい呼號スガカではあつた。これも逆上して先の見えなくなつてゐた各國政治家が、本來正當に指導しなくてはならぬ國民大衆を欺瞞するために造り出したものである。

## 國際聯盟

かくて一方には怨恨と死の苦杯があり、他方には憎惡と祝典とがあると言つた雰圍氣のうちに、やがて新しき希望の灯がぼつりと輝きはじめた。その希望とは、特に讀者の留意を乞ふが、實は宣傳の

火でとほし油を注いだもので、即ち敵も味方もない人類全體の上に新しい時代が來たと言ふ宣傳、他に隸屬してゐる諸民族に對しその壓制者から解放してやるぞと言ふ時代の曉鐘が、それであつた。茲に、近づける新時代の象徴として夢幻の如くに浮かび上がつて來たのが、かの國際『自由』聯盟であつた。扱てその新時代の合言葉はと言ふと、例の民族『自決』である。これが亦お芽出度語の一つであつて、その意味する處は、如何なる小民族でもいい、道徳的にも經濟的にも將た軍事的にも曾て獨り立ち出來る程の資材を有つた事の無い弱小民族でも構はない、爾今は、アメリカ女學生が夫々將來の相手を勝手に決めさせて貰へる如く、自由勝手たるべしと言ふにあつたのである。そんな夢物語りでも兎に角虚無的な幻滅的な其の時期の事であつたから、不治の業病に悩んでゐる患者に何か新藥を服ませる程の効目はあつたのである。その考への發賣元たる名譽はウッドロー・ウヰルソンの占むる處であらうが、彼も死後に至つていやと言ふ程その責任を背負はされた。成程聯盟思想の口火を切つたのは彼れであつたが、磨つた揉んだの揚句決まつた其の形態は、所詮非獨逸諸民族を糾合して中歐兩帝國の味方を無くしようとする吾が英國宣傳省の宣傳で育まれたものである事も、疑ひの餘地はない。憎惡と犯罪呼ばはり正義云々の戦時宣傳がこつた返してゐる時に、ノースクリップが現はれて一層効果的な宣傳法を紹介した次第は既に述べた。即ち彼れの行き方は、公約であつた。將來に對する具體的な約束であり、責任ある政治家に依つて實證的に確言された約束であつた。さればかの不

運なる米大統領の机上空論よりも、寧ろノースクリップの仕事のほうが實際の働きをなして、戦雲收まりし後のかの夢幻樓閣の屋臺骨が出来上がったと言ふべきである。それにしても、吾人が斯様な新聖宣傳を發明したのも悪いが、例の類癡的な理想主義を謳歌した事も亦吾國が良くない。理想主義そのものが如何に印象強く且つ立派なものであつても、これが原因となつて過去二十年間どれ程誤解と葛藤を生んだ事か。しかも今日尙その留まる處を知らない有様である。

上述せる如くノースクリップは、宣傳大臣となるや、先づ第一に全力を擧げてオーストリア、ハンガリアの離間に努めたのであつた。次で獨逸を主たる敵國と見做して、これに向つて力を注いだ。此の宣傳の細かい作戦計劃は擧げてエッチ・デー・ウエルズに一任した。仍ち若し宣傳省が右の最初の宣傳戦に於て、能く西歐聯合諸國の對敵政策を闡明し得たとすれば、第二の宣傳戦に於ては英國宣傳省自體の對外策を宣揚し、これが聽て關係諸列強に依つて踏襲せられるに至つたのであつた。換言すれば宣傳が政策を指導したのである。一九一八年の春、ウエルズは、獨逸に對する宣傳方策の具體的計畫書を作つた。これが虎の巻と成つて、それからの事は多々益々辯じたのである。彼はその中で、宣傳の題目を形成するには聯合國側の明確なる政策が必要なることを斷言し、更に進んで斯う述べてゐる、『聯合國側の眞の目的は單に敵を撃滅するばかりではなく、世界平和を樹立して戦争の再發を阻止するにある云々。随つて獨逸國民に徹底せしむべき主要點は、

ウエルズ  
の計畫書

一、獨逸が聯合國側の平和提示を受諾するまでは戦争を繼續すると言ふ、聯合國側の決意。  
二、自由國家の參戰聯盟としての現在の聯合國側同盟が更に擴大強化されて、次掲の諸項實現を見るまでは、陸、海、財政より經濟上の諸資源に至るまで聯盟諸國の全力を傾ける、即ち

A、聯合國側の軍事目的が達成せられ

B、永遠不動の平和の基礎が確立される迄。』

尙ほウエルズは所論を進めて『随つてこれに續く必須事は、自由な國々の實際的聯盟の範圍を研究しこれを決定する事である』と言ひ、尙ほ此種公文としても絢爛に過ぎる程の豊富な辭句を並べて、以上の論旨を十二分に發展させてゐる。今日これを讀んで見ると、如何にも此著者自身が當時の吾國の戰時宣傳に浮かされてゐた事が分る。以下に掲げる一段の如きその適例であらう。『かの獨逸の指導精神が不純なる征服の利を計つてゐる間に、その獨逸帝國の支配の外にある世界の偉大なる諸民族は確實に協和への大道に向つて巨歩を進めて來た。獨逸がロシアの心情を搔き亂しこれを墮落せしめ、オーストリア、ハンガリアの帝國主義の隸下にある諸民族を更に蹂躪し、中立諸國に向つて或は巧言令色を呈し或は脅迫を加へてゐる間に、彼等が敵手とせる諸國民の心は自制と聰明とを掲げて人生のより高尚なるより偉大なる生面に向つて進んだ。此の世界を擧げての思念は、今や一連の文字の周りに集まつて結晶してゐる。その文字は何ぞや、これ即ち自由なる諸國の「國際聯盟」である』と。成

程これなら何處から見ても正札付き『人道の戦士』の言草に違ひない。而かも片手に捧げたものは、高尙極りなく、もう一つの手には下等至極なものを握つての宣言ではないか。

茲でほんの一瞬思ひを至して見れば、平和が回復したと言ふ單なる事實のために、かの憎惡の宣傳の結果が總て拭ひ去られたと考ふる事は、如何に杜撰であるかを悟る筈である。あれ程永い間の且つ熾烈な努力の結果の印象と言ふものは、しかく容易に除かれはしない。吾々は米國を除く他の主なる交戦國の孰れよりも、國內に戦禍の痕を残さず又直接その荒廢を蒙らなかつた點に於て、幸運だつたのである。吾々は生活資源にも恵まれ政治上將た經濟上安定せる諸條件の揃つたまゝ、早速勝利を慶祝する擧に出る事が出来た。爾來星霜二十年、吾人は殆んど脅威を受くる事なく、生活の基礎もいよいよ確立して、安穩に暮して来た。それ程幸運に恵まれてゐてさへ、尙且つ戦時宣傳の因果を絶滅し切れなかつたのである。それは成程此の廿年間と雖も、未だ間歇的にその宣傳が行はれ来たつたために、兎角後腐れの尾を曳いた點もある。然し乍ら外交問題に就ての一寸した會話を聽けば、就中海外へ出て働いた事の無い老人連中の會話を聽いて見さへすれば、如何に戦時宣傳の影響が強かつたかが分るであらう。將して然らば、それが敗者の側に於てより以上根強く喰ひ入つてゐまい等と憶斷する事の、如何に愚鈍である事か！ 蓋し平和の回復を祝福すべきは、敗者等の事ではなかつたのであるから、これを一方から言へば、祝福などする氣力も物資も直ぐには有ち合はせてゐなかつた。否その

後數年そんな餘裕は無かつた。また他方、これが殊に遺憾至極の次第だが、かりに彼等が平和を謳歌する氣に成つたところで、忽ち彼等が心付いたであらう事は、チエックやルウマニア又はセルブ若しくはクロアチア人の上に新しい希望の時代が開けても、彼等の上にはそんな希望は微塵もなかつた一事である。彼等は響き直る『民族自決』の鐘聲を聞き、ただに海外所領ばかりでなく、多くの彼等自身の同胞が有無を言はせず、彼等から奪ひ去られた。予が斯う述べる所以のものは必ずしも聯合國側の遣り方が悪いと言ふのではない。當時の政治家達も、それ以外にやる餘裕が無かつたのだと辯解することが出来たのである。即ち予が言はんとする處は、その事實と、並に戦時宣傳が獨逸國民に與へた置土産は單に憎惡ばかりでなく、聯合國側に對する不信の念もそれであつた事を指摘するに在るのである。

再び茲で、ウェルズ氏がその宣傳政策の綱領に於て謂つてゐる事を聽いて見よう。曰く『聯合國の意圖は何れの國民をも潰滅せしめんとするものではなく、正義と公正の確固たる保證に依つて民族自決を遂行すべき基礎の上に總ての國民の自由を確立せんとするに在る……斯くして聯合國側の戦争の第一目的は、獨り同盟聯合國の利益に於てと言ふばかりでなく、獨逸國民自體の利益に於て獨逸を改變することになつて来た。従つて獨逸は、現在の政府組織とその政策に膠着して自から永遠の荒廢に任かすか、或はその軍國主義的の制度を抛棄して以て聯合國側が企圖する世界建設に欣然參加する事

に依つて政治、經濟上の回復の見込を得るか、二者その一を選択せねばならぬ』(以上閣議は予が附けた)。ウェルズ氏は後段更に特記して曰く『反獨聯合國側の戦争目的は層一層、聯盟國家群の世界形態を確立せんとするに至つた。即ちその世界に於ては各國が共通の法律を遵奉し、相互の不和を最後の法廷に提出し、弱小なる社會を保護し、地球上より戦争の準備と脅威とを排除せんとするものである』。

四四

かくてウェルズ氏唱ふところの新時代の希望は、吾子の食を求めようとする狂亂してゐる總ての獨逸の母親の眼前に誘惑的に吊下げられた。但しそれが欲しければ彼女等は、自國の政治家の惡逆に依つてそんな無明の闇に突き落とされたのだと思ひ込む事、それから彼女等の良人が、戦線なり田畑なり又は工場より何處へ出て働いてゐるにせよ、熱心に口説き立て、聯合國側の自由主義に叩頭悦服させる事と言ふ條件付きである。而して人も知るごほり、一方斯くの如き手で攻められ、勿論それと相並んで海上封鎖の壓迫は益々強まり、軍事的悲況は甚しくなつたので、遂に獨逸國民はその指導者等を振り棄て、ホーヘンツォルン家の人々を和蘭に追ひ、鍛冶屋さんを大統領に仕立て、共和國を形造つた。然も蓋を開けて見たら宣傳の約束は全くの虚事なのであつた。その如何にも一杯喰はされた形は、まるで教會の異端檢察係りの口車そっくりである。頭を垂れて懺悔をして來た者は、汝は必ず赦罪を受けるであらうが、併し矢張り罰は罰である故に之れを先づ受けねばならぬ、ごやられたのであ

國際聯盟  
の宣傳

る。吾々としては吾々の意思に嘘詐りの無かつた事今更論を俟たない。随つて平和會議の席上あの様な政治的不可抗力に打突かりさへしなければ、かの宣傳の中で約束しただけの事はこちらとしても勿論果たしてやりたかつた。それは兎に角、獨逸の國民大衆は一團に瞞されたと思ひ込む外なかつた——又事實の上でも然う思ひ詰めたのである。吾々のはうの宣傳は彼等の拮抗を罷めさせるやう説得するための手段に過ぎなかつたと思ひ込む外なかつた。

だが彼是する裡に、聯合國でも此の宣傳に對して反撥した。予をして謂はしむれば、佛蘭西人と言ふものは世界中の如何なる國民よりも宣傳に乗せ難い國民であるらしい。全く以て彼等は倫理的に出來て居るし、且つ自己中心的であるから、此の自由國家の聯盟てふ極めて理想的のものを持つて行つても、兎角濫つてゐて直ぐには動く氣配も無かつた程である。彼等は、獨逸は彼等の仇だと先天的に教へ込まれて來てゐる。而かも戦争が此の觀念を一層強めたので、今や戦ひ終れりと成ると彼等の明らかな標語は決して『民族自決』等と言ふものではなく、即ち『勝者の誓ひ』であつたのである。故に一つの國家としての佛蘭西が、聯盟を時折佛蘭西の政策の有用な道具と認めた事は疑ひを容れないが、併し假令苟且にもせよ、此の「聯盟」を心から信じたか何うかは疑はしい。佛蘭西人に、これから先最早戦争が失くなる時が來る等と言つて聞かせたところで、それは徒勞であつたらう。實に彼等ほど現實派の國民は他にあるまい。

四五

然るに吾が英國並びにこれと何うやら似てゐる米國では、話は非常に違つて來るのである。これは双方とも、戦争の國內的經驗が割りに輕かつた事と、一つは國民性の然らしむることに依つて、それほど執拗に憎惡を有ら續けることなく、やがて段々と寛大な氣組みに成つて行つた。さればかの『カイゼルを絞殺せよ』と言ふ叫びなども、決して眞面目にとられなかつたし、又その内に吾國の商業上工業上の利益から然う賠償々々を獨逸を搾り上げて『骨の髄まで悲鳴』を擧げさせるのは商略上恐である事を悟つたのであつた。又他方に於て吾々は、新事の宣傳を作り上げてそれに熱中して行つた。惟ふに吾國としては有史以來はじめて、國を擧げての戦争に捲き込まれたのである。蓋し吾國が偉大な工業國と成つて以來、吾國の戦争と言へばすべて海外の事件であり、專問の戦争商賣の人達だけがそれに従事して來た。故に國民一般が戦ひに参加したのは、實に空前の事で、實に激しい經驗であつた。吾々は、夢々こんな事が再び起つては成らぬと深く意を決した。吾々はだから『戦を失くすための戦ひ』を戦つたのである。而して『世界の民主主義の安全』のために戦つたのだと訓へられた。若しあの戦後の大景氣に浮かされる事がなかつたならば、吾々は吾々の國を『英雄の住むべき國土』とする事を確と記憶してゐる筈であつた。仍で何でも彼でも『將來一切の戦争を防止し國際關係を改善』すると言ふ國際聯盟の希望を釣上げようとして、熱心に釣と絲と鍾りとを垂れたのである。その聯盟とは、曰く『新たなる世界を創造し……あらゆる民族の正當なる發展に機會と保證とを與へん

とする聯合諸國の決意に依つて』結成されたのである。之が肝心な條件の一つであつて、吾々はそれを新事の宣傳に盛り込んで、何とか元の敵方の國々の御機嫌を取結ばうとして懸かつた。吾々は此の宣傳を自分で作つて、自分から先づそれを信じた。而して専ら聯盟に頼つて、これさへあれば再びお倉に火が付きそうな戦争の不安を感ずる事はないと思ひ込んだものである。固より吾々も早急にそんな氣持を起こした譯ではない。國際聯盟協會その他の諸團體を通じて具體的に新時代の到來が宣傳されるに連れて、段々本氣に成り出したのである。幸ひにも此の宣傳は思つた程効果的に組織されて、おなかつたので、廣汎且つ執拗な割りには効果が遅かつた。

以上は全く文字ごほりの概要を述べたに過ぎないが、それでも、戦時の宣傳が一方困窮し擾亂された元の敵方諸國民の間に憎しみと疑心を植え付け、他方吾々側の寧ろ富裕な國々の民衆にはそれより幾分少ない憎惡と自己陶醉とを残して行つた趣きを、傳へ得たであらう。此の兩者こそ非常に注意すべき二點であつて、いづれも將來戦に於ける宣傳の進路に關係を有つて來るであらう。即ち前者あるがために吾々は、前と同じ敵を説得して今度も亦吾々の宣傳に悦服せしむる上に一段と困難を増すであらうし、また後者は吾々自國の輿論を建直して再び吾々の國是を支持させると言ふ問題を、一層複雑化するに至るであらう。

歐洲大戦の最も興味ある特徴の一は、その冒頭から主なる交戦諸國が、夫々自國の國民並に全世界の人の眼に何ぞか自分のほうに理分リブンがあるやうに宣傳で見せかけようとして、大いに焦慮の色を示した事である。帝國、共和國、殆んど上帝御國、民主主義國、即ちオーストリア、ハンガリア、ドイツ、ロシア或は英國、フランス、ベルギーが互に相競つて個人に呼びかけ大衆を率ゐよう努力した。此事が注目に價する所以のものは、蓋し一般に戦争と言ふものは、往昔から今世紀に至るまで、國と國との間の争ひを解決する正常の手段と考へられ、且つ此所が肝腎な點であるが、弱小國を踏臺にして自分の國の利益を増大するための正常なやりかた方法だと思はれて來たからである。そこで先づ吾々が想起すべきはかの南阿戦争の間、前獨帝がボア人の肩を持つて餘計な口出しをしたと言つて、英國内に憤激の波が湧き上がった事である。吾々の正常なる仕方に對して彼に何の干渉の權利ありや？とばかり大いに喧ましかつたのである。惟ふに、その方式が遵守されてゐた間は戦争も亦個人間の決闘と酷似してゐて、争ひを決する神事的な遣方だつた。又事實その頃までは總ての文明國は、まことに神士であつた！ 先づ、最後通牒に先立つて文書の交換がある。それから各自の大使召還、次で某月某日を以て戦闘行爲を開始すべしと言ふ宣言である。茲に戦争の舞臺面が整つて、登場人物等はそれぞれ袖に集まつて幕開きの柝を待つと言ふ次第であつた。此の式次は一九一四年までは立派に守られて來た。但し此時に成るさもう一つ段取りが加はつて來た。と言ふのは仇役かたやくの各自が、止むに止まぬ必要から今回の擧に出たと言ふやうな事を述べて、御丁寧な言譯の仕較べをやつた事である。やがて復た何處かで新しい物音がする。と響きの聲に應ずる如く年毎にその音が大きく成つて行くにつれて、各國は夫々自分が立てる新物の物音露骨な攻勢を揉み消すために競つて擴聲機に首を突込んで宣傳をやる。日本の滿洲國に於けるもそれである。尤も此の場合には擴聲機で怒鳴り立てるやうな事はせず、その辯解の辭も寧ろ消魂しい機銃の音に隠されて何か曖昧姑息な事を並べたに過ぎなかつた。それから伊太利は、ワルワル地方を分捕つて置き乍ら、其處のアピシニア土人から如何に侮辱と害行とを受けたかを、世界中に訴へた。次で再び日本であるが、今度は大聲叱咤して支那の非道に對する聖戰の本義を宣揚し、支那をして假令民主主義の安全のためとまでは行かぬにしても文明諸國の爲に安全な國土たらしむると言ふ美名に隠れて、これを日本の膝下の貯藏所にする戰に理窟を付けた。(スペインの國內でも兩方の側から天下に訴へる處があつた。但し各々が政治思想をかざしてゐるだけに、一層理詰めでもあり効果的な言分でもあつた。)かくて辯解と正義宣揚の宣傳は、舊い方式が消えて失くなるに隨つて愈々喧びすしく成つて來たのである。されば政府が曾ては慣例を尊重した戦争、次いでは大騒ぎをせずに始めた戦争が、段々變つて遂に相手國に對する宣戰布告を省略してその國

れぞれ袖に集まつて幕開きの柝を待つと言ふ次第であつた。此の式次は一九一四年までは立派に守られて來た。但し此時に成るさもう一つ段取りが加はつて來た。と言ふのは仇役かたやくの各自が、止むに止まぬ必要から今回の擧に出たと言ふやうな事を述べて、御丁寧な言譯の仕較べをやつた事である。やがて復た何處かで新しい物音がする。と響きの聲に應ずる如く年毎にその音が大きく成つて行くにつれて、各國は夫々自分が立てる新物の物音露骨な攻勢を揉み消すために競つて擴聲機に首を突込んで宣傳をやる。日本の滿洲國に於けるもそれである。尤も此の場合には擴聲機で怒鳴り立てるやうな事はせず、その辯解の辭も寧ろ消魂しい機銃の音に隠されて何か曖昧姑息な事を並べたに過ぎなかつた。それから伊太利は、ワルワル地方を分捕つて置き乍ら、其處のアピシニア土人から如何に侮辱と害行とを受けたかを、世界中に訴へた。次で再び日本であるが、今度は大聲叱咤して支那の非道に對する聖戰の本義を宣揚し、支那をして假令民主主義の安全のためとまでは行かぬにしても文明諸國の爲に安全な國土たらしむると言ふ美名に隠れて、これを日本の膝下の貯藏所にする戰に理窟を付けた。(スペインの國內でも兩方の側から天下に訴へる處があつた。但し各々が政治思想をかざしてゐるだけに、一層理詰めでもあり効果的な言分でもあつた。)かくて辯解と正義宣揚の宣傳は、舊い方式が消えて失くなるに隨つて愈々喧びすしく成つて來たのである。されば政府が曾ては慣例を尊重した戦争、次いでは大騒ぎをせずに始めた戦争が、段々變つて遂に相手國に對する宣戰布告を省略してその國

の市民の頭上に爆弾を降らせつゝ、例の辯明を放送するといふ戦争になつたのである。かゝる間に多くの軍事評論家等は眞面目に『無警告急襲』作戦の可能性を研究してゐるのである。その『急襲』たるや、不意を襲ふのが建前であるから、宣戦布告の儀禮を省くばかりか焦眉の急たる動員をさへ略してしまふ底のものである。即ち爆撃機隊は通常の飛行訓練からそのまゝ爆撃任務に飛んで行くであらうし、軍隊は練兵場から直ちにトラックで運ばれて隣接國に侵入することになるだらう。出掛けて行く軍隊も後に残された一般國民も、いよいよ事が始まるまでは何が起つてゐるかを知らぬことゝならう。

五〇

大戦の結  
果と獨裁

だが吾々は此等の事實を悲しむ暇に、その下にはもう一つ大戦の置土産が隔世遺傳的に現はれてゐる事を知らなければならぬ。即ち大戦後、獨逸、露西亞、伊太利、土耳其等の國々が陥入つた疲弊と廢頽の状態と、此の戦争は民族の戦争であつて唯に軍隊の戦争ではないと、當初から激甚を極めた宣傳が結附いたものから直接に獨裁國家が生れたのである。それは單に事實を説いたものが段々と發展して行つて、遂に戦争は全國民を擧げてこれに従事しなければならぬものと言ふ、一個の必要條件にまで成りつたのである。だが斯かる事は考へるまでもなく、人間の本性に反すること、スラヴ民族やチュートン民族の本性にさへ反してゐる。前者は餘りに諦めがよく且つ宿命論者であり、後者は餘りに嚴格に訓練され過ぎてゐるが故に、佛蘭西人や英國人のやうに個人の自由を尊重するといふ

ことはない。ところが余の觀る處では、自由とは物資が十二分に皆に行き渡る社會、實際何人にまれ好きな事に手を染めて好きなものが獲られ、その獲たものを何う使はうと社會の安寧秩序を危からしめる事がない社會に於てのみ有り得るのである。其處に始めて個人の自由があるのである。即ち民主主義は——と茲で再び今日一般に使はれてゐる意味で用ひるが——たゞ富裕な國家にのみ適した政治形態なのである。一旦國家が貧困に陥入り若くは富が極小數者の手に蒐められて、物が十分に行き直らないと成れば、執るべき道はたゞ二筋であり其の双つ乍ら獨裁主義に赴く外はない。その一方であり且つ昔からありきたりの道は、革命であり、暴徒政治であり懸て混亂であり、遂に何人か強力者が現はれて秩序を建直すのである。その二は一人の強力者に一切の權能を任せ、其の一人が食糧の窮乏を甯ほし、各人の仕業を定め、革命の同類である濫費や破壊を防ぐのである。ロシアは第一の例であり、獨逸は第二の場合である。されば現代史上列強と呼ばれる國々を見渡すに、貧困なる民主主義を見ず又豊饒なる獨裁主義を知らずである。扱て大戦が全體主義國家を生んだものとすれば、これを成育せしめたものは宣傳の力であつた。抑々獨裁者たるの眞骨頂は、決定した事柄を直ちに實行に移し得る處に在るのである。絶對の權力を有つてゐるのであるから、大抵の事は實力を後ろに控へての命令に依つて取行ふ事が出来るのであるが、併し斯る行き方は懸て災害を招くものであらう。そこで、一九一四年に於て各國とも輿論への關心を示した如く、今日の獨裁も若し功を成さんとするれば

獨裁と宣傳

五一

國民大衆を道連れにしなければならぬと言ふ事を知つてゐるのである。一定の永い期間に亘つて大衆を壓制する事の不可能なる、また假令短期間でもその事の至難且つ不確實なるは今更言ふまでもないが、さればこそ、決心と實行とが次々に素早く實現される事を本旨とする獨裁政治に於ては、一般國民がそれにつれて敏捷に動く事が肝腎と成つて来る。曾てポールドウケン卿が民主主義の根本的缺陷なりと嘆じたやうな、輿論結實の緩慢さなどは、以ての外のことである。全體主義の國民たるものは、單に黙従するのみではなく、かの軍曹殿の語を籍りて言へば『それに飛び付いて』行かなくてはならぬ。彼等の總統にして今こそ即時國家の總動員を要する秋なりと斷じたなら、社會全般を擧げて直ちに動員に移らねばならない。然るに斯う言ふ事は、平常から絶えず宣傳に努めて十二分に用意させて置かなければ彼等と雖も寸刻の躊躇なしに行ふと言ふ譯には行かないのである。或は事態緊急とあれば實力を發揮して、拒む者を強制し懲する者を叱咤し得るであらうけれども、矢張りこれを事實に即して見れば、現代の獨裁主義國家は夫々の國民の大多數の同意の上に立つてゐるばかりでなく、その積極的協力に俟つてゐるものである。又それだけでなく、世界に於ける文明諸國の半數以上に亘つて此の主義が根を張ると言ふ譯には行かなかつたであらう。

獨裁國の  
實狀を認  
識す可し

吾々としてもよろしく十分此の事實に鑑みて、次の戦争に於ける宣傳に對して善處を期したいものである。現下のごとく何うも吾々は吾々の假裝敵が壓制者の鞭の下に喘いでゐて、今にも叛く機會を

狙つてゐるかのやうに獨り決めに考へてゐる傾向がある。吾々は兎角、獨逸の勞働者が蔑視され頭ごなしに決め付けられ、喰ふや喰はずの状態に置かれてゐると推測し、又日本の農民はそれにも増して難澁を極めて居り、残忍なる迫害の裡に在つて只管赤貧に耐へてゐる、などと臆斷する傾きがある。されば或は論じて、民主主義政體の下に在る個人が如何に繁榮し如何に豊饒な食糧を興へられ、如何に言語と行動とに自由を極め、殊に言語のはうは如何に言ひ度い事が言へるかを一且知らしめられたらば、此の兩者とも最早各自の支配者を支持しないであらう、などと謂ひたがる。要するに、曰く目獨いづれも漸次吾々の熱烈な言葉で表現された希望の宣傳に應じて、遠からず彼等の指導者等を見棄てるであらうと。斯る夢を見るは自分の希望を信じる事であるが、同じ信じるにしても見當違ひも甚しく劍呑極りないものである。

それは成程、獨逸や伊太利や日本にも不平不満の底流はあるが、それは自由であらうと拘束されてゐようど孰れの國にもある事で、吾國にさへ不服は潜んでゐるのである。教養があり自由な氣持ちを有つた獨逸人、伊太利人、日本人の中には、明けても暮れても行列だ大會だ獅子吼だとか、制限だ禁斷だとか、その他の凡らゆる獨裁政府の七つ道具に消極的嫌忌を感じてゐる連中も多い事であらう。然し乍ら惟ふに、斯かる感情は程度之差こそあれ、何時如何なる時にもあらゆる國の自由人等の間に存在するものであることを認めねばなるまい。扱て此の外にもう一つ厄介な集團がある。これは團體



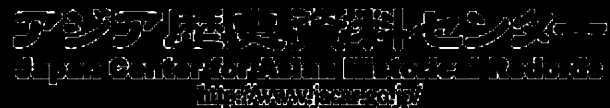
と言はむより寧ろ強力な組織と言ふべきであらうが、例の共産主義の細胞組織である。此のはうは何處まで行つても失くならない本當の、離間中傷の根源であるが、と言つて又こんなものを重用する譯には行かない。固より共産主義を利用すれば、その宣傳と煽動とに依つて多少は獨逸顛覆の助けともなるであらう。併しながら然うする事はやがて吾國自から同様の目に遭はす所以である。何となれば政治的共産主義者の狙つてゐる處は、吾々の内二者一方の勝利ではなく、双方の崩壊であつて、然うして置いて世界革命を實現させようと言ふのである。之を要するに、若し吾々が獨逸、伊太利若しくは日本に對する宣傳の遂行に成功したければ、むしろこれからは河岸を代へて懸からねばならず、全體主義國家と言ふものは案外確かりと其の國民の心と言葉とに結び付いてゐる事を、承知して懸からなくてはならない。

以上三つの國の制度は孰れも甚だ強大で容易にそれを揺り動かす事は出來ないと言ふ事は疑ひの餘地が無いのである。それは何故であるか？蓋しかの國々は、個人的見地からはいざ知らず、國家的見地から見ると、全體としては實に異常な成功を示し來たつたからである。

「文化の英雄」

獨逸に於ては、かの「總統」は既に『文化の英雄』の地位を掴み得たと言つて間違ひなからう。これは曾て、彼等が群生してゐた蒙昧の天地に法と秩序と有用な技能とをもたらしたと信せられる面々に對して、神學者共が贈呈した名前である。J・A・Kトムスン教授の書いたものを見ると、『斯かる英

雄等は特別な眼を以て眺められ、彼等に對する畏敬の念の大小が彼等が必要とした程度を示すものである』とあり、其處にプロメセウス、シャルルマーニュ、アルフレッド、ソロン、ヌマ・ポムピリウス等の名が引用されてゐる。教授は進んで斯うも述べてゐる、『此等の名前には必ずそれぞれ獨特の物語りが附隨してゐるが、その所以は如何？ 他なし、到底勝算無しと見ゆる混亂及び夜と戦ふ人民にとつて、施設と法の防衛と秩序の維持は最も英雄的な仕事であると思はれたのである。又事實さうであつた』と。吾々は仕合せな事には、安全に、一定の法の支配の下に、何處に於ても崩される事なき秩序の中に暮らしてゐて、且つこれ亦有難い事には、經濟上の混亂をも政治的の夜をも知らざる事茲に數世紀に及んでゐるため、今更そんな物語りめいた列聖加入などは了解に苦しむところである。だが分らぬからと言つて、然う言ふ事實を否定する譯には行かない。ナチスムと其の仕事とを今日嫌つてゐる獨逸人も、その大部分は矢張り國家緊迫の秋に遭へば「總統」のまはりに蝟集するに躊躇せぬであらう。何となれば彼等も亦『混亂と夜』とを嫌ふものであり、總統は亦其處から出發して指導者たる偉材を世に示したのであるから。嘗にその大器たるを證したばかりではない、彼れは其の事を日夜を措かず組織的宣傳に依つて、絶えず大衆の耳に叩き込んでゐるのである。曾て青史に名を刻んだ『文化の英雄』は、時の流れとお伽噺の堆積とに連れて、今や漸く大寫しに成つて來た。即ち今日のクルチニコ・ヒロたる、ヒトラー、ムッソリーニ若しくはアタチュルクは、宣傳の力に依つて吾々の眼前に



卒然と大きく見えて来たのである。だからと云つて此の『文化の英雄』は實際に強力でない譯ではない。何故なら予が墓にも指摘した如く、眞に成功する宣傳は事實の上に基礎を置かなくてはならぬのであるが、此の場合は英雄の業績が事實なのであるからである。

扱て以上の事を基として、茲に問題となるのは、獨逸國內に於ける不平分子へ指向すべき宣傳と言ふ事である。此點に關して先づ吾々が記憶して置くべきは、その連中も固より獨逸民族の血を受継いでゐる事、隨つて國家の非常時局に際しては、たとへ其の政府に對して何と考へてゐようとも彼等の義務は國家に盡す事であると、改めて考へ直すやうな人間は尠いと言ふ事である。將來どんな事が起らうとも、彼等に祖國愛を呼び醒まさせるべき先賢偉人に事は缺くまい。獨逸政府の宣傳機關も、必ず其邊を狙つて行く筈である。吾が英國のエリザベスは、吾々の十分記憶してゐるとは、公教信者たる人民を隨分辛辣な宗爵に處した。而かも一旦公教國スペインの脅威を受くるや、英國内の公教信徒等が起つて彼等の君主の周圍に集まつたのは、由來吾國の國家的矜持の一つと成つてゐる事柄である。而してその信徒の一人たるエフンガム縣出身のハワードが、吾が艦隊の指揮を執つて、スペインの無敵艦隊を撃破したのであつた。されば吾々として、獨逸人が吾々ほど愛國的でないといふ決め込む理由が何處に在りやである。而かも吾國の知識階級は、ブルームスベリーの碼尺で此間の事情を度つて、向ふ側の獨逸國內の同志等も英國に於ける彼等と同然、戰爭勃發の場合は祖國に弓を引くであ

對獨逸傳  
上の注意

らうと言ひ張つてゐる。予と雖も、革命を作す者はいつも知識人等である事は認めてゐる。かるが故に獨逸の知識階級を鞭撻して、反政府の宣傳をなさしめる如きも、その時を得ればこれ亦良い兵法ではあらう。だが今は未だその時機でない。また餘程永引く戦争でも起つて、民衆の心にその指導者等の不撓不屈の力に對する疑念が起つてでも來ない限り、そのやうな時機は來ぬであらう。序でながら此邊で留意して置くべきは、宣傳と言ふものは大衆の心に十分觸れてこれを動かす處まで行かなければ成功したとは言へず、それには先づ第一に知識階級の心緒を捉へるやうに繰返し指導されなければならぬ、と言ふ事である。知識人がうまく乗つて來れば、あとは彼等が宣傳の趣旨を體して、大衆の中の主な團體にそれを受け渡して呉れるものである。

(三)

對獨逸傳  
の効力

予が上來説述し得たかど惟ふ處は、要するに、獨逸國家を提げて立つヒトラーの叩き落としや、或はその政體の變改を狙つての宣傳と言ふものが、次に來たるべき戦争の初期に於ては到底成功の望なく、むしろ獨逸側が吾がジョージ六世に向つて惡聲を放ちそのため英國人の忠誠の念に累を及ぼしたり、又は吾國の政體に對する獨逸側宣傳に動かされて吾が皇室なり議會政治を放棄したりする恐れのはうが多からう、と言ふ事を示すためのものであつた。吾々が左様な宣傳をしたところで、ヒトラー

が輝しい指導者である限り、つまりは下らぬ侮蔑に過ぎぬであらう。今や彼等は、獨逸國民を塗炭の苦より救出し、且つ彼等をして失地回復の夢を抱かせたのである。ただ、將來彼れがその欲求する國に手を伸ばすにあたつて、紅海が邪魔に成るやうな都合であつたなら、言ひ換へると彼れが遂に戦争に訴へる決意をなして而かも短時日の間に戦果を収め得ぬやうな事があれば、話は其處で變つて來るであらう。但し然うなつた曉でさへ、獨逸側宣傳が自國側諸國民に及ぼすべき力は極めて強大であつて、飢餓と戦力の喪失が愈々深刻の度を加へるまでは、吾々の宣傳が利いて「總統」なり彼の政體なりを打倒し得るとは期待出來まい。扱てこれを日本に就て考へるに、これは尙更齒が立たない。何ぞなれば、かの 天皇が現神的性質を有つてゐるからである。茲に唯一人、上古以來の民を生成統轄して來た「天孫」の裔が居るので、よし國民一般の感情がその政治的指導者等に對して沸騰する事はあつても、宣傳に依つて『天の皇子』の皇位を傾けさせる等と言ふ事は出來ない。

此の外認識を深めて置かなければならぬ第二の事柄があるが、それは獨逸系民族に對する獨逸側宣傳の驚嘆すべき成功である。此の成功の統計的證左は、例のザール地方の人民投票に於てこれを觀る事が出来る。それから程度は一寸下がるが、獨逸合併の時も然り。その外獨逸國外に在るチエートン系住民が示す處の、旺盛なる民族意識にも、亦極めて印象的な標識を看取出来るのである。ところで茲に注目すべきは此の獨逸國外に在る獨逸人に行き亘るやうな宣傳をするのは、何も國家社會主義政

對日宣傳の効力

獨逸民族に對する宣傳の宜

體が元祖ではないと言ふ事である。既に夙く一九二七年に於て「在外獨逸人協會」は、獨逸國內及び諸外國に於て百五十に達する支部を有し、特にオーストリア、シユレスウキツヒ、ザール、ダンチツヒ、チエコスロヴァキア、ポーランド、チロル並にダニューブの諸地方及びその他の海外各地の支部は最も組織化されてゐると稱してゐるのである。其の當時ラスウエル教授は、これに就て『以上の協會はすべて、文化的團結の感情を保有せしめるために存在し、而して一旦有事の際にはそれ以上の必要に應ずるものである』と記してゐる。(傍點は予が附した)。だからしてナチスは、ただ此等の協會に對して前進の具體的な政策を與へて、これを強化したに過ぎないのである。それにしても獨逸が斯くする事に依つて例の『民族自決』の原則を實踐に移し、且つ曾ては力を以て奪ひ去られた彼等の所領の取戻しを宣傳と言ふ手段に依つて實現してゐる事實の中には、何か知ら皮肉を極めたものが存するのである。寔にそれは皮肉な話であるが、而かも嚴とした眞實である。されば、右の人民投票が九十九パーセントの好実績を挙げた事をしも、大衆の自己陶醉に添ふるに力の脅威を以てしたお蔭だと説明し去るとすれば、それはやがて獨逸側宣傳の成功を裏書きする以外の何物でもないのである。蓋し一面力押しで行つたかも知れぬが、それは大衆の自己陶醉に何等關係しなかつたからである。惟ふにナチの宣傳家達は、昔のロマン・キャソリック僧の故智に倣らつて、竿頭更に一步を進めた。キャソリック僧の改宗律訓には曰く『小兒が生まれたら七歳までの内に吾が手に與へよ。然らば其兒を生涯カト

リツクたらしめん』と。それをナチの宣傳家は曰く『吾人は搖籃のうちより小兒を取り上げ、而して彼れの一生を國家社會主義の原理で固めて仕舞はう』と。彼等は全國青少年を教ふるに、如何なる宗教上の訓練の形成に勝ることも劣らぬ程の熱意を以てして、獨逸國家社會主義で宗教を説き、何よりもこれを第一眼目となし、その爲に精魂の全部を捧げしめてゐる。ところで中世紀に於て、聖ドミニック派の運動を抑へてジュダイスムに改めさせようなどと計らうものなら、先づ飛んで火に入る夏の虫である事に誰しも異存を挟む者はあるまい。そんな事をすれば、早速例の黄色い地獄衣を着せられて火焙り柱へ追ひ上げられるに決まつてゐる。また今日の世の中でジュスイット教團にカール・マルクスの理論を吹き込まうとしても、それは餘計な暇潰しに了るであらうと言つても、恐らくそれに文句を付ける人間が多勢出て來ようと思はれない。いづれ劣らぬ馬鹿氣切つた話だからである。而かも馬鹿氣てゐると言へば、民主主義の金持ち連が國家社會主義の國に向つて自由と食糧を好餌とする宣傳を吹懸けるぐらゐ笑止千萬な事があるであらうか?! 予が見渡した處、現下の狀況では、これ以上の愚は無いと思ふ。であるから吾々は何を措いても先づ最初に、獨逸の宣傳に於ては民主主義國はその富の故に物笑ひにされてゐる——伊太利の宣傳に於ても程度は少いが同然である——と云ふことを記憶して掛る可きである。即ち民主主義國の富はユダヤ人に支配されており、その結果道義心も鈍く腑抜けた相好に陥入つてゐるのだ、と極められてしまつたからである。現に獨逸の勞働者達は、

一面に於て例の『歡喜の底から湧く力』の運動に加はる一員としての新しい感激に燃えつゝ、他面國際的資本家共に擄取され、隨つて愛國心も國民的矜持もない骨抜きにされてしまつた英國の慘めな勞働者達を存分に見下してやれと教へられてゐる。だから英國の勞働者等が罷業を行つて自分等の取り前を増やさうと計るやうな、如何にも公共精神に乏しいのも不思議はないと見られる。何故ならば獨逸では、罷業を武器とする事は、社會全般を路臺にして局部的の利益を進めるだけの話だと訓へられ、何よりも先づ國家を神聖視せよと教へられてゐるからである。

左様な次第であるから、若し吾々が獨逸に對して今度食糧に關する宣傳を進めるとすると、それは本末顛倒だと言はなければならぬ。假りに『汝のナチ組織を棄て、デモクラシーを奉せよ。さすればバタ無し、卵無し、或は減食の憂目を逃れて、存分に喰べらるべし』などと言つて見たところで、何の役にも立たない。早速竹箆返しに『俺達は食に飢え道義も衰へたからこそ、獨裁者を戴いたのだ』とやられるであらう。決して『俺達は獨裁者を有つてゐるから、壓制され餓えてゐるのだ』とは應へて呉れない。伊太利とても似たやうな言葉で應酬するであらう。予の考ふところでは、此の二者の見解の相違は、一方が極端に理想主義的であり一方が又甚しく物質的である事に存する。抑々獨裁政府は民族の理想に従つて、節食の必要と規律の必要を認むる事に依つて、その實績を擧げてゐる。然るに民主主義政府のはうは、そのやうに明確に表現された理想は有たず、ただ國民各個人の物質的生活

の豊富を約束してゐるばかりである。彼の獨裁者は國民に叱呼して、腹が空つても緊禪一番して信を國家の將來に繋げと言ふ。民主々義國の政治家は、國民に對して今日の安逸を與ふるに追はれて、連も國家の將來の事など考へさせる暇は無いと告白する。予は考ふる處あつて特に此の相反する双つの狀況を示して其の精神を指摘するのである。而して予の解する處に隨へば、現在の狀態に於て及び獨逸の指導者等が國家の將來に對して巧みに右の信念を保持せしめて行く限り、獨逸精神は外部からの宣傳に乗せられざる點に於て吾國より遙かに勝つてゐる次第である。かくて一旦緩急あるに及んでは獨逸民衆の精神は、曾て一九一四年に於ける場合よりも一層英國人の精神を凌ぐであらう。而かも當時は、獨逸國內にも組織的な有力分子にして、時の政府を積極的に忌避せぬまでも、公然と冷淡な態度を持つるものが多數あつた。他方、英國に於ては現在以上に深く且つ活動的な國家意識があつた事も、亦異論のない處である。而して爾來二十年吾國土は必ずしも、平和なら何でも御座れの連中はいざ知らず、少くとも國際聯盟を通じての平和を提唱せんとする宣傳家達の温床とはならなかつたのである。

扱て伊太利も獨逸と同様に、大戰と共產主義のため陥入つた『混亂と夜』の間の中から、ムツンリーニ其の人の努力と啓蒙とに依つて救ひ上げられた。彼れは嘗にその國內に秩序を齎し海外に一帝國を樹立したばかりでなく、伊太利をして曾て知らざりし衿りと信念を抱かしたためたのである。即ち

伊の狀況  
難易の

予が曾て耳にした觀察を引用すれば『彼れは三等國を取り上げてこれを二等國と爲し、一等國だと世界中に信じさせた』。實に此の伊太利こそ、現代全體主義の創始者なのであるが、併しその原則を嚴密に或は徹底的に適用してゐないことが特色である。仍つてナチ若しくは日本の帝國主義組織に於けると比較すれば、ファシスト國家の中には自由主義の分子が尙ほ一段と残つてゐるのである。とは言へ善良なるファシストは、彼等の『文化の英雄』の定めた信條に依つて、民主々義は心情墮落し何處から見ても物質的なものであるから、古代ローマ帝國の使命を双肩に擔ふ可き若き黒襦衣の士は、そんなものを信じてはならぬと教へられてゐる。其の上伊太利は、曾て大戰中及びその後に於て英國と佛蘭西のために餘儀なく歩まされたと稱する苦難の途から、未だ完全に脱し切れないのである。されば大戰後に生じた反民主々義の偏癖があるばかりか、これ亦戰爭の遺産たる怨恨が残つてゐる。而かも今尙ほ英語を國語とする諸國民は、獨逸に對するとは異つて伊太利を高く買つてゐない。隨つて伊太利が今日如何にその帝國を誇示して見せても、相變らずイタリー乞食視されてゐる。獨逸人でさへ伊太利人をなさない奴と思つてゐるのである。如何なる指導者が現はれたとしても、わづか二三十年位の間に一國民の外貌と性質とを變へ得るものとは、到底信じられまい。成程落魄に慣れた人間を掴まへて懇々と言つて聞かせて、元氣づけて業に就かせ、十分の食を攝らせ且つ身装りを整へさせて、自信のある態度を有たせる事は出来るかも知れない。だが、それでも底のはうには、尙ほ

昔の劣等感が残るに違ひないのである。伊太利人が恰度それである。元來民族の先天的特質は生得のものであつて、たとへムツソリーの大器に加ふるにミシユザレムの神翼を備へたほどの獨裁者があつたとしても、能くそれだけの淘汰薰育を成し遂げ得るものではあるまい。併し他方に於て、ムツソリーニが伊太利人を個人としても集團としても向上せしめたことも疑ひなき處である。されば次の戦争にあつて、伊太利人はいづれも熱意を以て其の指導者に追隨するであらう。だが茲に尙ほ紛らしさが残つてゐる、と言ふのは、激しい反民主主義且つ反英主義の覆ひを一枚剝いで見ると、其處には眞剣な親英感情の血が多分に流れてゐるといふことである。目下のところでは、斯る親英感情はフラスシスト官邊の宣傳の下に埋もれてゐるが、それでも依然として存在してゐる。最後にもう一つ、嚴正なる經濟的考察による大きな影響があり得るのである。故にこれを要約すれば、伊太利と言ふ國は獨逸と同じ全體主義信奉の旗幟を掲げて居り、同じ尊敬を以て其の指導者に對して居り、獨逸ほど有頂天に成つてはゐないにしても眞剣さに於て決して譲るものではないが、併しフラスシスト中に僅少の自由主義的色合のあること、英國に對する友愛感が或る程度隠されること、は、全般の状況を著しく變ずる要素と成り得るのである。仍ち伊太利と言ふ國は、宣傳家に於て日本や獨逸ほど難かしい問題とは成らぬものである。

扱て日本人は如何と言ふに、かの國家尊信の念は決して近々に始まつた偶像崇拜ではなく、實にそ

の源を遠く古代史の奥に發する傳統的宗教なのである。隨つて吾々に於て、それを理解する事いよいよ困難であり、宣傳を以てこれに迫る事は更に一層困難である。その上、迫つて行くにしてもその道程が迂餘曲折を極めてゐる。その第一の理由は、日本人が東洋の國民であつて、その心の動きを讀み取るなどは西洋人に於て全く出來ない話であるからであり、又第二の理由は彼等の最新式の工業力と軍備とに拘らず、その政治的發展の度合が未だ初步的であるからである。彼等は、その點でより高度に發達した西歐國民には背負ひ切れぬ程の困苦缺乏をもちつと耐へて行くであらう。のみならず彼等と呼び懸けるべき抑々の手筈が非常に難かしい。蓋し彼等は西歐諸國の圏外に立つてゐる故に、吾々が據つて以て宣傳の資となすべき比較の尺度が彼等の近くに無いからである。

以上獨逸並に日本の地位が目下非常に強いものである事を論ずるにあつて、予は特に注意して強調的な形容詞を用ひた。兎に角その現在の地位は鞏固であり、その土臺は爾かく深い處まで掘り下げられてあつて、而かも不斷の宣傳を以てその支柱と成してゐる次第であるから、將來戦争の場合吾が方の宣傳に依つてこれが忽ち揺らぐものと思へるのには怠慢である。何等かの事態の下に苟も宣傳を以て敵を壓倒するに於ては、それは潑刺として信念に富む敵に對して望み得る事ではない。そんな効果があると思つてはいけない。敵が次々に有利なる戦果を記録して列聖殿に懸け連らねた寫眞へ月桂樹などを飾つてゐる裡は、而してその國民の希望が愈々高調に保たれて行く限りは、此方の宣傳は

全體主義  
の危険

幾ら呼びかけて見たところで振向いても貰へないのである。但し漸く敗戦の報道が、たとへば官邊の嚴禁を犯して外部へ洩れはじめて來ると、また何れの病院も負傷兵が充滿し或は彼方でも此方でも遂ひに歸らぬ者達の噂が積み重なつて來ると、又敵機の群が國內都市の上空を爆音を轟かせて飛び交ひ、それ等の都市を廢墟にせしめるやうになると、扱ては食糧の供給が愈々細り減食がお定まりと成つて來ると、そこで始めて宣傳家待望の機會が來る譯である。かのノースクリップの仕事も戦争が三年半も経過してからはじめて行はれた事を記憶せねばならぬ。また予が曩きにも述べたどほり、彼れの成功の大部分は（よし其の決定的な部分ではなかつたにせよ）彼れが如上の心理的好機に乗じて相手に一撃を加へた事實に基くものである事を忘れてはならない。宣傳は如何なる時にも特むに足りる攻撃武器であるが、致命的効果を擧げるのは疲弊した敵に對してのみである。若し茲に將來戦が起こつて、それが長期に亘り遂に獨逸及び日本の國民がその指導者等の措置にして機宜を失へるものなきやを疑ひはじめの事ありとすれば、その時こそ彼等の今日の強味が却つて彼等に仇するものと成るであらう。即ち彼等の宣傳が強力なものであつただけに、それが轉じて一層彼等にとつて危険なものに成るであらう。今ヒトラーの言を藉りて見ると、彼は「宣傳が本旨とする處は、或る國民に對して或る理論を強制する事である」と言つてゐる。而して彼自身及び宣傳相ゲッベルス博士並びに獨逸政府の各當路者達は、見事にそのどほりを行つて來た。だが宣傳を斯ふ言ふ風に須ひる事は、當然また國

「知らし  
めず」主  
義の危険

民に何も彼も知らせず置き言ふ事にも成りはせぬか、その邊少くとも議論の餘地があるであらう。而して此の民をして知らしめずは、宣傳家側の見解に依れば、國民が與へられた理論をそつくりそのまゝ呑み込む事を肯ずる上に於て、却つて何等かの障害に成りそうである。人は疑ふであらう。立派な一人前の男女をそれ程小兒扱ひにする必要が本當にあるだらうか。また曩きに墮太利でクーデターが行はれた時の如きも、大部分の獨逸國民は何事が行はれてゐるかさへ全く知らず若しくは僅かしか知らなかつたが、之は果して大いに役に立つたであらうか？ 更にロシアからの報道を總て禁ずる事が、共產主義思想の蔓延を防ぐに然うまで役立つのか？ 例へばソツエト飛行士等が北極上空を通過してモスコウからカリフォルニアへの飛行を完行した事さへ、記事を差止めなければならぬものであらうか？ 誰の眼から見ても、斯う言ふ風に社會の知識層に目隠しを施して國內及び國外の世界に起りつゝある事を何一つ知らせず置き事は、やがて將來へ禍根を残すものでなくて何であらう。然も獨逸や日本の如き全體主義國家では、斯かる原則に基づいて遣つてゐる事は事實なのである。予の學生時代の事でも歴然と覚えてゐるが、或る英國の新聞にロシアの或る新聞がそつくり掲載されてゐるのを見た。それは文章の處々が矢鱈に削り取つてあつた。そこで當時の、と言つても未だ三十年とは經つてゐないが、その新聞を讀んだ人間はみんな苦々しく考へた事である。「秘密警察の力を背景とする彼の政治の野蠻未開なる、斯かる通常の記事をさへも削除して國民に讀ませないのか」

と。されば余等は却つて『こんな、百姓を管で撲り殺したり、シベリアへ追放して野垂死をさせたり、始終ユダヤ人が花火を揚げて騒いでゐるやうな國を相手にして、何の得る處があらうか』と考へたのである。惟ふに、大戦後に現はれた眞個の隔世遺傳的現象は、挽近の獨逸では總ての報道を仔細に檢閲し宣傳省の手を経たものでなくては一切掲載を差止めるのが常態である、と言ふ一事である。これと同様の政策がロシアでも固守されてゐる事勿論であるが、前者ほど組織的に行はれてはゐない。蓋し何事を企圖しようとも、スラヴ民族は舊態依然として組織的才能に乏しいからである。日本に於ては掲載禁止が一層極端であつて、國家は切角國家が指導してゐる心緒を亂す懼れありと政府で考へるやうな事を、讀んだり聴いたりし得ぬばかりでなく、悪くすると直ぐ『危険思想』の持主として迫害されるのである。その外の放送物、ラヂオ、ニュース並に各種の意見も、同様の管理下に置かれてゐる。即ち一方に於て放送を國家經營と爲し、他方聴取に嚴重なる制限を加へてゐる。映畫も同様に統制されてゐる。斯くの如き政策は今日迄のところ明らかに具體的成果を擧げてゐるのである。強大な地歩を築き得てゐるのである。尤も、より自由な政策を以てしても、現在の狀況に内在する如き危険を伴はずして矢張り同等の確固たる成果を擧げ得まいものでもあるまい。その危険とは、やがて社會全體が如何に多くの眞實より遠ざけられてゐたかに心付く時に、勃發するべき危険の謂ひである。兎に角目下のごころ吾々が認識しなくてはならない事は、平時に於て好ましからぬ外國の通信や思想が全部

禁制されてゐるため、一朝有事の際吾々側の宣傳は甚だしく困難であるに違ひないと言ふ事である。蓋し吾々の假想敵國等は、その國內宣傳に依つて十分に強化されてゐるのみならず、最も細心な注意を以て敵方宣傳の侵入に對し防衛されてゐるからである。但しそれも戦争が永引きその道程が困難を極めれば話は別である。

かるが故に、攻撃的宣傳即ち對敵宣傳の關する限り、現在の狀況下に於ける獨逸は容易には興し難い國のやうである。その國民の大部分は、彼の「總統」及びその政治を支持するに熱心であり、政治的共產黨員を除く殆んど全部は、更生獨逸の愛國的市民である。隨つて彼等に對し宣傳を以て迫り彼等を翻意せしむることは俱に難かしい。とりわけ吾が方の宣傳が曾て巧言令色に終始し、一九一八年及びその後、於て公約を果す事を忘れてゐたが故に、一層困難であらう。日本も亦これを撃つに難からう。何となれば其の皇室中心主義を奉ずる性質上、その東洋の國家として全く歐羅巴の埒外に立つ關係上、更にその國民は外國の宣傳に對して嚴重防衛されてゐること獨逸以上である爲である。但し此の兩國共當初は有用と見える抑制其物の中に所謂獅子身中の虫を蓄へてゐるものゝ如くである。だが其の小虫が十分大きく育つて來るためには、未だ多くの時を要するであらう。

## (四)



中立諸國及び吾れと友好の國々に對して指向する宣傳に就て言へば、茲にも不安がある。何にしても、吾々の假想する敵が他の國々の眼にも同様暗い蔭を以て映つてゐると決め込むのも愚なら、又吾々の假想敵は孰れの國をも味方に語らふ事なくして將來戰に臨むものと推量するのも不可である。此の前者の場合に就て吾々が記憶すべきは、獨逸側の宣傳が非常に強力なものであり、且つ最近五年間を檢するに全體として甚だ巧妙に指導されて來た事である。加ふるに獨逸の宣傳には確固たる方策が備つてゐる。それは國家社會主義と言ふ新しい政治思想を掲げて邁進して來たのである。惟ふにそれは曾て一九一八年に英國の宣傳家達が『國際聯盟』を振り廻したのと同じく、思想自體は相反するけれども、聊か同巧異曲である事を公平に認めなければならぬ。それは曾ての「聯盟」と同様に一個具體的な思想を有つてゐて、新しき時代への道を指し示すものである。新しき希望の時代、新しき秩序と安定と殊に虚げられたる者の状態が改善される時代を指してゐる。ただ「聯盟」と異なるところは、かれの國際的なるに反してこれは國粹的な點である。

吾が英國の人士にも、英國フエント黨は之を決して支持しないが、此の國家社會主義の思想の中に將來の社會組織に對する一道の光明を認めてゐる者が澤山ある。ただ彼等としては、ナチ黨が此の思想を自國民に強制する遣り方をひどく嫌つてゐるのである。彼等に言はせると、これほど多くの國が共鳴する處を見るに此の運動には何かの活力があるに相違ない、と言ふのである。これを事實に就

て觀るに、各國が執つた形態は其の國々の民族性に隨つて一々異つてゐるのであるから、證する處、獨逸が見本を示した壓迫と強制は必ずしも此の思想の眞髓ではないのである。そこで予は、獨逸に對する大量の同情が英國内に存する、と信ずるものである。但しそれが何處まで本來のものであるか、又は獨逸側宣傳の結果なのであるか、若しくは反獨逸の藥が利きすぎたの逆作用であるかは判然しない。それ等は姑く措くとして、獨逸の宣傳はロシアの夫れの如く、一の具體的な思想を掲げて進んでおり、されば恰もロシアが共產主義を以て世界各國の一部づゝへ感染させ得た如く、獨逸も正しく國家社會主義に依つて同様の成果を擧げ得るのであると予は信じた。二者の相違點を求めらば、それは此の相反する二個の理論が、戰時に於て夫々發展の組織を整へるその組織形態の上にあるであらう。

之に對抗し得るものに「ユダヤ人の反對」がある。曾て一九一四年に至る前までは、ロシアはユダヤ人に對して非常な迫害を加へてゐたものである。そこで獨逸は、恰も英國がロシアと同盟を結んだのを奇貨として、早速宣傳の炬火を點じた。曰く『英國が皇帝ニコラスの友たる時、彼も亦ニコラスのどほりに行ひ、大殺戮をやり、ユダヤに反する教へを説くならん』と。だが來たるべき戰爭に於ては、これが彼我立場を代へる事に成るであらう。即ち、全世界に於て就中米國に於て、ユダヤ人は積極的に獨逸に反對するであらう。而かもユダヤ人は、生得非常に精力的な宣傳屋なのである。尤も餘

り先見の明の無い宣傳家であるが、但し又、此の世界ユダヤ化の時潮にも一つの對流があつて——例へばロシア國內のユダヤ人が共產主義の中へ合流して行く事や、又は例のバレスチナ問題——ユダヤ人問題が我々に總て有利であると安心は出来ぬのである。故にユダヤ人は、將來戦に於ける宣傳に於て彼等自身一個の問題を呈示してゐる。

日本と宣傳

扱て日本はと見れば、これは亦甚だ事情が變つて来る。同國は地理的にも遙かに孤立して居り、民族的に一層倨傲であるために世界の輿論に對して獨逸よりも一層關心するところ尠なかつた。されば彼國から西歐諸國に向つて爲した宣傳の如きも、實に貧弱なものであつた。それは何か辯明だか陳述だか譯の分ちぬ事を冗々言ふだけのもので、別に新しい思想を提げて來るでもなし、ただ極東に於ける日本の神聖なる使命を繰返すに過ぎぬ。而かも同時に日本人は、西歐諸國民が彼等に就いて何か「危険な考へ方(ださうだ)を持たぬやうにと、それを防ぐにこれ努めて倦む處を知らない。扱て是れも西に於ける獨逸とロシアとの相違と甚だ符合する事實であるが、「ジョーンチャイナマン」と言ふか「邪宗の支那さん」か、それが所謂「上海英語」を操り、最近までは擔いで戦争に出かけた例の番傘を持つた圖は、英國の大衆の眼にただ喜劇的なものとして映るばかりであつたのに對し、日本人は常にもつと現實的であつた。一九〇四年に於ける「謙讓なる小き日本人」も、一九一四年に於ける「典雅なる吾等の盟友」も、將た又今日に於ける「黄色い人眞似猿」も、常に英國人にとつて現實的

であつた。彼等も吾々が日本を眞面目に相手にしてゐる事を知つてゐる。されば維新に依つて「ミカド」の治世と成るや、日本は外國の映畫にせよ、劇にせよ、將た著書にせよ、苟も日本を滑稽化せるものに對しては、寧ろ日本に惡聲を放つものよりも不可なりとして、極力これ等に抗議し續け極最近までその點で非常に成功して來たのである。現に亦日本の斯うした成功こそ、宣傳が眞實を土臺とする時に始めて飛道具たる効果を擧げ得ると言ふ事の、好模範でなければならぬ。蓋し吾々は、曾て三歳の小兒の如き溫和な面を見せられ、それが一旦かなぐり棄てられ其の眞實の姿をまざまざと知らされるや、今更ながら今日までの伴りに愕然たらしめられたのであつた。看よ日本の支那に對する宣傳は、最近かなり巧妙を極めてゐるではないか。殊にかの「新民會」なる機關を通じて展開されてゐる宣傳は素晴しいものである。此の新民會と言ふ團體は、その傀儡たる新政府の後楯たらん事を企圖し、同時に新支那の更生原理を弘めてゐる。その主意に曰く、支那はよろしく西歐思想を廢棄して其の傳統的文明に立歸るべしと。要するに右の原理は外でもない日本の宣傳であつて、これが支那の保守主義に働きかけ彼等を蔣介石並に國民黨から引き離さうとするものである。これが必ずしも成功するものでもあるまいが、又以て日本の宣傳方策を側面から照らし出すものとして興味深いものがある。

日本の弱點

此の宣傳と言ふ點から觀ても、また恐らく戰略上の觀點からしても、日本の弱點は、曾て日本が力

を以て併呑し今も全般に力を以て保持してゐる隣接諸地方に横はつてゐるのである。此等の國々は、往年の朝鮮王國、舊滿洲地方、半ば獨立せる蒙古諸旗の若干、それから支那帝國の大半であるが、孰れも皆よし國家的自覺は無いにせよ高度の民族意識を有つてゐて、中には日本よりも古い文化を享有してゐるものもあり、斯かる國に較べれば、日本人などは全く野蠻人に見える位である。而して此等の國々は、獨逸に於けるオーストリアとかズデーデンとかの如く民族的和合並に政治的見解の合致を有つてゐるものではなく、却て戦時に於ける反日宣傳氣運の醸成所であり、瓦解の素なのである。惟ふに不安定なる隣接國又は隸屬國民ほど危険なものはない。即ち前者は敵側宣傳の導入口と成り、後者は又敵方の足場となつて、其處に陰謀が廻らされたり公然と叛亂が唆かされたりする。現に大戰中の獨逸の如きも、如實に此の前者の場合の苦い經驗を甜めたものである。其頃は獨逸の新聞も或る程度まで自由だったので、勿論英國側の宣傳をそのまゝ載せるやうな事はなかつたが、手近かなデンマーク、ノルウェー、オランダそれからスキス等から迂濶に大量の宣傳記事を取込んで、それを掲載するやうな事に成つたのである。當時令名のあつた漫畫家のレーメーカーなども、やはりオランダ人であつた。因にオランダの勞働者が毎日何百人とかたまつて獨逸國內に這入り込んでゐたなども、當人達は大體知らなかつた事ながら、聯合國側にとつてはこれが最も効果的な宣傳流入口と成つたのである。獨逸は將來戦に於ても此のさほりの難儀を繰返さなければならぬ。但し予が想像するところでは、

は、それも決して日本がその點で難儀するほどには及ばないであらう。これは全くの臆測に過ぎないが、明日にも、否來年中ぐらゐにも戦争が勃發するやうな事があれば、日本は全的に潑刺として且つ信念に満ちてこれに参加する事は出來ぬと言つてもよからう。即ち日本の諸資源は少なからず制限され、國民は既に夙くその困憊を悟らぬまでも何處となく不安で、指導者等は又多少自信を失ひ、と言つた工合に總てこれ相手側宣傳家が雀躍りして附け入つて來る要因が並び起るであらう。

兩陣營の宣傳

そこで彼等の友好國は何う言ふ風であらうか？ ラスウェル教授の書いたものには『敵に對し堅固な戦線を固める上で先づ最初の喫緊事は、同盟國間の緊密な關係である』とある。これは同時に、戦時に於ける宣傳に課せられた最も機微にして最も厄介な宿題でもあるのである。而かもキヤムベル・スチュアートに隨へば茲の處が一層強調されてゐる。彼は曰く『同盟國同士が共同の敵に向つて宣傳を調和させる事の必要なる、尙ほ軍の統帥を歸一せしむるの肝要なるに若かむ』と。然るに同盟國の數が多ければ、それだけ各自の意圖翹望が多様に成るから、それだけ又宣傳家の仕事が増す譯である。此の點では日本と獨逸とはそれ程煩はされる事はあるまい。だが何か不安の種がある筈だと言ふのは、一旦敵對行動が開始されると必ず計らざる一二の裏切りが現はれて來るからである。

それは、眼前例へば獨逸と精神的に何等共同のものを有たぬと云つたやうな國々、が夫れである。現在の場合、ポーランド、ルウマニア、或はハンガリー等が然う言ふ國にあたるであらう。他方伊

太利はまた一九一五年の寝返りを繰返すかも知れぬ。これだけの例外を勘定して置いて、扱て試合開始の審判が鳴ると獨逸チームの同勢は先づ一九一四年の時と同様なものと見てよからう。それは往年と異つて奥洪帝國がないだけに軍事的には弱い處もあらう。また地理的にも最早トルコを味方に恃んで近東への道を確保して置く譯に行かぬといふ弱味があるだらう。假りに日本が一緒に成るとしても、伊太利が能く出撃者たるか何うかは少くとも疑問視すべきである。尤もクロアトとかチエツクとか言ふ厄介至極な國民は失くなつてゐる。故に獨逸の宣傳の問題は、一九一四——一九一八年當時に於けるよりも、却て簡單に成るであらう。蓋し其の戦線は殆んど全部自國人を以て結成され、もしくは精神的に政治的に彼等と合致せる國民ばかりで固め得るからである。日本は又相違なく此の戦線に對して外廓に立つてあらう。兩者の間に世界の半ばを抱へては、甚だ不安定な同盟である。言葉も、外見も、住む半球も、總て相異し、且つ互に抵觸する商業上の利益を有つて成つては、獨逸なり日本なりの役所がお互ひに遠くから助け合ふ宣傳をしなければならぬとしても、決して容易な仕事ではあるまい。

そこで今度は、簡單ながら此方側の事も考へて見なければ、本書が取上げる問題の機微に觸れたと言へないのである。英國は、中立諸國に對し又假想する敵側聯合國に對し、如何に處せんとするものであるか?! 謂ふまでもなく、世界を總括して見る時、吾々は遙かに有利な立場にゐるのである。近

年に及び吾人の資源は急減して、吾々の積極的特權は大いに損傷して來たもの、尙ほ吾國は他の如何なる國々よりも遙かに大なる善意を隨所に享有してゐる。此事は、一つは過去の業績の堆積に依るものであり、又一つには英國の傳統と英國の法の支配とに對する尊敬から來てゐるのである。

然し乍ら中立諸國はまだ矢張り何と言つても吾々が提げて立つてゐる偉大な物質的な力、即ち吾々の富と資源とに心を奪はれるであらう。故に彼等は常に吾々が傳統に隨つて振舞ひ而して勝つ事を期待するだらう。併し乍ら吾々が相變らずの絞切型で、民主主義の餘徳がどんな有難いものかと言ふ事ばかり繰返して聽かせても、彼等はそれ程に心を動かされはしないであらう。吾國のは、一方に保守派の並び大名と又一方に急進派の天使の群がゐて、双方から口を揃へて『デモクラシー』禮讃を飽きず辯じ立てるのであるが、然らう腹の見え透いた遠吠を聽かせたところで、吾々よりも貧乏であり吾々よりも了見の狭まい國々の人間には、大體に於て無意味に相違ない。頑固と民主主義の縁は頑固と貧乏の縁ほど深いものではないと言ふ事を、我々は忘れてゐるのである。元來吾々から見た諸外國は、大部分此の二つの形容詞の執れかに該つてゐる。即ち頑迷な國か、貧乏な國かであつて、その兩方と言ふのは珍らしい。何故なら前者は、後者の結果然らう言ふ事に成るのであるから。

現にイギリス人が自分の國の政治組織を自慢すると、それを聽かされた外國人達の共通の返事は、必ず斯うである『成程、如何にもお見事なことだ! 然しそれを私の國に持つて行つても、そのとは

り旨くは行きません」とやられる。そこで吾々の銘記すべき事は、大抵の國は何時か一度は吾々の民主主義を共儘真似て見て失敗し、而して大抵の國はそれを駄目と見限つてしまつた事である。況んや其の中の或る國々は、吾々が一九一九年に與へた民主主義の宣傳公約を、ちやんと記憶してゐるのである。であるから、所詮予は斯う考へる、即ち吾々は中立諸國に對する宣傳を、もつと實踐に移し易い方向に進めたらよからうと思ふ。同時に、吾が對内宣傳に於ても、民主主義を大いに鼓吹す可きであらう。此事は曾ての大戦に於て効果があつた如く將來戦に於ても効果があると思はれる。

宣傳に於ける英の長所

吾國では、獨逸と異つて、平時に於ては殆んど組織的な宣傳をやつてゐない。而かも自から手頃だと思つてやつてゐる事も、後段に於て予が述べるとほり、餘り上手に運んでゐないのである。他方、或は外國に向つてもつと計畫的な且つ十分に練つた宣傳を増やすべしとなす議論にも一理はあるが、實はそんな事は吾々にとつて左まで必要な事ではないのであつて、殊に、吾々が今日まで蓄積して來た隨所の善意と言ふ資本に對する利益を現金に換へてゐる限りは尙更である。ところで吾々が獨逸並に日本の双方に較べて斷然勝れてゐる點と言へば、それは吾々のはうが比べものに成らぬほど心理學的に長けてゐる事がそれである。彼等が精一杯懸かつてする仕事を、吾々は苦もなく仕畢せる。彼等が頻りに組織を尊重し、ために組織倒れる事すら一切でないのに對し、吾々が私かに恃むところは

獨逸の國に於ける心理的無能

臨機應變の才である。例のラスツェル教授も結論を下して『英國の宣傳が優秀であつた所以の一部はその驚嘆すべき柔軟性に負ふべきものである』と言つてゐる。されば吾國が世界的な國であり、吾々が先天的にか後天的にか兎に角他の國民を操縱する天分を有してゐる事も、故なしとせぬところである。吾々と雖も必ずしも常に外國人を理解してゐることは限らぬにせよ、吾々は彼れを操縱し得ること他の國民よりも勝れてゐると思はれるし、少くとも其の材幹ある人間を見出す力を有つてゐるらしい。予は曩きにも述べたが、獨逸の宣傳の特色はその獨逸系諸國民間にもたらした成功に在り、又或る程度ではあるが、國家社會主義の思想を歓迎する餘地のある國民間に於て成功をしたと言ふところに在るのである。然しその逆も亦真なりで、彼等の宣傳が世界の輿論の前では甚だ不成功であつたと言ふのも、獨逸人が他國人の心理を感得する上で全く無能だからである。獨逸人なり、日本人なり、若しくは伊太利人は、實に汝々汲々として宣傳に工夫して、以て彼等の國を明るく映し出して見せるやう、その國歩の艱難を説明するやう、見物人を説いて彼等に寛容であらしめ彼等を信頼せしめるやう、これ努めてゐる。その勢や寔に多とすべきものがあり、遂に漸くそれが成功しはじめて來た。かと思れば忽ち呀と言ふ間に、切角の今までの言を悉く否定するやうな、斯くも不撓不屈の努力を以て築き上げた樓閣を一撃の下に打毀すと言つたやうな、然う言ふやうな方が出る。獨逸の宣傳の如きも、最近急速に發展して、ナチ政策並にナチ政府に對する一般の輿論も好轉を示しつつあつた。され

ば往年例の『鐵血』新聞切抜き』型の古い宣傳に依つて海外に植え付けてしまつた古い偏見も、漸く雲散しかかつて來たのである。而して此の新手の宣傳に口説き落されて、オーストリア嬢も大いに心を動かされ今や觸れなば落ちむ風情に成つて來た。と忽ち何の前觸れもせず、卒然強引に彼女を犯してしまつたのである。その遣口たるや凡そ一雙眼を有するほどの人ならば誰しも、元伍長さんの率ゐる今の獨逸は矢張り前カイゼルの號令した獨逸と一寸も變つてゐなかつた、と思ふほどあからさまだつた。此事は世界の輿論に衝撃を與へたばかりでなく、(衝撃を與へたが故に切角今日宣傳に依つて築き上げた善い事を皆ぶち壊してしまつた)更に(一層悪い事には)此先の宣傳の信を密なつてしまつた譯である。それが強引であつただけに益々『鐵血』時代の古い狼の面を被つた赤マントの怪人の如くに見えて仕方が無いのである。予は茲でも決して獨逸を難する心算は無い。むしろ反對に、獨逸並にオーストリアの目前の利益のためならば、それが本當の道ださへ言ひ度い位である。ただ予が謂はんとする處は、獨逸が他國の考へを酌量するの下手さ加減を、これに依つて歴然見せ付けられたと言ふ事である。と同時に、獨逸が如何に努力したところで、所詮吾々の宣傳の敵として大して恐ろしい者でない、と言ふ事にも成るのである。

若し獨逸人にしても國際心理に疎い者とするれば、日本人の如きはほんの小兒である。假りに彼等にも海外の意見と言ふものを考察して見る位の氣があるとしても、大體そんな程度である。彼等の態度

全般は、見るから非妥協的な短見者流であり、自負と卑下との交錯してゐるあたり、何う考へても他人の意見など問題にしてゐないやうに見える。

何にしても吾々の三つの假想敵國のうち二者が此の聲援敷に納まつてゐて呉れる事は、(伊太利は此點はるかに惻口である)吾々にとつて勿怪の仕合せである。それと言ふのも吾々は如何なる國にも増して宣傳仕事に煩はされてゐるからである。大英帝國内百と一種の民族人種に指向する宣傳だけでも大變である。これも大帝國の長袖をかざす罫であらう。但し獨逸人は斯かる否定し得ない弱點を有つてゐるにも拘らず、大戰の間彼等が埃及、印度、愛爾その他各地で騒動を煽動したために、吾々は好い加減惱まされたのであつた。伊太利もずつと最近に成つて、此の種の宣傳を以て吾々を困らす事の如何に容易であるかと言ふ事を、吾々に思ひ知らせたのである。

次に中立諸國に就て言へば、それは友好國に對すると同然である。吾々の敵は、不意の事態が發生せぬ限り、恐らく吾々と佛蘭西若しくは米國との間に水を注す結果に成るやうな宣傳材料をそれ程有ち合せてはゐまい。此の佛蘭西こそ目下の處吾々の一番確實な同盟國であり、米國は亦、必ずとは言へぬまでも先づ遠からぬ日に吾々の同盟國と成るべき國なのである。けれども尙ほ、起り得る事は十分検討して置かなくてはならぬ。されば彼此計量したとして茲では次の事を言つて置けば足りるであらう、即ち吾々の特權的地位は一九一四年若しくは一九一八年の場合に比較して困難を加へて來たと

は言ひ條、若干の重大な摩擦が取り除かれた事もあるから、佛米並に中立方面は先づ安心と見てい、であらう。

(五)

英の對内  
宣傳

終りに、國內戦線がある。吾々自國民に對する宣傳は果して如何にすべきであらうか？ 茲では、中立諸國に對する宣傳ならば肝心と成つて來る輿論の喰違ひ、と言ふやうな事の起る餘地は無さうである。然し若しも近い將來に復た戦争が起るものとすれば、それに對する國內宣傳をなすべき時は、今である。否、今頃始めたのでは既う遅過ぎなくらゐである。蓋し予が曩きにも述べたどほり、最初の銃聲が放たれるや否や、宣傳と言ふ仕事は忽ち中央政府の筆頭第一の仕事と成るのである。随つて其の効あらしめんがためには、宣傳官としては必ず其處へいきなり、何物かを築き上げて見せなければならぬ。言葉を換へて謂へば、吾々は平和のうち早くその基礎を作つて置いてやらなくてはならないのである。而かも此事を、吾々の政府當局者等は萬々承知のくせに兎角進んで行はず、若しくはまるで行ふ能力が無いのである。予は當路に立つてゐる人と種々話して見たが、結局様々な言ひ廻しはするが孰れも宣傳など要らざる仕業と思つてゐるらしい。曰く、そんな事をしても『薄籠な愛國心』を起させるだけであるとか、曰くそんな事は出來ぬとか、曰く『まあ一つやつて見よう』とか、又

曰く『やつて見た處が遠矢を射かける位の効目だらう』等。而かも此等の答の大半は、それを言ふ本人の口から、同時に不用意な矛盾と俱に吐き出されたものなのである。これは實に遺憾な次第であつて、予は後段適當な場所に於て再び此の事を取り上げて見る心算であるが、茲ではただ、一二年前までの政府當局者は、過去二十年來依然として彼の理想派若しくは非現實派の宣傳に修正又は添削を加へる事をしなかつただけ言つて置かう。實にそれはさういふ間、所謂正統派は自から防衛する事をさへしないのでゐたのである。されば今日に及んで忙つて防衛を始めると、却つて民衆の眼には何かひどく癡猛な獸の如くに映ると言つた按梅なのである。

恐怖の宣  
傳

扱て十五年間以上も自己陶醉的な宣傳に乗せられとほして來た國民は、まさかそれで頽廢し切つた譯でもあるまいが、然し斷然混沌の中に陥入つてはゐる。恰度泥酔病患者が睡眠劑で一と眠りしたあとの柔かい光線から、急に射すが如き眞實の光の下に轉がり出たやうな工合に全く面喰つてゐるのである。だが混沌が聊か奇怪な代物である。蓋し過去十五年間、民衆は交互に或は『恐怖』の宣傳に肚胸を衝かれ或は『樂觀』の宣傳に宥められた。同時に彼方でも此方でも『ラベル式宣傳』のポスターが貼り出されると言ふ工合で、遂に彼等は五里霧中に迷ひ込んで、自から何處に身を置き孰れを信じないか分らなくなつてしまつたのであつた。此の恐怖宣傳は、復た新しく戦争が起ると言ふ可能性からして直接に提起されて、一九一八年當時の吾國の戦時宣傳の名残りによつて發展したものであ

る。政治的若しくは準政治的諸團體は優れた理想主義者や平和主義者の所信を自からの目的に利用し、又斯る理想家の眞摯な熱誠は、ロシア、スペイン共和国、アビシニア又は支那、若くは國際聯盟等にそれ／＼代表された戦争又は獨裁者或は『デモクラシー』の反対或は擁護運動に力を藉したのである。右の諸團體は何ぞかして彼等自身の利益を増大するために、一旦將來戦の起る事ありとすれば、其時に起るべき事態を並べ立て、民衆の恐怖を煽り立てた。それが非常に成功を収めた事も亦いなみ難い。此の渦捲き返す宣傳の奔流に搗て、加へて、近年は亦政府自身から多量の宣傳を流し込んだのであるが、このほうは全然反対な動因に依つて發動されたものである。即ち同じ民衆の恐怖の上に躍るとしても、政府のは、民衆を驅つてそれだからこそ絶対に戦争を國內に近寄せぬやうにせよ、それが無理とあればせめて戦禍を最小限に止めさせるやう心懸けよと慫慂するのである。尤も斯う言ふ型の宣傳も、空爆に依つて國內に危険を招來すると言ふ企圖がある以上、これを認めぬ譯には行かない。それがため世にも凄愴なる繪を描いて随分貼り出した。就中瓦斯彈の慘禍に就ては一段と物凄しい状景が描かれたのである。と此等の繪畫を大悦びで借用に及んだ反戦乃至は反政府の宣傳家共があつて、それを以て自家題目の確認なりとした。ところが切角の其の反戦運動で、而喰つた連中が却つてごつとARP即ち殖民地部隊に押し寄せて入隊すると言ふ結果も生じたやうである。其方へ這入つてしまへば此の『毒瓦斯投下』の宣傳も一向利き目がない。と言ふのは、そんな僻遠の地では、そ

樂觀的宣傳

れが繪畫事でもあり見當違ひでもあるからである。

此の「恐怖」の宣傳と兩々相並んで、かの「樂觀的」宣傳が進み出て來た。樂觀主義と言ふより「慰勸派」と呼ぶほうが肯綮にあたるであらう。これが目下吾國に行はれてゐる宣傳上の病弊の尤なるものである。而してこれを全く對立する側の陣營から眺める以外には、如何なる立場からしてもこれを正當視する方法が無いと言ふ厄介物なのである。茲にその最近の好適例があるからそれを擧げて見よう。外でもない、今日まで大きな展覽會で開會初日から一切の準備が出来てゐたなど言ふものは一つもないのであるが、例のグラスゴウでの英帝國博覽會も亦御多聞に洩れなかつた。そこで最後の馬力をかけ又好天氣のお蔭で大いに準備不足の穴を埋め得たものの、さもなくば到底開會日には間に合ふべくも見えなかつたのである。而かも此の間終始博覽會當局は、公衆に向つて『蓋開けの日までは一一〇パーセント準備完了』と告げてゐた。ところが段々開會日が近付いて來るに連れて、それが一〇〇パーセントに下落し、次で九五パーセントとまで下がつたが、相變らず大きな聲で強がりだけは並べてゐたのである。惟ふに斯う言ふ型の宣傳を創めた抑々の張本人は、陸軍省なのである。即ち陸軍當局は常備兵の應募者数が足りなくて困つてゐるくせに、毎週毎週大威張りで怒鳴る事が、(假りに昨年なら昨年若しくは一昨年なら)一昨年の同期に較べて應募者の百分率が昇つて來てゐると言ふのである。然しこんな一時凌ぎの甘露水は、第一に、自から終局の目的とする處を打ち壞すも



のであり、民衆をして其處でもう一と踏張りさせるよりも寧ろ強ひてその塔に安んせしむるものである。第二には又、それは知つてゐる人間の嘲笑を買ひ、やがて其の人々が將來左様な大風呂敷を展げる宣傳を信用しなくなる所以である。換言すれば、そんな事は國內に向つては無益であり、海外に對しては反英宣傳家にわざわざ武器を與へてやる事なのである。

ラベル式  
宣傳

扱て其の次には、「ラベル式宣傳」であるが、今日を以て宣傳の時代だとすれば、それは正に貼紙の時代だと言つてもよろしい。宣傳當局、商業上の廣告者、若しくは新聞記者等が孰れも、その民衆に訴へんとする處を簡略にする必要を段々痛切に感じて來たのである。ところで予は曾て、或る有名なスエーデン人の映畫監督の言分を聞いた事があるが、彼は「どうせどんなフィルムだつてみんな女中さん向きに作られるのだから、藝術も智性もへちまもない」と言つてゐた。扱て何も茲で女中ばかりが他の者よりも無智だと言ひ度くはないけれども、大凡どんな種類の宣傳でも皆此の比較的低い智識層に合ふ處まで、調子を下げたのである。随つて大衆的な新聞も皆アメリカ式のタブロイド澤山の型に移つて行かうとしてゐる。此の種の新聞は大切な報道も犠牲にして、ただ無闇にでかかど肉太な見出しを並べ立てる。たとへばB・B・C、が此の癖に抗して敢然後詰めの戦ひを營むと雖も、兎角大勢に押されて手も足も出なくさせられる事一切でない。然るに此の謂ふ所の簡略化の結果と言ふものは、何うしてもまやか、し、胡麻化しに畢らざるを得ないので、就中政治問題に此の策を用ひる時は尙更

然うなる。たとへば凡そ中央から左の悉くは、英國の自由主義からロシアの共産主義を突き抜けてスベインの無政府主義に至るまで、すべてが『民主的』と決められてしまふのである。而して此の玉石混淆の同宿人達の一つ若しくは全部のために闘ふことは、何でも彼でも『自由』の爲めに闘ふこと、される。これが所謂『人民戦線』なのである。又右のはうのあらゆるもの、『反動』の貼札を付けられたものを支持する者は總ては『ファシスト』とされる。仍ちおよそラベルの上では、中央を認めず兩極だけが在る事に成るのである。其處では總てのものが、絶対に兩立を許さぬ半分づゝに分かれたる譯である。此の貼紙の間違つた使方が思想の有害なる代替物なりと言はれた所以である。或は然らん。だが本書としては差當り、そんなラベル宣傳などを何時までもやつてゐると、唯さへ重荷に耐へられなくなつてゐる民衆の心を一層酷なる迷惑の裡に導き込むだけだと言ふ事を指摘して置けばよからう。ロシアが『デモクラチック』でドイツが『ファシスト』だと簡単に決められるものではない。未だほんの五六年前までは、獨逸は吾國知識階級の鍾愛者だつたのである。其頃彼等は活潑な宣傳を行つて、資本主義帝國主義の國々の不正な平和のために獨逸が陥入れられた状態に對して民衆の同情を巧みに湧き上がらせてゐた。それが卒然舵をぐつと曲げたと見るや、輿論はまるで反對の方向を指して進む事になつたのである。予は別段茲で斯かる輿論の氣紛れな變化を解説して見る心算はないが、ただ之が與へる影響を示してみよう。たとへ如何なる宣傳と雖も、然う素早く白を切る

事は出来ない。最初の方向のほうが手を加へぬ生地のままの英國輿論の實體に對して根底的な適合性を有つてゐたやうに考へられる節がある。現在左翼諸陣營と親佛的右翼から間歇的に湧き上がつて來る反獨宣傳は、どうも行き過ぎて居る。何時までもそんな事を續けてゐると、必ずや又一つの反動が起り、それが又恰度巧みに隠蔽された且つ器用な獨逸側宣傳に依つて助成されたやうな恰好に成るであらう。予は前にも既に、ユダヤ人は上手と言はんより寧ろ根のいい宣傳家だと言つたが、實に彼等は精力的なのである。現在の處吾々は傳統的な心構へを以て、獨逸や、オーストリアで虐待された非常に多數のユダヤ人に安住の地を與へてゐる。彼等が吾が領土内に永住する心算か又は一時落着くのか分らぬが、ごつちみち彼等を遂ひ出した國々に對して怨恨を抱かぬ筈は無い。して見れば今更セミチック人種排撃を難じて、大勢の人間が獨逸に對して曠志の炎を燃やしてゐる事などを言ひ立てるものはないのである。

以上の中で一番引切無しに擴張機でお目見得するのは、例の嚴勲派の宣傳であるが、何せよ上述のやうな混亂裡の事であるから其のために切角の口上も、掻き消されたり、雑音が這入つたり、覆かれましてしまつたりである。かゝる次第で、將來戰に關する限り、吾國の現況は決して心丈夫なものではない。國民大衆が政府の警鐘に聽耳を立てる氣分に成つてゐないからと言つて、誰も滅多に咎める者はないし、又假りに明日にも大事が起つたとしてからが、然るべく結束して起つ國民でもなさそうである。

英國内の  
混沌

ある。扱て吾々は徹底的に志願兵制度に執着を有つてゐるものである。されば、志願兵公募の成績が海外に於て重大な關心を以て見られてゐる事も敢て不思議はない。だが此際衆人環視の俎上に上げられるものは、ひざり志願兵制度のみではなくて、英國精神も検討されるのである。そもそも來たるべき一戰は、何う言ふ風にして起るであらうか？ 無論吾々のはうが好んで侵略國に成らうとは考へられない。——尤も戰時宣傳では『相手方』が何時でも侵略國と言はれるに決まつてゐる。——但し予は、吾々が不識の間に敵をして吾々を以て侵略者なりと批難する宣傳を爲さしめるやうな状態に引込まれる事も想見出来る。とは言へ如何なる國と雖も、將た一連の國々と雖も、好んで英帝國と争ふものはあるまい。蓋し英國は物的資源に於て飛び離れた強味を有つてゐるのである。随つて精神的資源のはうに弱點を探されることになるだらう。ところで曩きにも予が述べたところであるが、吾々の假想敵は、人の心理を判するに拙である。一九一四年に於ける獨逸が、吾國人心の頹廢並に吾國が國內摩擦に忙殺される事を見越し過ぎたのは、その致命的誤算であつた。然し乍ら吾々の仕向け方如何に依つては彼等が再び同じ誤算を繰返さぬものでもなく、寧ろ其處に本當の危険があると言はなければならぬ。アーサー・ソールター卿も最近『吾々が頹廢して居ると言ふ妄想が此頃復た甦つて來てゐる』と言つてゐる。(こんなものが蘇生つて來たのも大陸方面の宣傳に乗せられてゐる故である)。又ソールター卿は續ける『此事が吾々の最大の危険である。今こそ曾て吾々が大戰に於て示した天賦の

資性を發揮して、斯かる妄念を破砕すべき肝心の秋である。それも戦争が始まつてからでなく、戦争に對する準備の間また戦争を防いでゐる間に、早く爲すべきである」と。是を以て之を觀るに、吾國現下の混沌状態は、ただに一旦緩急ある時の憂ふべき弱點たるに止まるまい。此のまゝでは城の大手に罅隙の這入つてゐる事を曝け出すやうなもので、そのため急に戦争を勃發せしめる譯でもあるまいけれども、與かつて大なる戦争の原因とも成らうものであらう。

最後に吾國朝野の混沌状態の一例として、吾々の教養ある青年男女が彼等の心持ちが確かりしてゐると言ふ事を自他俱に許さうとしてゐることは胸をうつものがある。「吾々は大丈夫だ。時至らば吾々も一齊に起ち上がる」と彼等は言ふ。何と健氣な第二世等よ！ 卿等が爾が言ふのは、未だ廿五年前英國が一嶋國であり、國民を悠くり仕立ててから海外の戦線へ送る閑日月を持つてゐた頃の夢を見てゐるのである！ 『時至らば吾々も一齊に起ち上がる』言や壯に似てゐるが、まるで素晴らしい新舞踊劇の前觸れをする演出家の言草そつくりである。口では然う言つても、一座の踊子達は初日の幕が愈々開くと成るまでは、本氣で舞臺稽古に懸かりはしないのである。そんな踊子共では觀客の憤りの前に曝されては、手も足も出まい。それと同様吾國の若い男女等は、やがて一日空からの大喝に遭つて忽ち俯伏して仕舞ふであらう。況んや彼等の眼前で日本が干戈を執つての支那の受難劇が實演される今日、彼等に何の言ひ逃れも無い筈である。

### 第三章 手段と方策

#### (一)

機械の進歩と宣傳

宣傳の爲に利用し得る機械器具類は、過去廿年來その力と範圍とを著しく増大した。這次の戦争では、宣傳者は専ら新聞紙、無線電信、活動寫眞、飛行機、それから小冊子送達用の氣球を頼りにしたのであつた。爾來飛行機が實に夢かと思ふ許りの發達を遂げ、また發聲映畫が出来て映畫の効果を一層大なるものにした。だが此等總てよりも一頭地を抜いては、無電放送と言ふ偉大な方法が創出されその亦早熟な愛兒であるテレヴィジョンが既に確かりした足取りで歩きはじめて居るのである。扱て如上の進歩發明が宣傳者の仕事の手助けと成りその威力を増した事も偉とすべきであるが、此等のものも、亦新しい戦争の機械手段も、宣傳の技術並に實施の上には大した影響を及ぼす事は無い。例へば幾ら多くの新しい樂器を使つても、その爲に樂曲本來の調子を変ずるものでなく、ただ量感が變つて來るだけである。宣傳が擴聲機を通じてエーテルの中へ導入されよう、小冊子の形をとつて飛行機から投下されよう、或はその本部から新聞紙上に發表されよう、その原則は不動なのである。仍ち肝心なのは矢張り報道其物であつて、それを傳へる方式の如何では無いのである。宣傳の内

容たる報道の性質、その時期並に傳達の方法は、従前どほりの方式に十分照合はせた上で決定されるべきである。

宣傳の戒

此點に就ては既に前段に若干記した。されば宣傳は、常に必ず眞實の土臺の上に立たなければならぬ。場合に依つては多少眞實が歪められ、殊に宣傳が錯綜して來ると時々眞實を遠ざかる事もあるが兎に角眞實を基礎としなければならぬ。『虚偽は宣傳の最も非效果的形式である。一旦事を發表するや爾後の時間の自乗に隨つて虚偽の利目は薄れ眞卒な説述の効果を増すのである。』同様に亦、宣傳は常に政策と密接な連繫を保つてゐなければならぬ。能ふべくんば政策に一步先んじて行き度いのである。かのルウゼンドルフ將軍は、宣傳と言ふものの役割りに就て知悉すること獨逸の他の指導者等に一步も譲らね人であつたが、此邊を一層強調したものである。即ち彼れの書いたものに曰く『勝れた宣傳はいつも政治的諸事態の先頭を切つて行かなくてはならぬ』と。此の眞實性を有つ事と政策に添つて行ふ事とが、最も肝心な二つの戒律と謂つべきで、他は總て同様ながら固より心得までに差添えたる條々に過ぎない。之を例せば、若し宣傳にして政策と終始鼻を並べて行くものだとすれば、今度自然その單一化が必要と成つて來る。即ちこれを單一なる中央の指導下に蒐め、此の指導にあたる者が亦、政治、經濟、軍事三方面の政策を立案發令する連中と最も固く提携して行くべきものである。およそ統一されてゐない宣傳は、それが予の所謂防禦的な對内宣傳であらうと若しくは攻撃的な

對敵宣傳であらうと同様であるが、とりわけ同盟諸國間に於て、同一の目標を支持しつゝ、異論を闘はす事に成つたり、或は更に互に抵觸する目的に突進するやうな破目にさへ成る事がある。これでは如何に大聲叱呼する宣傳であつても、何の意味をもなさぬ。

宣傳の潮

次に宣傳は、うまい潮時を見計つて行かなければならない。これこそ、予が既に縷々説明した事柄の要目であつて、即ち宣傳をして成功せしめんとならば先づ以て被宣傳者の心にこれが受容性を有たせて懸からなくてはならぬ、と言ふ事に歸する。尤もこれは攻撃的宣傳に處する金言である。蓋し防禦的宣傳に在つては、民衆の心の中に宣傳を受け容れるやうな素地を作つて置く事は、其の當然の義務の一つなのである。かるが故にこそ又、防禦的宣傳は一旦大事の到來する以前から其の緒に就いてゐなければならぬのである。但し二者孰れの場合に於ても、恰度頃合の潮時と言ふものは、倦まず擁まず宣傳を重ねた揚句にして始めて到達し利用する事が出来るのである。それには宣傳自體が具體的な方針を持つて進み、のみならずこれを固く持して行かなくてはならない。此の意味からして、現在大英帝國各地に行はれてゐる害心ある宣傳が孰れも繼續性を有つてゐない事は、吾々にとつて仕合せだと思つてよからう。否、それ等は繼續的でもあり根強くもやつて來るのであるが、或は餘り雑多な聲で述べられ、或は一兎も得ずして數兎を追はうとする日和見主義も混ざつてゐる等、所詮確固たる方針を以て進む事を知らないものである。されば之の結果として謂へる事は、宣傳は時宜を得なければ

九四

ばならぬが、此の時宜を得たと言ふ事が必ずしも頃合ひの潮時だとは言ひ切れないと云ふことである。先づ好機に投じた事の適例と言へば、歐洲大戦に於けるUボートの損害に關する英國側の發表がそれである。當時吾が宣傳省の知り得た處に依れば、獨逸當局が折柄國內の各軍港都市で遂に歸らぬ幾多艦艇への揣摩憶測が昂じたため、潜水艦乗員の補充に就て困難これを極めてゐたといふ事を英國宣傳省は知つたのである。されば先づハンブルグに於てこれが第一聲を放つや、效果は靦面潜水艦乗員の補充は殆んど止まつてしまひ、而かも現在の乗員中にさへ今にも叛亂が起りそうな氣配を生じたのであつた。

更なる心  
更に宣傳は、これを指向する民衆の心理に適應して行かなくてはならぬ。吾々は此點に就ても亦二重に幸運を背負つてゐる。と言ふのは吾國民が特に諧謔の才に長けてゐるところから、外國人の夢想も及ばぬ方法で事を反撥する力があるからであり、且又吾々のはうが外國人よりも他の心理を掴むに勝れてゐるからである。かの大戦當時に流行つた『憎しみの聖歌』は最上等の冗談だつた。敵がツェペリンで襲撃して來れば、その反動としてわざと高層建築の天邊へもつて行つて『ツェペリンのお茶』や『ツェペリンの夕べ』や將た『ツェペリン見物』等が開かれる。その頃特に人口に膾炙した戦線の歌は、例の『おつと死ぬには未だ早い、早くお家へ歸り度い』と言ふあれである。是等はすべて獨逸人を嘲諭し去つたものである。これに反してエッチ・デー・ツェルズの覺え帳を見ると、チュー

トン人の心は組織的な説述の前に脆くも叩頭すると言ふ事が、はつきりと書いてある。即ち『彼等は常に統合的計畫を論議しこれを理解する事に馴れてゐる。かの「ベルリン—バグダット」とか「ミツテル、オイロバ」とか言ふ文句に依つて代表される處の思想は、彼等の間に廣く説き盡くされて居り、今やこれが獨逸の政治思想の根幹を爲すものである』と。爾來星霜移つて今日「柏林—羅馬—東京樞軸」の呼聲が頻りなるにあつて、右のツェルズの言葉が何と生々しく響き返つて來る事か！茲に、能く銘記して置くべき事は、獨逸側の此の統合は、我々の宣傳が取上げたと同様に具體的且統合的な『國際聯盟』に對抗する爲めであつた事である。

明らさ  
なる可  
らす  
次に宣傳は、決してそれと明らさまであつてはならぬ。キヤムベル・ステューアートの言に隨へば斯う言つてゐる。『宣傳らしく見える宣傳は、第三流の宣傳なり』と。彼れが斯く述べたのは固より攻撃的宣傳のみに就てであるが、予は更に一步を進めて、そんなものは無用の宣傳だと言ひ度い。現に最近吾國に向つて頻りに送られて來た日本側の宣傳は、笑止千萬なものはあるまい。多くの財界人が知りもしない日本人から手紙を貰つたのであるが、それは非常に變挺な英語で、英國が日出る國の古き友人達を誤解する事の何と情けない次第であり、實際は彼等が如何に善良な人間であるかと言ふ事が書いてあるのである。されば能く能く心して、戦時宣傳の材料なり出所なりを秘匿し、十分に面態を變へて見參に及ばなくてはならない。これも亦、防禦的宣傳に於けるよりも攻撃的宣傳に於て一層

肝要な事である。蓋し英國人と言ふものは由來自國人から公々然と訴へて来る事に對しては、腹を立てないのが通例である。或はその要望して来る事に對して、何の返事も與へぬかも知れないが、之が當の戦争の相手たる憎む可き國から出たと知つたら之に反撥するやうな調子で必ずしも反撥しないだらう。とは言へたとへ防禦的宣傳に在つても、苦い丸薬を一寸ばかりジャムでまぶす位の手加減はして置いたほうが悞口であらう。

其の他の  
宣傳原則

無論未だ此の外に種々な規則が澤山ある。宣傳者は必ずしもその全部に隨はぬまでも、以て指針とするに足りよう。その中の若干を、ロバート・ドナルド卿の言行録に依つて茲に引用して見ると、次のやうな事も出て来る。「被宣傳者が自然考へ落ちて行く先きへ強ひて追ひ込む事は斷じて不可」とか、「ただ脅迫一方の宣傳では何事も成就せず」とか、その外「決して被宣傳者を恥かしむる勿れ、ただ彼等の指導者達を難するやう心懸くべし」と言ふ格言などがある。此邊は固より十分割引して考へる必要がある。但し他の諸原則がすべて正しく守られてゐる時に限り、それも本當であらう。例へば一九一八年に於ける獨逸の困憊し氣力も失せ果てたるに向つて適用した場合には、此言も亦眞であつたのである。これを今日の獨逸に向つて其儘あてはめては、それこそ間違ひである。

損害の報  
道

更に復た一層細かい宣傳上の技術もあるが、これが適正なる運用に關しては夫々見解の相違を見るのである。その極く顯著な例を求めて見るならば、敗戦や損害の報道を如何に扱ふかなどがそれである。斯かる場合の手段としては大抵先づ、左様な不快な事實が其場で曝露されぬやうすつかり包み隠して仕舞ふと言ふのが先に立つて、それから種々後智恵を働かせ度がるものである。だがダグラス・ブラウニング卿の著書『海軍側檢閲の暴擧』の中には、歐洲大戰中の二つの場合を取り上げて、それが全然異つた行き方をしてゐる事を示すものがある。即ち、一九一四年十月吾が戦艦「オデーシャ」が機雷で沈められた時、始め海軍大臣は議會に於て正直に其事を白状する心算であつたのを、周圍から頻りに止められて遂にそれも斷念したのであつた。ところが戦艦を失つたと言ふ評判は、固よりばつと廣まつた。それは英國内に駐屯してゐた軍隊の間で公然の秘密と成つてゐた事を、予も記憶してゐる。而かも其事は、一九一八年休戦條約の調印後までは、決して公式に發表されなかつたのである。ブラウニング卿は、其處を捕へて次のやうに書いてゐる。「此の隠蔽は遂に國民大衆の吾人に對する信用に係つて来た……且つ獨逸に宣傳の好餌を與へたため早速それが吾人の頭上に振り懸かつて来た。かくて吾人が眞實を語る能力ありとの信頼は、其の後ジュットランド沖の海戦が起るまで全く回復しなかつた」と。尤も此事では獨逸側も好い加減欺されたらしい。と言ふのは或る物好きな紐育の新聞が堂々と「オデーシャ」號の寫眞を掲げて、同艦は聯合艦隊に復歸就役した。と言ひ、おまけにベルファストの船渠に這入つてゐる間爾々の裝備を加へた等と事細かに書き添えたからである。其の記事が亦如何にも「見て来たやうに」出てゐたので、誰しも本氣にする位であつた。獨逸の

オデー  
シャ事  
作

海軍當局も、本當に其の艦が沈没したのか若しくは引き上げられたのか遂に引上げられもしなかつたのか、それを決めるのに嘸ぞかし難儀をしたであらう。ブラウソング卿も此邊を説き盡くして、結局吾々にとつては眞實を提供して貰つたはうが餘程有難いと述べてゐるのである。それがジュットランド海戦の時は、そのとほりに行つたのであつた。

九八

ジュット  
ランド海  
戦

即ち五月卅一日に、獨逸側無電が傳へて曰く、その外洋艦隊の『一部』が吾が聯合艦隊の全勢力と遭遇しこれを撃破した、と。然るに吾が海軍省では、越えて六月の二日に至るまで確たる事實が掴めなかつた。而かも兎角するうちに、嵐の雲の如く噂は噂を生み、損傷を受けた諸艦艇は傷兵を載せて東海岸の各港に跛行を曳き曳き這入つて來ると言ふ工合であつた。漸く六月二日の午後七時に成つて一聲明が發表され、それが現在判明せる限りの吾方損害を餘す處なく卒直に發表し、その確認する處に依れば、吾方の巡洋艦二隻、巡洋艦二隻、驅逐艦五隻が沈没し、その他にも損傷を蒙れりと言ひ、同時に、敵側に加へた大損害をも明細に記したのであつた。此の發表たるや、實に世界中に衝撃を與へたのである。その翌日には一層明確な發表があつて、獨逸側損害の詳細を傳へて、獨逸側無電がその艦隊の一部を以て大捷を博せりと爲した事の荒唐無稽なるを明快に推斷した。此の如き卒直がもたらした結果に就ては、さすがのブラウソング卿も次の如く肯定してゐる。即ち『吾々が眞個の事を言ふと言ふ信望が再び戻つて來た。而して此事あつて以來吾が方の聲明に現はれる事は事實として受けとられ、獨逸側は大言壯語的聲明を以て嘘の先手を打つたもの、二日三日と經つうちに到頭言ひ直しをする破目に成つて、實に醫し難き苦杯を甜めた、と先づ斯う言つてもよからう』と。彼等は彼等の損害を漸次認めて行つたのであるが、吾方は其物でこれを確認したのであつた。

惟ふにこれも亦、眞實に價值がある事の證據である。尤も損害を展示するはうに就ては、未だ必ずしも確固たる準則は無い。要するに宣傳者は能く商量を進めて、その際敵側が却て事實を認め、其の事實と今迄それを隠してゐたと言ふ事實との双方から宣傳材料を取り入れる事の吾れに危険なるを想ひ、損害を即刻國民の前に展示して見せる事の成果と彼此照合して見なければならぬ。

此等はいづれも解決を要する問題であるが、宣傳者が如何なる方法を以てそれを扱ふべきかは、懸かつて其人が此の仕事の技術に通曉し、又その實施に習熟する事の如何に依り定まるのである。とりわけ實施の經驗を尙しとするであらう。果して然らば吾國に於て、本式に宣傳の經驗を積んだ人を多く蒐め得ない事を悲しまねばならぬ。況んやその技術方面をも併せ體得した人は、寔に尠しとする外は無い。

仍で先づ差當り吾人が銘記して置くべき事を念の爲に擧げれば、宣傳は眞實に基礎を置くべし、政  
策の線に添ふべし、單一の指導下に置くべし、絶好の環境を待つべし、而して環境良しと見たる時は  
その中の好機に投ずべし、といふことである。言葉をかへて云へば宣傳は之を心理的に適用し且つ決

九九

して明らさまであつてはならぬとの謂ひである。

## (二)

宣傳の原則はすべて實質的に不變である事上の如くであるが、宣傳の囀し方に至つては大戦當時の原形とは幾らも似た處が無くなつてしまつた。恰度此頃の舞踏樂團が頻りにサクソフオーンを鳴らし擴聲器を用ひるのが、ヰキクトリア朝の絃樂合奏團とは似ても似付かぬのと同然である。

ところで最も一般的な宣傳送達機關はと言へば、恐らくそれは日刊新聞紙であらう。これはあらゆる文明國に於て、必要の度こそ低いが殆んど總ての家庭の必需品である。毎日手近かな處に轉がつてゐて、暇な時に手に取られる、と知らず知らず其の内容が吸收されるのである。而かも其の實質的影響は極めて大きい。何となれば眞向から宣傳で御座いと云はないからである。勿論多くの新聞紙の中には、特定の政黨なり學派なりで黨派臭の紛々たるものと合體結合してゐるものもある。然う言ふ機關に在つては、主要記事として掲げられる論説は明白に宣傳的と成るが、それでも讀者各人は通例自分の共鳴する見解を掲げる新聞を最負する。夫等の新聞紙が、彼が考へてゐる事で而かも自分では言へぬ事を、彼れに代つて明快な言葉で表現して呉れるからである。されば英國に於ける憲政論者はおほよそ右翼諸紙を歓迎する傾向を有ち、急進論革命論の人士は又、自由主義の淡紅色から生え抜き

明傳新

の共產主義の眞赤な色に至るまで概略蓄薇色係統の主張をなすものを支持する。扱て新聞宣傳が却々喰へない代物だと言ふのは、たとへば無邪氣すぎる程不偏不黨を謳ひ非政治的を標榜する論説を掲げた新聞であつても、單なる其日其日の報道をして斷然宣傳的傾向を有たせる事が出来るからである。即ち記事の見出しと置き處と特別な扱ひ方に依つて、手加減を加へる事が出来る。予も最近、或る有名な立憲派の日刊新聞が、西班牙の内亂を扱かつてゐる二つの記事に眼を留めた。双方とも空襲の記事であつた。第一のほうは、國粹派のフランコ軍がヴァレンシアを空襲した事に就てであつた。その見出しが如何にも讀者の眼につくやうな組み方であつて、見出しの文句は『叛亂軍ヴァレンシアを空襲、女子供の慘害最も甚し』とあつた。而して記事そのものは、硬い文章で空襲が行はれた事、その結果婦女子及び小兒が十七名慘死した事が書いてあつた。其の下へ持つて行つて、第二の記事が載つてゐたが、此のほうは一向見榮えがせず、見出しにはただ『共和派マラガを空襲。市民にも被害あり』とある。是では第一のほうは何と大袈裟に見え、第二のほうはそれが打つて變つてゐるではないか。斯う言ふ風に取扱はれた理由も、恐らく人民戦線派の宣傳のほうはフラシヨ軍の夫れに勝つてゐたからであらう。大體力の入れ方が斯う異つて來るのは、固よりその原因を宣傳と言ふ處に持つて行く外は無い。再び言ふ、新聞はただ一片の報道を掲げるだけでも、以て特殊の宣傳を振り撒く事が出来るのである。例せば一九一八年に米國遠征軍出發の記事や、そのフランス到着や、或は又既に



米國兵が戦線に到達した事などを掲載した獨逸の新聞があれば、それは聯合軍側の宣傳を授けた形である。此邊の事を重大視すればこそ、新聞があらゆる種類の宣傳家、政治的、社會學的、商業的將た又多少調子の狂った宣傳家達の目標となるのである。計算に依れば、現在ロンドンの各新聞の編輯室に集まつて來る記事の三十パーセントは、宣傳の策源地から出たものと言はれてゐる。而して何うかすべしと見え透いたのもあるが、その大部分は然う言ふ氣振りを隠してあるのである。その中の比較的小数が印刷に廻されるに過ぎないが、此邊吾々の新聞が信用ある所以である。扱て新聞紙が平時に於て宣傳者の重用する處だとすれば、戦時に至つては新聞こそ最も肝要なものと成つて來るのである。

一九一八年以來英國の新聞紙は、その組織と性質の双方に著しい變化を來たした。先づその數がすつと尠くなり、その管理經營も少數者の手に歸してしまつた。此の頻りに合體の行はれる時潮に對抗して、古い獨立した新聞紙で精々數千の稀れに一二萬の讀者を有するものが、不利と知りつゝ敢然闘つたものである。が結局、全國を通じて見ると、一九一八年當時には首都及び地方の大新聞がざつと四十七種あり、これが四十五人の所有に屬してゐたのであるが、今ではそれが三十五種に過ぎず、又その經營權は二十七人の手に握られてしまつてゐる。これをロンドン方面で見ると左程眼立たないが、矢張り上述の如き動きがあつて、曾て六種あつた夕刊紙が今では三種だけと成つてゐる。これと

英國の新聞宣傳

同時に、今までの『國民大衆』に對する明確なる共感を標榜した新聞が、一足飛びに變つて來て（予は本來明確なる共感と言ふはうの文字を括弧に入れた處を、わざと逆に國民大衆なる文字を括弧した）ただもう讀者を増す事ばかり考へて、その及ぼす影響のほうは一向お構ひなくなつてしまつた。此の傾向はやがて、見識ある文字を並べる事を忘れて「見出し」と寫眞ばかり大きくする處に見られる。茲に於て新聞紙は、今日のラベル時代の象徴とは成り了つたのである。かくて曾ては一篇の記事のために、一段若くは半段を割く習慣であつたものが、今では同じ報道に電送寫眞一枚、それに「見出し」一、二行を付け、讀む記事は精々三行ばかりとなつた。成程報道には違ひないが肝心の文章を省略してゐるので、以前とはまるで見當が違つて來てゐる。又此頃では商業上の廣告がひどく幅を利かして來て、他の記事を潰してまで豪く紙面を占領してゐるが、その結果として『大衆向き』の新聞は一般の人に品物を買するための仲介物として大きな力は有つてゐても、政治方面の力は失つてしまつた形である。尤も其處にばかり因果關係を持つて行く事も出来ない。と言ふのは、大體此の型の新聞は確實な政策を不斷に掲げると言ふ氣持を既に失つてしまつてゐるのであるから、これを宣傳のために利用して懸からうとするのが無理なのである。何しろ讀者層の擴大が最大眼目だとすれば、新聞紙としてはあらゆる種類の讀者に氣に入られよう入られようとする外は無い。而して何よりも肝心なのは、何人にも白刃を向けまいと言ふ事である。それだからこそ、いつまで経つても『デモクラ

シー』だとか『フアシスト』だとか、危な氣のない處で貼紙遊戯を繰り返す様に成つて來るのである。随つてウエルズの所謂獨逸人のやうに、今では猫も杓子も此の二つの言葉を承知してゐて、前者即ち大いに歡迎愛育すべき何者かであると思ひ込み、後者はこれを唾棄し蛇蝎視すべきだと教へられてゐる次第である。これを要するに、此種の民衆新聞は、最早その讀者の政治思想を指導してはゐない。而かも吾が英國は狭小な國であるから殆んどその全土が此の巨大な者の讀者層で覆はれ盡してゐる。それは時々思ひ出したやうにそんな眞似もせぬではないが、所詮手に負へぬのを見ても、予が前掲した宣傳の原則中の一つが正鵠を得てゐる證左でなければならぬ。

だが此等の諸新聞が一樣に踏襲してゐる——若しくは最近まで踏襲して來た——一線と覺ゆるものは、維れ平和の追求であつて、これを彼等は終局の目的としてゐる。彼等は讀者のすべてが皆平和を望み戦争を嫌つてゐる事を承知してゐるのである。かるが故に彼等は、國際狀勢の現實を見詰める事なく一圖に平和を説き、平和主義諸團體の活動の爲に多くの紙面を割くのである。

併し大體そんな看板が何に成るか！既に斯う言ふ事が言はれてゐるではないか。『害惡に對し何處までも無抵抗主義で居る事は、惡魔の領分を増してやる事だ』と。——言はずと知れた『獨裁者』等を指す譯で、これは吾々の間で餘りにも多く貼られて來た「憎惡」のポスターの一つである。——又曰く『絶對の平和主義とは、邪惡の實相に眼を覆ふ事である』と。これは同時に、次の戦争が可能で

あるばかりでなく恐らく有りそうだと言ふ實相に對しても、眼を閉づるものである。

扱て茲にもう一つ擧げて置かなくてはならぬ事柄がある。即ち大衆向の新聞紙は、讀者の神經を消耗させて、それで繁昌してゐると言ふ事である。實に毎日、版毎に、大衆の感動を突付けてゐるのである。『センセイション』『アメイジング』『スキヤンダル』『トラヂック』『ホリブル』『ブルウタル』等々の文字が紙面からどんば返りをして讀者の眼に飛び込む。その聲音が亦鐵錘の上へ花崗岩の塊を引摺り下ろしたやうな、が、あ、あ、あしたものである。であるから讀者の神經は不識の間にへどへどに疲れ切つてしまふ、と同時に國の内外で何かが起り又は起りそうになる度に、激怒や恐怖や嫌惡の情を吾れから鞭ち驅り立てる癖が付いて來る。個人にせよ、團體にせよ、今や社會全體の神經が餘程確かりしてゐなければならぬ秋に、何處を押せばこんな事を戦争の準備だと言へようか！新聞紙が斯うして擧つて、『センセイション』の激發線を低下させてしまつては、いざと言ふ時に間に合はぬ仕儀に成るではないか。蓋し『センセイション』も亦、彼等の販賣政策と同様新聞の基礎なのだそうであるから。

茲を以て觀るに、吾國の大衆向き新聞紙は、將來戦に備へる宣傳の仲立ちとしては大して恃むに足りぬやうである。寧ろ此の種の新聞宣傳の力は、地方新聞に在る。それも大きな工業中心地帯に基礎を有つたものがよろしい。ただ遺憾とする處は、此等の諸紙は時流に依つて變改を蒙る事に少なかつたにも係らず、讀者層が減つてゐる事である。今此等の新聞は、主として教養の高い人及びそ

の家族に讀まれてゐるのである。若しくは少くとも一般大衆よりも個性のある人達に依つて讀まれてゐると言へようが、然う言ふ人達に向つてならば是が非でも戦争豫見の宣傳を溶びせる必要も無いやうなものである。但し茲で次の二點を擧げて置かなくてはなるまい。即ち第一は、纏まつた政策を掲載しない事を以て新聞紙を蔑視し去るのは不當だと言ふ事である。彼等に見れば、中央當局から來る宣傳に碌なものはないとも、又それがまるつきり新聞側と聯繫の無い代物だともする言分があらう。尤もこれは單なる言分に過ぎず、決して妥當なる理由ではない。第二の點は、これがあらゆる人にあらゆる方面から氣に入られようとする大衆新聞である以上、彼等としては讀者の智識や政治的定見などは高く評價してゐない、のだと予は考へる。かくて予が自身視察した處に依る時は予は躊躇なく斯う言へると思ふ。即ち、餘り淺墓な貼紙宣傳の濫用をしたり、最初は親獨で後には反獨の矛盾した議論をしたり、反獨裁的宣傳を執拗くやりすぎたりする事は、やがてそれ自體から反動が起つて來るであらう。斯かるものでも唯々國民を退屈させ、獨逸に對して一層寛大に物を見るやう培かつてゐるだけの話ならば、平和の間はそれも結構と言ふものである。然うやつてゐると戦争の起る可能性は少くなるかも知れぬが、併し一旦戦争が起れば、斯かる親獨感情が存在しては到底一筋や二筋では行かぬ厄介物と成るであらう。其處へ持つて來て、猶太人ごその一黨があらゆる機會を捉へて吾國內の宣傳を煽り、以てその迫害を訴へようとする執着心が、今や危険な線にまで昂騰して來てゐるの

である。そのため猶太人問題が段々と重大化して來た狀勢である。而かも然う表面化して來る事は、猶太人の立場からして矢張り好ましくない。と言ふのも事を荒立てゝは却つて獨逸がやつてゐる反セミチツクの宣傳を間接に助成する譯に成るからである。

批評に對して色をなす者は、獨り獨裁者ばかりとは限らない。今や英國內に於てもユダヤ人の才能と勤勉を賞めなければ頹迷だとか反動的だとか思はれるところまで既に來てゐるのである。如何に事實に立脚してゐても、猶太人を攻撃しやうなどと云ふ新聞は殆んどないだらう。かりそめにも反セミチツクだと思はれては大變だからである。此の反セミチツク主義が今や世界各国を風土病の如く席捲してゐる事は、不幸な事實であり、而かも飽迄一個の事實なのであるが、但しそれは、甚だしい貿易の不況に見舞はれた時とか、或は地下に逐はれてもせぬ限り、滅多に爆發するやうな事は無い。此の前者は近き將來に起るべく、後者は又猶太人が反獨宣傳を行ふ結果として、今や然う成つて行きつゝある處である。

孰れにしても新聞紙は、要らざる強調を繰返して却つて國內に於ける反獨感情の刃を鈍らせ兼ねない事をして居ながら、他方獨逸その他の處に於て反英感情を煽り立てゝゐるのである。某々指導者等の上に加へられる下品を極め罵言の限りなる言や如何？ それは縦から見ても横から見ても歴とした獨裁者達には相違ないけれども、彼等も亦ひとしく卓越せる國家の頭目ではないか。これでは言ふに

事を缺いて、たださへ緊張してゐる状態を更に更に激成するものでなければならぬ。斯かる事が「デモクラシー」のためだか「平和」のためだか、予には孰方の爲だか能く分らぬが、役に立つ振舞だと思はれてゐる事は、情けない次第である。

こんな事では懸て新聞紙と言ふものは、吾々が國民に戦争の用意をさせる上から直ちに役立て得る宣傳の仲介物たる事が、義理にも出来なくなつてしまふのではなからうか。斯う言つたからとて、何も新聞が、政府の情報局から渡される十把一括げの情報載せ度ならぬとも、政界の大立物の演説を掲げる氣が無いとも、將た又何か然るべき方法で御奉公しないとも、言ふのではない。ただ難點とする處は、今後多くの新聞紙はそれだけの地力を失ふであらう事、並に餘り宣傳を必要とせぬ階級の間にばかり蔓つて行くであらう事に在る。同時に、然う言ふ非友好的な口調を絶えず弄する事に依つて英國政府を困却させ、その海外に對し善處する事をも國內の輿論を纏め上げる事をも、又つながら妨げてゐる。これが又厄介の一つなのである。

新聞と戦  
時の検閲

固より戦争が近迫するや否や、新聞紙は、國防條令に基いて即時に一定の検閲制度の下に置かれる事と成るのである。此の検閲制は、陸・海・空軍の事に關する限り嚴密且つ絶對的である。即ち如何なる新聞紙も、例へば新型鐵カブトとか、ほんの些少でも海軍の行動に關する記事とか、又はパーミンガム上空に於ける空襲の叙述とか、言ふやうな電報を印刷に廻さうとする時は、事前に夫等の記事の

寫しを検閲係りへ提出しなければならぬ。係官はこれを許可し、修正し、若くはその發表を一切禁止する權限を併せ持つてゐる。此の法律は法文そのまゝを解釋すれば、新聞紙は右の事項以外は好きな事を書ける譯に成つてゐる。が實際には却々然う注文ごほりには行かない。例へば、彼等としては自由に政治批判を行ふ事が出来る筈であり、又日々議會の討論に表はれた政府の政策を攻撃する事も出来る譯なのである。然し乍ら戦争中は、議會は頻りに秘密會に這入るから、新聞紙としては其處から洩れる事を屹度嗅ぎ付けられるに決まつてゐながら、何一つ發表する事は許されぬ。それどころか、此の検閲制度は本來事實の曝露を防ぐためのものであるが、その趣旨が一層廣く行はれるためには、新聞紙の全般的協力がなければならぬのである。此點特に銘記すべきである。吾が國の新聞紙に襲めてやり度い事があるとするれば、それは事國家の利害に關する問題に至れば彼等は進んで自からの上に検閲を加へ、戦時は固より平時に於ても能く此の節度を守る事である。とは言へ、斯う言ふ、他の如何なる國でも到底見られぬ信頼の念はあり乍ら、やはり其處に一つの弱味がある。と言ふのは或る一つの新聞が仲間内で一番良心が缺けてゐるとすると、こつそり何事かを素破抜く。而かも其事は一旦發表された以上、他の新聞も皆知らぬ顔して棄て、置きぬものかも知れない。斯かる可能性が目下の處苦勞の種であつて、或は慮るに、一皮剥けば敵方の宣傳機關たる一二の新聞がありはせぬか。

(三)

されば一朝大事の起る以前に、何とか管理の方法を講ずる必要がある、と言ふ結論を免かれる譯には行かない。新聞紙が自から其事を招き、否それを期待さへしてゐると言つてよろしい。斯かる管理は、その形式に就て予も後章に於て一言述べたる心算であるが、やがて國家的宣傳の中央統制的管理であらねばなるまい。これが現下徹底的に缺けてゐる處である。新聞紙と宣傳の中央統制と、此の一方は他の一方無くして考へる事は出来ぬ。仍て統制を受けた新聞の力は（管理と言ひ統制と言ふも寛仁且つ大度なものであり得ると予は信ずる）政府當局がこれに依つて國內は固より廣く海外に向つて不斷に政策の提示を爲し得る事に在るであらう。此點今日の吾國は、全く無力である。英帝國のために種々海外に向つて宣傳をする團體が個人若くは政府主宰の下に活動はしてゐるけれども、宣傳の材料に用ひられてゐるものよりも遙かに感動的である英本國諸新聞の報道が、その報道價値の故を以て世界中の外國新聞に引用されてゐる間は斯る宣傳も大して役には立たない。例へば一方に於て政府系新聞紙が聲を大にして、『失業者數百五十萬に過ぎず！ 素晴らしい！ 昨年同期に比して一萬五千名の減少！』云々と書き立て、而かも他方野黨の夫れが、斯る失業者數は文明國の恥辱であると指摘するならば諸外國に向つて如何に吾國の貿易が殷盛を極めてゐるやうに宣傳して見たところで、何にも成らぬではないか。斯う兩方から喚き立てゝは、正直に宣傳文を叩く印字機のか細い鍵音などは、掻き消されて仕舞ふ外はない。

扱て敵側は如何と言ふに、新聞の組織の方面にも其の性質上にも、これ亦大變な變り方を示したのである。但し變るには變つたが、吾々とは反對の方へ變化した。吾國の新聞紙が其の自由な立場を利用して、ただ讀者の獲得と廣告とに汲々としてゐた間に、獨逸の新聞紙は、第三帝國の建設に對し國內から一臂の力を格したのである。これを今日まで時々彼國で宣揚された壯言美句上の原則だけから判ずると、此の國家社會主義國の新聞紙に振られた役割は、蓋し崇高なものである。即ち新聞紙は、政府と國民との間に立つて仲介の勞を執り、國民の精神力を昂揚し其の道義心を守るべき全責任を負ふのである。又新聞紙は『民衆の教養をつくり、集團的良心を形作る機關』であり、隨つて上は國を危からしむる如き政策を糺し、下は性的墮落までも壓へ付ける役である。但し此の理論と實際との間には蓋し非常な隔たりがあるらしい。先づあらゆる報道と宣傳は『國民教化』並に『宣傳』の主務官廳に於て按配される。此の宣傳省こそ、一九三五年の創設以來引續きグッペルス博士の慧敏極まりなき指導下に在るものである。而して此の省は、單に宣傳用の報道を供給すると言ふ仕事のみならず、それより廣汎且つ多岐な權能を併有してゐる。即ち、新聞紙、ラヂオ放送、映畫、音樂、美術並に演劇に對する監督の外に、尙ほ社内政策に關する一般的報道、國家的休日及び式典日、旅行及び經濟との

宣傳、外國で開催すべき美術展覽會、映畫上映、運動競技會の組織、までも其の職能の下に置いてゐる。それから總ての國家的會合、黨の大會、會議、宴會等も亦その範疇に屬する。つまり此の宣傳省は、ナチ政體の舞臺監督であると同時に、その擴聲機をも勤めてゐるのである。かくて此の下に於ける新聞紙は、曾て何れの國に依つても見なかつた程の、嚴密な規則と窮屈な組織に服従せしめられてゐる。即ち新聞記者は登録しなければならず、又「新聞協會」は宣傳省の下に在つて一個の法制化した團體でなければならぬ。新聞の所有主たる事もその株式保有も嚴密に統制を受け他の如何なる合資會社も組合又は公共若しくは學術的團體も、新聞を發行する事を許されぬ。加ふるに凡らゆる地方に於ける『無用長物』的新聞紙は、すべてこれを閉鎖すべきものと成つてゐる。以上の結果として、新聞紙の數は可成減少し、而してゲッベルス博士の所謂『眞の國家新聞』は政府の彈奏する一臺のピアノでなければならぬ』が實現された。これは一九三三年早期に於ける彼れの演説から引用したもので、尙ほ以下の如く進められた。『新聞は假令何かの點に就て政府を指彈すべき立場に立つとも、能くその表現の形と調子とに戒心して、國內及び國外に於ける政府の敵をしてこれを引用し、以て發禁の危険を冒さずしては言へぬやうな事までも言はしめる機會などを與へぬ事が肝要である。』と。爾來此の宣言の趣旨が漸く結晶して、政府に對する批難は、絶對に許されぬことゝなつた。

斯くの如くあらゆる新聞宣傳を完全に統制し、併せて其他宣傳の仲介機關の悉くを統制し、盡した

結果は、かの政府をして確的に國民の牛耳を執らしめる事となり、同時に吾々に對しては、以前吾方宣傳の通路であつたところで再び將來も通路たり得べきところの往來を、びつたりと閉ざして仕舞つた形である。

日本に於ける新聞の統制

以上の如く公然と統制の價値を量つて見て、且つその有難味を悟つた獨逸は、そのまゝ邁進して、他の如何なる國も企及し得ぬ程の完全さにまで到達してしまつた。而して尙ほ、これに續いて種々の國が種々の程度に於て統制の必要を認容してゐるのである。日本に於ては獨逸同様統制の實が擧げられてゐるが、たゞ其處に到達した手段は全然異つてゐる。此のはうは新聞の責任などと言ふ原則は無いのである。日本憲法の第廿九條は、漠然と新聞の自由を規定してゐる。然し乍ら此の憲法上の自由は、一聯廣汎なる新聞紙法及び警察規則に依つて低減されてゐる。而して檢閲の權利は、内務省並に陸海軍兩省に依つて行使される建前であるが、宏大な選擇權が警察力に委託せられてゐて、これが屢々專斷的に此の權利を行使する。此處へ持つて來て更に、一つの『自發的』檢閲制が發達して來てゐるために、兎角編輯者等は取越苦勞に陥入り、沒收の憂目に遭ひはしないか、罰金を取られはせぬか、投獄されはしまいか、非國民と罵られはせぬかと、何時も恟々もので居るのである。又電信電話の便に依る通信も直接間接に政府の管理を受けてゐるから、どんな用向きでも發信者の知らぬ間に郵便局で抑へられる事がある。尙ほ日本政府は同盟通信社を通じて海外ニュースの國家獨占をやつてお

り、此の同盟通信社は半官的な日本放送協會と連絡してゐる。大體同盟通信社は、曩きに主要なる諸通信社を併合したものであるが、それでも偽裝した軍部の宣傳機關よりは少し優しきものである。斯く印刷した通信の管理と相並んで、政府は又海底電線、及び無電を獨占してゐる。如上の報道配給機關の背後には、更に各省が控へてゐて、夫々當該部局を設けその責任に於て輿論の形成にあつてゐるが、最近内閣情報部を設置したところを見ると、日本は此際宣傳機關を一層綜合的組織の下に收めて、殆んど獨逸と同水準に達する必要を感じ始めたやうである。最近議會を通過した國家總動員法案の諸規定を見れば、這般の消息を窺ふ事が出来よう。

伊太利に於ける新聞の統制

扱て伊太利の新聞紙は、當該法規の條文に隨へば、獨逸と殆んど同程度に嚴重統制を受けてゐるのである。但し「ファシスト黨憲法」の第二十八條は大いに曖昧で、たゞ「新聞紙は自由なれども、法の制限を以てこれが濫用を禁ず」とあるだけである。兎に角新聞紙及び定期刊行物は總て知事の許可を得て始めて發行する事を得るもので、新聞經營者及び新聞記者は全部登録しなければならず、後者は亦品行方正の旨及びその政治的立場を立證す可き事と成つてゐる。かくてその檢閲制は謂はずと知れた全體主義型であり、新聞宣傳省からは毎日同じやうな公示及び報道が發行されるのである。最近更に、在外の主なる伊太利大使館及び公使館に新聞係官又は情報官が任命派遣された。

將來戰に於ける新聞

將來戰に於て新聞は矢張り宣傳家の採つて用ふるどころと成り、これに依つて國民各自の精神力を保持する事に成るであらう。國民は新聞に依つて戰場に於ける自軍成功の目撃談を聞き、それから『苦戰』(決して『敗退』ではない)又はロンドン市の一部爆撃などを程よく傳へられる必要がある。國民各自の愛國的義務を想起せしめ、又これまでも再三繰返した事ではあるが空襲警報が鳴り渡つた場合に爲すべき事への注意を與へる必要がある。それから敵を愚弄するやうな漫畫や冗談をし、こたま掲載し、友好各國の仁義に厚い證據の數々を並べ、敵の野蠻さ加減、同胞の大膽不敵を書き立て、國民を喜ばす必要がある。要するに戰時に於ける防禦的宣傳の方面から言へば、新聞は尙ほ最も完全な宣傳機關と成るであらう。若し夫れ攻撃的宣傳の方面から言へば、尠くとも戰の當初に於ては、新聞はそれ程肝要な機關ではないやうである。何しろ嚴重な取締りといふ物質的障壁があるばかりでなく、予が前章に述べた心理的障壁も在るのである。併し乍ら戰爭が長引くに從つて、敵方の新聞も役に立つことになつてくるのである。

(四)

電信と宣傳

電信は、無線も海底電線も、又つ乍ら大戰の時重大な役割を演じた。但しその後は一寸鳴りを潜めた形で、殊に此頃では種々手品のやうな發明があつたりするため、段々と一般の人の空想の底に愛藏されてしまふ傾向があるけれども、決してそれは『曾ての』宣傳用具ではないのである。大戰當時は



英國が無線電信に於て勝れて居り且つ大西洋海底電線を支配する地位に立つたが故に、吾れより優秀に組織された獨逸側宣傳と漸く太刀打ちする事が出来たのだつた。殊に吾が方が海底電線を支配した一事は、宣傳と作戰との相互的依據の好適例を示したものである。一九一四年八月五日、即ち吾國が宣戰を布告した翌日と言ふに、獨逸の海底電線は悉く吾が海軍の手で切斷された。もともと此等の線は大洋の海底深く横たはつてゐるのであるから、引張り上げるにしても敷設するにしても甚だ面倒である。それを一舉にやつた處を見ると、數日前から切斷の準備をしてゐたに違ひないので、此點吾々にも大いに多しなればならぬ。その海底電線は二本であつたが、その内一本を吾國で取つて、コロンブス地方のペンザンスへ持つて行つて陸揚げし、他の一線は佛蘭西側がブレストへ持つて行つてしまつたのである。但し吾國では、押收した此の海底電線を、一九一七年七月まで敢て使用しなかつた。そして切角利用したと思ふと同年の十二月には駄目に成つてしまつたので、戰爭が濟むまで再び使用しなかつた。かくて平和條約に際して、偶然それが吾國に引渡され、現在では大西洋を越す二本の海底電線のうち、優秀なほうの一本と成つてゐるのである。左様な次第で、假令大戦中それを吾が有に歸せしめて置き乍ら餘り吾方宣傳の用に立て得なかつたとしても、獨逸宣傳の重要な導管を塞いだ譯である。故に獨逸は止むなく、ナツエンからの無線電信を頼りにして國外各國へ通信を送る外なかつたのである。此のナツエンからの無電路は、遠くベルシアからメキシコに達し、その報道

はヨーロッパ以外の地に設けられた獨逸領有の各局でこれを受繼いでゐた。それでも尙ほ且つ獨逸のほうに不利であつたと言ふのは、英國の各無電局がアメリカへ通信を送る上でより好く位地してゐたからである。其後アメリカが聯合國側に味方して參戰するに至るまでは、米國こそ最も大切な中立國であつたのである。かくて吾國は、今日に至るまで右の優位を保ち續けてゐる。即ち大戦以後、獨逸側でも英國側でも改めて大西洋横斷の新線を沈める事はしなかつたし、獨逸に於ける無線電信の其後の進歩も、おほよそ吾國に於けるその發達と似たり寄つたりのものであつた。孰れにしても電信は、今後尙ほ重要である。殊に暗號に依つて送られる通信は總て尙ほ更である。たとへば宣傳用の報道と雖も、必ずしも常に公然と放送し度くない事もあるし、殊に軍事的報道に至つては尙ほ更である。場合に依つては、はるか中立國に居る通信員の處へ有りのまゝの戰爭の報道を送り、それを基礎として都合の良い足場から勝手な扱ひ方をさせるのが優しなこともある。

何にしても、新聞紙の如き宣傳送達機關よりも、寧ろ電信のほうが宣傳を廣める方法として勝れてゐる事は事實である。これと同様の意味で、空中からする宣傳撒布も有効である。此の場合には小冊子パンフレットが宣傳送達機關であつて、飛行機若しくは氣球は、それを頒布する單なる機械的手段に過ぎない。空から落とされる宣傳と成ると、口で言ふものは別として、書かれた宣傳では最も直接的な宣傳である。而して公然たる宣傳である。随つて隠匿などと云ふ事は考へられない。且つ頂門一針的に、一時



に一點を指し、簡単な、疑はしい處の微塵も無い言葉で、これを呈示し得る。されば全く攻撃的宣傳の武器たるものであつて、敵國の新聞紙を通じて敵を攻撃するの困難を惟ふ時は、將來戰に於てはこれが無上の重要性を帯び來たるものであらう。さなきだに大戰の際には、その數は實に異常な量に上つたのであつた。即ち一九一八年の六月及び七月には、夫々少くとも百六十八萬九千四百五十七枚及び二百七十七萬二千七百九十四枚以上の假綴が、フランス及ベルギー領内の獨軍戰線の上方面に後方へ撒き散らされたのである。それが八月に成ると、一日平均十萬枚を突破して、一ヶ月の總數三百九十五萬八千百十六枚、九月には三百七十一萬五千枚、十月は五百三十六萬枚、更に十一月初旬の十日間だけでも百四十萬枚とあるから、正に獨逸側の慨嘆どほり『聖き神の空から降る英國の毒液の雨』の洪水であつた。あの時若しも休戰問題が起らなかつたとしたら、その洪水はいよいよ澎湃たる勢ひを増した事であらう。蓋し一週間で三百萬枚の紙片を獨逸國內に持つて行つて撒き散らす準備が、その時既に出來てゐたのであつた。茲にキヤムベル、スチエワートの言を引用して見るならば、彼は斯う言つてゐる。『此等の紙片は、簡単な言葉が書いてあつて、獨逸の指導者等がひた隠しにしてゐる眞實の事を、獨逸人に知らしめると言ふ狙ひであつた。そこで何を知らせたかと言へば、各方面に於ける戰争進捗の状況や、一と目で分るやうに地圖を塗つた聯合軍側の占領地域等である。更に米國から毎日到着する軍隊の老大な數を強調し、……獨逸軍の損害、隨つて既に勝味を失つた此上餘計な犠

牲を拂ふ事の無益な事等を、大いに強調したものである』と。恰もその頃、吾方からする軍事的經濟的壓迫が漸く積極的な効果を現はしはじめて來たのである。即ち時は熟した。何方を向いても宣傳當局の材料に成りそうな事ばかりで、これを選び出しては敵方に叩き付ける。その敵は既に萎縮し切つてゐて、精神力も何も無かつたのであつた。ヒンデンブルグは當時の獨逸の軍隊に就て、次の如く感懷を述べてゐる。即ち『兵は此等の宣傳を以て敵の虚構ばかりだとは思へぬと言ひ、やがてそれに依つて吾れと吾が心を毒し、遂に仲間の心をも毒するに至つた。』と。悉く虚構ばかりどころの段ではない。それは殆んど皆眞實だったのである。また眞實であつたからこそ、それ程效目があつたのである。大體一九一八年頃は、問題は既に宣傳の材料を物色する事ではなくて、それを敵戰線の上及びその後方へ如何にして運んで行き、如何にして安全に撒布するかにあつたのである。勿論その手段は飛行機に依るものであつた事は謂はずと知れた話である。だが此の方法に乗じて軍の宣傳部を驅使したノースクツフの存在は、正に獨逸人を震駭せしめたものであらねばならない。されば獨逸側は時を移さず、斯かる宣傳飛行に來て捕虜と成つた英軍操縦士に對し嚴罰を課すると言ふ趣旨を發表した。而して折柄捕へられた吾が空軍の二名を、脅し文句どほりに即刻處刑を加へたのである。然るに吾が方は、何の理由とも知れず、これに對して何等報復もせず亦復讐の手段をも講じなかつた。おまけに宣傳のために飛行機を利用する事をも、そのまゝ差止めにしてしまつたのである！ ノースクツフ

フは再三當局に向つて抗議を申入れて見たが、結局の返事は斯うであつた。曰く「英國政府としては、獨逸側より飛行機上よりする文書の散布は戦争法規に反するものなりとの抗議を受けたるに對して、目下反駁交渉中……」である。それから一箇月後に、ノースクリップ卿は再び抗議書を差出したけれども、その後幾週間も空しく過ぎてから漸く吾が戦時内閣が御輿を上げて、元通り飛行機を利用すると言ふ處まで行つたのである。而かも然う決つてまで、尙ほ航空省から酷く異議を申立て、來た。そんなこんなで本當にもう一遍飛行機を使ふように成つたのは、休戦の二週間ばかり前だつた。而かもその間獨逸は時折、宣傳飛行機を飛ばせ、佛軍に至つてはすつと飛ばせ通してゐたのであるから、蓋し沙汰の限りであつた。此の如き不可解な没我的命令を出した結果は何うであつたか。宣傳戦の絶頂だと言ふのに何を蒔くにも宣傳用氣球を用ひると言ふ譯合に成つてしまつたのである。何邊もなく試験を繰返し改良を重ねた揚句、漸くこれなら良しと言ふ型が出来上がった氣球は、紙製で、圓周廿呎、高さが八呎と少々、容積が九十から百立方呎、此の氣球一個の標準積載量四ポンド若干オンス、随つてそれで、假綴だの宣傳用紙が、大きさに依つて五百冊から一千冊運べる譯に成る。而して其の空中に於ける放發は、豫め發火信管を調整して何分後に爆發させると言ふ風に工夫し、パンフレットを撒かうと言ふ所望地點への距離と風速とに合はせて飛ばすのである。此の方法は却々工合良く行つたのであるが、何を言ふにも文字通り其の日の風任せであるから、出来る限り風向を考へてや

つても然う思ふやうには行かない。假りに南西風が白耳義の方向に吹いてゐたら、その紙風船は一齊に被占領地方民へ向けた宣傳文を積んで飛ばされるし、若し又北風乃至北西風であつたならば、今度は獨逸の軍人及び民衆向けのパンフレットを積んで行く、と言ふ風であつた。

將來戦空  
中より  
の宣傳  
撒

次の戦争に於ては、よもや斯かる破目に陥入る事もあるまいと思ふ。第一獨裁主義諸國が、今や宣傳を以て平和の爲に最も肝腎だと認めてゐる位であるから、今度はもうそれが戦争法規に反する等とは言ふまい。それどころか、戦争と成つたら彼等のはうからこそ、夢中に成つてその策を用ふる事であらう。扱て航空機が發達しその行動半径が著しく擴大された結果、中央歐羅巴の如何なる都邑も、亦實際上英國列島の如何なる街も、宣傳文書の空中散華が及ばぬ域外に立つ事は出来まい。日本は餘程その被害を受ける事が尠いであらうけれども、極東の亞細亞大陸本土からは、容易に飛んで行つて蒔き散らす事が出来る。例へば支那から、若しくは吾々の有力な（と言つても非常に疑はしい）友好國たるロシアの何處か一部から、對日宣傳機群の編隊が飛んで行く有様など、予は今から想見する事が出来るのである。

孰れにしても、よし戦争が如何なる戦線で膠着状態に成らうとも、上述の紙風船の如き氣まぐれなものに託して宣傳文を撒くなどと言ふ必要は殆んど起りはしまい。這次のスペイン内亂では、火箭の使用が發達し、既に一哩半の距離に到達し、一弾毎に一千冊のパンフレットを散布し得たと言ふ。

此の距離がやがて二倍或は三倍に増されないと誰が言へようか。尤もロケットと言ふ策は吾れに當面する敵戦線の兵士に向つての宣傳だけに適するものやうである。蓋し交戦地域の火線とそれほど密着した處に敵の住民が集つてゐる場所が實際にある事などは、滅多に見られないであらう。

(五)

傳映畫宜

宣傳の媒體としての映畫の價值は今更喋々するまでもない。それは平時に於て、廣汎な目的に亘つて存分に證明された事である。予も亦、アメリカ映畫が曾て世界に比を見なかつた程自然で間接的で且つ偉大な宣傳力であることを既に述べた。然し乍らキネマにも、一定の制限がある。第一、映畫は作るのに時間を要する。ここで、見せるのに十分懸かる一卷のニュース映畫と、俳優や景色を呼び且つちやんと設備の整つた製作所で作られる長い藝題映畫と、此の二者の間に存する區別を知つて置かなければならぬ。前者は費用も安く、手取早く出来る。又製作所へ持ち込んで其處の設備の御厄介に成らなくても出来るし、劇場でも上映出来れば移動車からでも寫せる。後者は、宣傳の形式として甚だ高價なものである。一回映し終るのに一時間なり一時間半なり懸かる普通の映畫ならば、非常の場合前後二週間位で仕上げれば仕上げられるであらうが、通常は三ヶ月から六ヶ月、若しくはそれ以上も懸かる。脚本の性質、製作所の組織の善悪、その他の仕事等に依つて、右の期間の長短を生ずるのである。そこで、大概の宣傳は新鮮であつて且つ斬新な題目に觸れてゐなければならぬ處からして、兎角映畫で行くと立ち遅れの苦杯を甜めさせられるのである。

第二には、映畫に依る宣傳の「イロハ」として、宣傳映畫を作る事のはうが、その觀客を獲る事よりも容易だ、と言ふ一事がある。茲に於てか、此の仕事に心理的方面的考察が入用と成つて來るのである。大體世間では、映畫を以て民衆娛樂の普通の形式と見る習慣がついてゐる。されば彼等が、心を躍らせたり、涙を流したり、或は楽しい想ひをしよう等と思つて映畫を觀に行く限り、その間自然に多量の宣傳を吸収してしまふ。これ聖林映畫が爾かく大きな宣傳力を持つた所以である。固より其の宣傳は、娛樂に附隨せる偶然的なものであるが、而かもその意圖的でなく又強制的でない處に却つて効果があるのである。これが始めから計畫的に宣傳用として製作した映畫と成ると、二重の困難が伴ふ。即ちその一は、若しもそれが普通に映畫館で上映されるものだとするれば、やはり興行映畫としての定型に當て嵌められねばならない。故に興行本位のものと同じやうに監督し、同じやうに氣の利いた寫し方をなし、同じやうに面白い筋を運ばなくてはならぬ。——一言にして盡せば、大向ふを喰らせ得ないやうなものであつてはならないのである。又勿論の事、それは發聲映畫でなければならぬ。何故なら、英國の觀客にとつては舊式な無聲映畫は幻燈と同然で、過去の代物だからである。且つ何は措いても、露骨な宣傳であつてはならぬ。そこで問題は、丸藥を如何にまぶしてうまく嚙下ませる

かにあるのである。かと言つて餘り鍍金を利かせ過ぎて本来の使命を没却してしまつては、何にもならない。第二には、それなら一層の事堂々として宣傳映畫と銘を打つて行く事にする、却々金を拂つてまでそんなものを觀に來ては呉れないのである。又假りに觀に來て呉れたとしても、然う此方の注文ごほり素直な氣持ちに成つて宣傳の趣旨を納得しては呉れない。仍て中庸を執つて行く、映畫館が其の他然るべき會館を賃借りして、見物人を狩り出して來る事に成る。だが此の方法の拙い事は、觀客が始めからそのつもりで來る。而して其處で拜見させられる宣傳につひ反抗の氣持ちを抱きたがる。さなきだに設備の不十分な室を俄仕立の映寫室にするのであるから、兎角映寫も音響も効果貧弱と來るであらうから、お客は佛頂面をして歸つて行くに決まつてゐる。此の相手を不快にして歸すなごは、宣傳家として決してすまじき事ではなれない。であるから此のまゝでは、結局質の低下した觀客を狙つて、ごうにか齒に立つ相手ばかりを引張り出すと言ふ事に成つて來る外は無い。今、英國の大衆の中から一人の觀客を引出して來て見ると、英國民にとつてのトーキー・フィルムは既に珍らしいものでも何でもなく況んや贅澤でもなく、むしろ一週間目か二週間目に攝取する必需品なのであるから、自然宣傳映畫などは到底受け容れないものと思はなければならぬ。英國の大衆では、映畫の技術的失敗に對して批判的に成り度がるばかりである。それに較べると、例へば獨逸を引括めた中央歐羅巴あたりの百姓のお客様なら、仕事は樂である。以上は映畫に於る一般的な制限であつて、而

攻撃的宣傳映畫

して戦時に際しては、此の制限は一層増大されるのである。若し夫れ攻撃的宣傳に關すれば、時期として立遅れに成る事、言葉に就て難點を生ずる事、問題と成つて來る。而かも更に重大なのは、これが配布の問題である。通常の時ならば規則的な配給手段が存在する。即ち夫々の映畫館へフィルムを貸給するのである。然し此の方法は、戦時下では必ずや國家の統制下に置かれるであらう。假りに今、或るフィルムの原畫を敵國內に密輸出し得たとして、若しくは更にこれを公開し得たとしてからが、それで幾何の利があるだらう?! 一本のフィルムは、短時間、且つ一時に一定の場所で見せ得るだけである。而かもそれが短いニュース映畫である場合はその生命は更に短かきを加へるばかりである。

防禦的宣傳映畫

防禦的宣傳乃至は中立諸國及び友好諸國へ向けての宣傳でふ分野に於ては、映畫の利用方面は多岐に亘つて來るであらう。且つ自國民に對しては、實に效果無上のものであるだらう。彼等にして戦闘精神を十分張り切らされてゐるとすれば、公々然たる宣傳に對しても大して批判的にならず、亦一層娛樂に餓えてゐるであらうから、宣傳が蔭に隠されてゐることを疑らないだらう。殊に軍人ならざる一般國民としては、報道版や説明映畫に依り、時に應じて或は鼓舞され或は慰安されるばかりでなく、例へば又、防空作業を教へられたり、防毒面の取扱ひや装着上の注意等を示達されるであらう。尙ほそんな事は一切後廻しとするにしても、映畫の有する重要な効用として、戦時に於る純粹な娛樂とし

戦時に於る慰安映畫

て國民の心を紛らせると言ふ一事がある。吾々は、かの大戰中アメリカ映畫が勤めて呉れた役割りに對し、未だに感謝し切れぬものを持つてゐる。一九一四年以前の頃は、吾國の映畫館で上映されるフィルムは大半を自國の手で製作し、或はこれを歐洲から輸入してゐたのである。然るに此の供給が忽ち干上がつてしまつた。と言ふのは吾國でも歐洲でも、映畫製作方面の人間がすべて、もう少々手荒らな仕事のはうへ召し出されてしまつたからである。そこで此の既に大衆的になつた娛樂形態に、一つの隙孔を生じてしまつた。此のギャップを、アメリカが最も効果的に埋めて呉れたと言ふ譯である。

戰爭の進むにつれて、劇場なり映畫館なりで國民の氣持を柔げたり紛らせたりする事の必要は、對庶的に増大する。ために普通の形式に依る娛樂ならば、官憲の干渉や切取りを出來るだけ少くする事と成り、國民も亦それを望み且つそれに甘へる氣持に成つて來るのである。尤もこれには一つの危険がある。それは空襲防衛の見地からして、民衆が娛樂の場所に蝟集してゐる事は、面白くないのである。故に兩者の兼合ひをうまく附けて行かなければならぬのであるが、ごつちみち、宣傳力の事は暫く措くとしても、慰安としての映畫の價値は、毫も變る事は無いのである。

友好諸國及び中立諸國に向つてする宣傳映畫の價値も、非常に大きいものである。一例を挙げれば、巧みに宣傳映畫を用ひて態度不鮮明な二つの中立國の間に鬨着を捲き起こさせ、以てその一國若しくは兩國ともが吾々の當の敵側に左袒する事を妨げる事も出來よう。現に獨逸は斯う言ふ目的を以て、

中立國に  
對する  
傳映畫

一九一六年、アメリカで二本の娛樂映畫を作つてゐるのである。然し乍ら宣傳映畫の眞個の活動範圍は、交戰國の困苦、又はその戰爭への努力並に人的、物的、精神的資源がどんなものであるか、それに就て明確な證左を與へる處に在るのである。例へば獨逸に對して快からず思つてゐる國々へ持つて行つて、良く撮れた要領のいい註釋を付けた報道版を上映し、これに依つて空襲を受けたロンドンが幾何の死と破壊とを生じたかを教へ、又(希くはであるが)如何にロンドン子達が毅然としてゐるかを見せてやる事が出來たら、どんなに工合のいい宣傳に成るか想像するに難くない。かのバネー號事件のニュース映畫に依る、深刻極まる反日宣傳を想起すれば、蓋し想ひ半ばに過ぎるものがあらう。

他方、或る國の戰時態勢若しくは其の資源を他の一國に示すため映畫を使用する事は、今後一層慎重に事を計り、且つ歐洲大戰當時の行き方よりも一段と工夫の積んだ扱ひをしなければならぬ事は、論を俟たない。固より其頃の戰爭映畫にも、立派に宣傳の役を果たしたのも多くあつた。殊に伊太利、ロシア等の友好國及び中立國へ向けたものがよかつた。但しその効果は、必ずしも此方の意圖どほりには行かなかつたのである。當時吾國の戰時宣傳映畫の方を擔當したエー・シー・ブロムヘッド大佐に聽くと、面白い話がある。餘り無教育な觀客や、突然で趣旨を了解する事の出來ない觀客となること、此方の映畫に對して思ひも寄らない反應を示して來ると言ふ事である。例へば、ロシアに向つて吾方から優秀な寫眞を送り、吾が堂々たる戦艦や輕快な驅逐艦、哨海艇が、灰色に曇つた北海や英吉

利斯水道で警戒並に監視にあたり、又は地中海の緑の波を蹴つて潜水艦と闘ひ、熱帯洋上で敵の潜入して来るのを驅逐撃滅してゐる有様を寫して見せたのである。此の寫真をやる方の側としては、これに依つて、海を知り英國海軍の傳統を讃仰する人達を煽る心算であつた。ところが不幸にして、その映畫を見せたロシアの人間の大多數は、海等と言ふものを曾て見た事がなく、驅逐艦等と言ふものは名を聞いた事もなし、況んや吾が海軍の歴史なんか殆んど知つてゐよう道理が無いのであつた。と言つて此の映畫が彼等にまるで何の印象も與へなかつたと、言ひ切る譯にも行かないのである。無智も甚しい連中はその映畫を見て何か恐怖のやうなものを感じ、又見物の殆んど皆が、難かしい映畫で能くその意味が分らない有様であつた。更に悪い事は、全く反對の效目を生じた處もある。一例としてこれもロシアでの事であるが、上院委員会に出席したアメリカのロビンズ大佐が、親しく目撃談をやつて大いに駭かせた事がある。それは、『種々な映畫や書いたものを見せて、フランスが如何に偉大であるか、イギリスが如何に物凄いか、又アメリカが何と壓倒的であるかを教へる。それから、吾方では茲數週間を出でずして二萬臺の飛行機を戦線に送る事が出来る事、吾方は數ヶ月内に四百萬の兵力に成る事、もうほんの一息で戦は勝ちである事等を吹込む。すると土百姓の兵隊は斯う言ふのであつた。(ふうん然うか?ちやあもう一息の處で聯合軍側が勝つと言ふのなら、こちごらは今まで分分に戦争したり働いたりして來たのだから、此邊で歸らして貰つて久し振りで親兄弟にも逢つて來る

でしょう)と、斯くの次第である。即ち聯合國側宣傳の實際の效果は、こんな風に見當外れの樂觀論を生せしめたのであつて、ために被宣傳者等を驅つて、緊禪更に一番するどころか、一寸此邊で一服させて貰はうとばかりのんびりした氣分に成らせたのであつた。

尤も一九一八年以來、映畫も迅速且つ廣汎に發達したから、これからの觀客は今の話の頃と異つて、何處の國へ行つてもそれ程愚直な事もあるまいと思はれる。寧ろ彼等の質が悪く成つてゐて、露骨すぎる宣傳には乗つて來ないと言ふ處に危険がありさうである。随つて一本の宣傳映畫を作つてこれを多くの國々へ映して廻らうと言ふ計畫は、恐らく駄目と言ふ事にも成るらしい。現在の映畫教育の狀況から見れば、各國若しくは一聯の國々(これは人すれした國民が類を以て集まつてゐる)に、夫々特殊の考察を下す必要があるであらう。換言すれば、國に依つて特別に作つた映畫が入用と成るであらうが、然うするには非常な費用が懸かる事であるから、或は到底實際には採り得ない方法かも知れない。

扱てこれ等のニュース映畫として公然宣傳の用をなすもの外に、尙ほ娛樂向きの映畫を作つて、當面の敵に當て付けた性格を敵役に演らせるとか、或は一層巧妙に宣傳の趣旨を鼓吹するとかする事も亦一案である。例へば吾々の手で、例の「クラブフト博士」型の映畫を作り、その邪惡な獨逸人スパイを現今の人物にするのも良からう。恐らく獨逸、伊太利あたりも然うなれば黙つてはゐまい。

必らずその役柄を逆にしたものをこしらへる事であらう。彼等のはうとすれば、主人公は差しづめナチの突撃隊員か、ファシスト黨員たる海軍の下士官あたりで、これに憎むべき英國の資本家か海軍士官位が絡む事と成るであらう。將來戦に際しては、旺んな映畫生産業を所有してゐる事は、極めて確かな國有財産であるに相違ない。此の見地からするときは、吾國とて廿年前の昔よりは餘程ましに成るではあらうが、決して樂觀出来るどころの話ではないのである。然う成れば依然米國が世界中の需用を充たす事に成らう。此の國は斷然他國の追隨を許さぬ其の方面の生産國たるばかりではなく、一層重大な事には、廣く世界中の映畫配給組織を支配してゐるのである。そのためか非ぬか、今日世界の到る處で何の程度まで反英感情が燃えさかつてゐようとも、矢張り獨逸風のものよりも英國型の描寫のはうが依然として一般に歡迎されてゐるのである。何にしても獨裁主義諸國に對するアメリカの根強い嫌忌の情が、確かに娛樂映畫の製作者等の上にも働いて、觀客の共鳴を誘ふ一方、上記の國々の國情はわざと意地悪く描き出してゐるのである。

配給と宣傳

配給は製作と同様に重要な事柄である。若し配給の點が不備ならば、最優秀の製作も徒勞に歸するであらう。更に悪い事は、若し配給を擔當する人間が、製作品の中に表現されてゐる見解に對してたまたま不快を抱いてゐる事ありとすれば、切角の宣傳を逆用する方面へ向ける事も出来る譯である。これが無聲映畫の頃ならば、切取つたり字幕を變へたりする事も容易であつた。發聲映畫又は音響映

畫と成ると、フィルム其物に録音してある場合は、音に手加減を加へる事は、それ程易しくはないが通常ニュース映畫に用ひられてゐるやうな、レコード解説で説明がついてゐる場合は、音に手を入れるのは譯の無いことである。新たに吹込んだレコードと取り替へさへすれば、事實は歪曲されて親英的であつたものも巧みに反英的になるのである。これに類する事が、現に大戰中に行はれた。ブラウニング提督に當時の想出話を聴くと、『沈黙家の海軍』をさんざん説き伏せて、漸くその活躍狀況を寫させると言ふ處まで運び、これを一本の無聲映畫に仕立てて『準備成れる英國』と題して賣り出した。ところが米國に於るこの配給が『聯合國側に親し味の感情を有してゐる連中とは別口の人間の手に渡つた』と言ふのは何時の間にか標題が變つて『準備に狂奔せる英國』と成つてゐて、本來の趣旨がすっかり變へられてしまつてゐたさうである。『獨逸人がこれを執つて、吾々への逆宣傳に用ひたのだ』と、ブラウニング氏は述べてゐる。

(六)

ラヂオと宣傳

宣傳の量と速度を全く一變せしめた新しい機關は、無線電話、即ち平たく言へばラヂオである。大戰當時はそれは未だ研究室内の一胚種に過ぎなかつたが、それから三年或は四年後に成ると、科學實驗家の玩具と成つて來たのである。B・B・Cの放送も、一九二三年に始めて行はれた頃には、ほん

のか細い、甲高い音がエーテルの波に乗って傳はるのを、鑛石受信器と例の『猫のひげ』とでもつて漸く掴まへて聴いたものであつた。それ以來、此の發明は躍進又躍進を重ね、發明自體の急速な勢が、恰もこれに目を付けた政府や政黨の意志に依つて一層拍車を懸けられたのである。仍で殆んど一足飛びにデマゴグの媒介物として世の珍重する處と成つてしまつた。随つてよし新聞雜誌が統制された隠やかな宣傳ばかりを滿載し、何れの映畫も同様の香氣を發散させたにしても、此のラヂオのお蔭で所謂『雄辯家』なる者が直接に大衆へ働きかけ、言葉と美辭麗句に依ると同じに聲と抑揚に依つて民衆の喜怒哀樂を繰り得ることになつたのである。それどころではない、彼れは六千人の聴衆に向ふ場合と幾らも違はない準備でもつて、六千萬の國民に呼びかける事が出来るのである。されば、擴聲機が獨裁者等を生み出した、とさへ言はれてゐる。(尤も此の敷衍はちよつぱり眞實だと言ふだけの話であるが)又ラヂオは吾が英國の國民は固より外國人等の心裡に描かれてゐる英國皇室の地位を鞏固なものとすることに力があつた。蓋し然う言ふ外國人達は、英帝國全般の人々と同様の熱心さを以て、ジョージ五世陛下の放送に聴き入つたのだつた。ラヂオに依つて達成された數々の事は、茲にこれ以上喋々を要せぬであらう。平時に於ける宣傳のためにこれを利用してゐる事は、毎日、而かも終日これを認める事が出来るのである。或は不意打ちの偶然的宣傳と成つて現はれる(流行歌や喜歌劇の當り場面の中繼放送)。或はリュクサンブールとかノルマンディーとかからの、専ら商業的な宣傳である事もあ

ラヂオの  
直接性平時の宣  
傳とラヂ  
オ

る。或は又、大臣連や醫者や教育家等の講話の如き、政治上若くは社會上の宣傳も放送される。少し神經の鋭い人間か専門家ならば全體主義諸國——特にロシア、獨逸、伊太利——が、不斷に世界に呼びかけてゐる宣傳を捉へる位、譯は無い。それは、或は革命の宣傳である。而かも革命と名が付ければ何でもいいのである。或は獨逸文化やその殖民地の宣傳である。又はイスラム魂を謳ひ殖民國としてのフランスと伊太利と將來等に就てである。此等諸外國には特設の無電局があつて、其處から夜も晝も只管宣傳を我囀り立ててゐる。その中には公然なものもあるが、大部分は其の企圖を隠匿してあり、且つ多くの場合非常に巧みに装つて出て来る。仍ち平時に於ける宣傳用として、ラヂオが効力ある事及びその使ひ方の如何に就ては、最早疑を置く餘地は無いのである。だがそれが、次に來たるべき戦争に於て、如何なる役目を果すものであるかは、今から明確に切言する譯には行かない。言ふまでもなく、各交戦國はラヂオを、あらゆる可能な方面に使ひ盡さうとするに相違ないが、それにして一體何う言ふ風にそれを行ふか、である。それには三種の波長があつて夫々異なつた宣傳用途を爲す事から、考へて懸かる必要があるだらう。先づ短波長であるが、これは發光無電とも謂はれて専ら長距離用のものである。而してこれを到達せしめようとする國の方向を、豫め決めて懸かる譯であるが、勿論その方向線の兩側にあたる他國からも聴かれる。されば今或る英國の短波無電局が北アフリカに向けて放送するとすれば、これは必ずやマルタ島で聴取され、又おそらく印度でも同様に聴き取

將來戦  
ラヂオ

短波放送



れるであらう。ところで吾國最大の短波無電局は、ダヴェントリーにあるが、モスコの夫れと俱に世界で最強力のものでされてゐる。此處から出る無電は、實に世界中到らぬ限は無いのである。其處には三つの異なつた送波機が備へられて三つの異つた波長を出し、聴取時間中の各種條件の孰れかに適合させるやうに出来てゐるのである。而してその指向先きも聴取の時間に應じて夫々取り換へられる。

長波放送

長波がこれより力の弱いものである事は間違ひない。それは第一、國內放送用として用ひられてゐるのである。尤もドロイトウキツチの局あたりは、全歐に亘つて聴こえ、遠く東獨逸でも鬼に角聴こえる事は聴こえる。最後に、中間波長のものもあるが、これは全然國內用である。例へばロンドン・ナショナルの如きは、帝都を中心とする地域以外では滅多に聴き取れない。これに反してロンドン・リージョナルのはうは、すつと強力で、條件さへ良好ならばフランス又はベルギーの北部諸地方でも聴き取れる。従つて短波と長波とを以て攻撃宣傳の用に供し得べく、長波と中間波長とは防禦的宣傳に向く譯である。だが海外向けとして最も役に立つのは矢張り短波であらう。それは短波獨特の到達距離と、容易な事ではこれを防害し切れない事に負ふものである。

此のラヂオ宣傳も、他の方法に依るものと同然に、その主たる用途を大別する事が出来る。——即ち、敵を攻撃するため、友好國に親善の意を送るため、並に自國々民を鼓舞するため、以上である。

ラヂオ宣傳の條件

或る意味から言へば、ラヂオは、宣傳の甚だ容易な形式である。何故ならそれは寔に直接的であり、而かもほんの僅かな設備を以て足りるからである。何は無くとも相應な力を備へた發信局と確的な政策に根ざした放送材料さへあれば、それで澤山なのである。此等の放送事項は、通例被宣傳者が自分の家にて、暇な時に、何なら暖爐の火の前でも聴取るのである。但しどつちみち、聴く氣に成つて聴く時でなければならぬ。これだけの利點はあるが、又一方に於て先づ必要な事は、第一に被宣傳者が無電受信器を有つてゐて、放送を聴く事が出来且つ進んで聴いて呉れなければならぬと言ふ事である。それから第二には、ラヂオ宣傳は通例頭からそれと明瞭であることで、即ちその出所を秘匿する事は困難である。如上の不利は、就中攻撃的宣傳の範圍に於て影響を生じて來るであらう。されば獨逸のやうに、自國の國民を最も完全に圍ひ込んだ國に在つては、他からラヂオ宣傳が忍び込みさうな抜孔の著しいものなど、決して棄て、置く筈が無いのも當然である。獨逸には凡そ六百萬のラヂオ受信器があると謂はれてゐるが、平時に於てすら之等の使用は所有者並にその家族に限るとの制限を受けてゐるのである。所有者は又、ロンドンやモスコあたりへ波長を合はせて、友達を家へ呼んで來て楽しい宣傳の聲を聴取しよう等と思つても、それは許されない。況んや戰時に於ては此等の制限が一層強化されることは疑ひない。また外國の無電放送を聴取し得るほど強力な受信器は、沒收と言ふ事に成るであらう。日本に於ては斯かる制限は既に存しており、標準受信器は日本國內の無電局

日獨に於ける聴取制限

だけ聴取れるやうに作られてある。日本が無電に對して布いてゐる制限は、殆んど獨逸が新聞に對する夫れと甲乙無しであらう。然し孰れにしても、アジア大陸若しくはアメリカからすれば、日本へ無電を達せしめる位譯の無い話である。されば支那に確かりした發信局が一つも無い事は、如何にも残念な事と言はざるを得ぬ。而もアメリカ方面から少し規模の大きい宣傳を向けようとしても、日本の採つてゐる右の制限が有力な障壁となるであらう。

假りに被宣傳者があつて、自からセットの調子を合はせて吾國の宣傳を聴く氣に成つたところ、以上のやうな譯であるから、極く稀れに、それも非常な困難と個人的危険とを冒して聴き得るに過ぎない。何となれば左様な聴取をする事は死刑をも含む大逆罪とせられるに相違なく、恰も獨逸に於て大逆的論述の刊行に對して現在既に定められてゐるのと同じ刑罪を受けるであらう。そればかりではない、前述したとほり吾々の假想敵は、戦争の當初に於ては敢て吾方のラヂオ等を聴かうとは思ふまい。但しそれを聴いて吾人を愚弄する位の事はするかも知れないが。

ラヂオの技巧

尤もラヂオ放送は、その本來の出所を發見されぬ間に素早くこれをやり遂げてしまふ、と言ふ機會に恵まれるであらう事は確かである。蓋し送波機送信機の波長を取り換へて、例へば、獨逸でも聴取出来るくらの強力な英國の一局から獨逸が常時使用してゐる波長で發信し、何か是非知らせ度い報道があつた時に恰も獨逸の局からの放送のやうにみせる等は比較的容易な事である。但しこれには、獨逸の送

波機が働いてゐない時間をうまく選ぶやう、而かも獨逸國民が聴取出来る時間又聴いてゐる時間を捉へるやう、注意してやらなければいけない。それでも詐計だと言ふ事は直きに暴れるが、併し大抵はそれまでにもう此方の宣傳を彼方此方へ植え付けてしまへると言ふものである。若し一九一七年のバツシェンデール戦の末期の諸戦鬪頃、何處か獨逸の一局が巧みに英國内に放送を送つて、吾軍前進の實狀並に吾軍の死傷者數を曝露したとしたり、吾人はどれ程不安に驅られた事であらうかを想像して頂きたい！ ほんの二三の事實と死傷者數だけで十分奏功したであらう。

放送の妨害

ラヂオ宣傳を防遏するには、以上の外にもう二つの道がある。——即ちこれが受信を妨害する事と發信機を破壊する事とである。此の前者に就ては、予は未だ、一體何うして敵の無電を攪亂するのかに就て確的な考へを述べ得る人間を、専門家の間にさへ見出した事は無い。獨逸は必ずや以上の二點から二重に駄目を押して、敵方の局からの受信を徹底的に不可能ならしめる事を期するであらう。英國も佛蘭西も、獨逸の局に對して同様の事をするだらう。さすれば交戦國は夫々全世界を動かさんとして旺んに宣傳放送を爲すだらうし、又各々相手方の宣傳放送を何うかして其の目的地に達せしめぬやうに努めるだらう。仍で若し凡そあらゆる無電局が、長波のものも短波の處も、それこそ晝夜を分かたず力一杯活動し、又双方とも敵方の放送妨害に狂奔するならば、その結果は何の事はない風癲病院のやうな騒ぎに成り、エーテルの波に乗じて杜切れ杜切れの演説や音楽が不諧調の渦を捲き、その

間にビービーガアガアと雑音が介入するといった事になるだらう。下手をすると互に相手の放送を妨害しようとして、却て自分のほうの放送を打ち壊して仕舞ふが落ちであらう。だから詰まるどころ相手方を妨害するのも時に依りけりだと言ふ事に成るやうである。おまけに假りに今獨逸が、ダツェントリーからする吾國の短波放送を喰ひ止めようとして夢中に成つたとする。此の短波は往々獨逸國民に向けられ勝ちであらうからそれも尤もであるが、その間にドロイトウキツチからの放送が忍び込んで来るのを忘れてゐる、等の場合も考へられる。獨逸人に言はせると此のドロイトウキツチのほうはまさかそんな攻撃的宣傳を送るやうには出来てゐない譯なのであるが、焉ぞ知らん右のやうな事にも成る。

#### 放送局と空襲

此の外に未だ一つ將來必ず企圖される方法と言へば、それは放送局に對する空からの襲撃である、此は實に重大な危険である。蓋しラヂオは防禦的宣傳に於て一層大切な役割を演ずべきであり、大きな放送局を破壊されることは、常に攻撃的宣傳の本を塞がれてしまふのみでなく、防禦的宣傳も亦不可能に成り、且つ映畫の場合と同様に、一般の民衆娛樂も奪はれてしまふからである。ラヂオは他の凡らゆる媒介物よりも勝つて、空襲の際一般市民に指導や達示を與へると言ふ仕事に適してゐるのである。即ち各放送局は、宣傳の源泉であると同時に、防空組織の神經中樞と成るべきものである。随つて空襲の際必ず狙はれるに決まつてゐる。而かも不幸な事には、放送局が働いてゐるとまるで兩手

#### 電波の指 導性と空襲

を擧げて空襲をさしまねいてゐる譯に成る。何となれば、各放送局は空の戦士等に向つて航空標識の作用を爲してゐるからである。例へば、茲に一人の操縦士があつて、英國水道の上あたりで迷子に成つたとする。と彼れは先づクロイドン飛行場へ無電で呼び懸けて置いて、それから方向探知機がクロイドンの波長を捕まへるまで、その邊をぐるぐる廻つて飛んでゐるのである。やがて應答が判然聽こえて來れば、彼れは仍ちクロイドンの方向に向いてゐる譯であるから、そのまゝ波長に合はせ乍ら眞直ぐクロイドンに向つて飛ばして來る。これと同じ事が、無論、敵方の操縦士にも起り得るであらう。だから手取り早く言へば、敵の飛行士は自分の乗つてゐる飛行機を、吾國の何處か一つ發信中の放送局の波長に合はせさへすれば、まつしぐらに其處へ飛んで行けるのである。従つて一層恐ろしいのは、放送局が自からの破壊を招くのみならず、わざわざ其の地域の指導標の役目を演じて、或は人口稠密な處とか或は軍需工業地帯とかを教へてしまふ譯で、敵は得たり賢しと爆撃しにやつて來る事である。更に斯う言ふ事さへ考へられる。即ち操縦士の一人も乗つてゐない敵の大編隊が操縦士一人偵察將校數人に乗せた唯一機に依つて無電操縦を受け、これが發信中の放送局の近くの戰略上の重要地點を爆撃するために突進して來る。そこで其の敵の操縦士は、恐らく先づ編隊各機の上方五千から一萬呎の處を飛んで來るであらうが、これが右の放送局の波長に合はせて自己の位置を確と掴むや否や、一齊にその爆撃を投下させる。斯う言ふ空襲が行はれた日には、敵の損失はほんの些少で、而か

も此方は莫大な損害を受ける事に成らう。されば予は、國家の安全のため將來戦に於ては、吾國の放送局の大部分をして限られたる時間以外は全く閉鎖するの止むなき事態も、無き能はざる旨を特に述べて置き度い。然し乍ら常時報道と娛樂の源と成つてゐたものが、そのやうに沈黙してしまつては、それに伴つて國民精神の弛緩を招くや必せりであらうから、政府當局としては何とか其の權力の限りを盡しても一局だけは働かせるやうに取計らひ、これに依つて大衆的番組の放送と空襲近迫を國民に警報する事との、双つ乍らを行はしめる事を取るであらう。その一局は恐らくはドロイトウキツチあたりかも知れない。それは、該局の力と、並にそれが地理的に見て英國の中心に在り且つ近傍に何等著明な目標と成るものが無いとの、二つの理由に依つてである。

防禦的方面から見ると、吾國はラヂオ宣傳に關しては甚だ貧弱な位置に立つてゐるのである。英帝國全體としては、ラヂオの聴取許可證を有つてゐる者は八百萬を下るまい。此の人々に對して何等制限らしいものさへ加へられてゐない。此の八百萬の人間が、その家族も引括るめると、つと、三千二百萬として、彼等の受信機が許す限りいつでも如何なる國の放送をも聴取し得るのである。彼等は聴かうと思へば勝手に敵國の宣傳をも聴取することが出来る。尤も斯かる敵の宣傳放送はその電波を攪亂するとか相手の放送局を叩き壊すとか、此方の好きな制壓方法を以て遣付け得るものである。仍で此の三千二百萬人に對して、十箇所の放送局から夫々毎日定時の報道や演藝を供給してゐるのである

ラヂオの防禦的宣傳

英のラヂオ機構の缺點

が、その十局は十局とも全部敵の飛行機の到達圏内に在り、且つその殆んど總てが、敵の最も求めて爆撃せんとする殷賑地方に位置してゐる。かるが故にドロイトウキツチ以外は總て、閉鎖しなければならぬまい。従つて市民の誰彼は、いづれも自分の家にゐながら敵に追驅けられてゐるやうな氣がして、日常生活の神經に不安定を加へ、事實また頭の上で空襲が行はれてゐても其の警報を受ける事も出来なくなる譯である。たとへドロイトウキツチから全般的な警報位は聴き得ても、是非とも其の地方地方の放送局からでなければならぬ底の詳しい指示を得られない。此點がラヂオ宣傳と言ふ機構に於ける赤信號である。仍で吾國の諸放送局が敵の爲に沈黙せしめられるか、或は當局に於て進んで是等を閉鎖した暁には、政府としてはこれに代ふるに如何なる措置を以て、國民に空襲を警報し若しくは能ふべくむば更に演藝番組をも提供せんとするものであらうか？ これに對する回答は即ち、仲繼式ラヂオ又は再生放送と呼ぶべきものであつて、これが英國に於て最近非常な發達を示して來た。簡單に言ふと此の有線再生放送若しくは仲繼式ラヂオとは、普通の放送を取り上げてこれを有線式に聴取者の家庭へ持ち込むものである。随つて聴取者のほうは、わざわざ金を拂つてまで受信機を備付ける必要はない。ただ擴聲機だけ用意すればいゝのである。目下の處では此の目的のため特別な電線を架設しなければならぬが、今の調子で研究が進むとすると遠からず現在の電燈線を其儘使用出来るやうに成るであらう。此の式の缺點は、聴取者が受信機のダイヤルをぐるぐる廻す樂しみが失くなつ

有線放送の防禦的價値



てしまふ事である。であるから此の再生放送は兎角セットのダイヤルをぐる／＼廻しては吾がB・B・Cに較べればどうせ碌でもない外國の放送を探し當て、悦び度がる初心者達に、餘り歓迎されないものと思はなければならぬ。何にしても普通に再生放送をやる場合は、二重放送を提供する事に成る。即ち聴取者は二種の番組のうちどつちか一を選べるが、それ以上は出来ない。これが亦、ものごさな聴取者には却つて悦ばれることが多いのである。殊に番組のすべてが何時でも同じ強度で傳はつて來るから、スホツチさへ入れれば後は廻したり捻つたりする心配が要らないからである。

此の式が防禦的宣傳に於て有効である事は容易に肯づけるところである。これなら殆んど壊される心配は無い。第一に、方々の放送局からエーテルの波を發散させて飛行機の指導標となる如き危険な眞似をしなくても済むのである。再生放送で行けば、どんな演藝でも報道でも、放送室から出て、中間局から中間局へと敷かれた電線を傳はつて行くだけである。此等の中間局は、平常は單なる強化局であつて、線を傳はつて來る間に必然消耗される電力を支へ、而して聴取者各個人が備付けてある線へ番組を伸縮して行くのである。此等の強化局は、一定の地域に幾つ置いてもよろしい。その各々は戦時に際しては、空襲警報所若しくは其他防衛當局の御用を勤めさせる發信局と爲し得るやうにして置く。これは所謂集中的組織に對しての分散であり、而かも出來るだけ細かく分散させて、あらゆる要求に應じ得る如き防禦的態勢に置くものである。かくて愈々實行と成ると却々困難であるが敢て

可能とせられる事は、各強化局をして一旦緩急の場合それぞれ獨立した發信局たらしめて、以て蓄音機の圓盤を伸縮させて行く事である。その狙ひは即ち、斯うやつて方々の精神的中心から放送を行ふ事が出來れば、政府當局としては國內の連繫と言ふ點で現在以上に安心出來ようと言ふに在るのである。假りに一箇所の中間局が撃たれたとしても、比較的少數の家族が絶縁されるだけの話である。これが若しも一つの放送局が撃たれたと言ふ事に成り、同じく若しもそれが閉鎖の止むなきに至つたすれば、所管地方全體が忽ち切り離されてしまふ譯に成る。たごへばニューカッスルあたりは、此の再生放送のためにごつさり架線してある地方である。スタグスホウでは市から十里の處にB・B・Cの地方放送局があつて、これがタインの溪谷地方一帯へ電波を送つてあるのであるが、その到達距離は非常に制限されてゐるので、ダーリントンのやうな近接した街からでさへ能くは聴こえないのである。扱て一旦戦争と成れば、此のスタグスホウは、敵機にとつて最も工合の良い案内役に成るであらうし、而かもタイン一帯は彼のやうに活氣のある地域であつて見れば、これは何う考へても即刻閉鎖する外は無からう。するとニューカッスル地方へはドロイトウホツチの局から送る譯に成るが、此處からは専ら定時報道を送り得るに過ぎない。恐らく此のドロイトウホツチからでは、タインサイドの造船所に對する空襲警報などは出せまいと思ふ。此に反して若しもニューカッスルが十分に架線してあれば、スタグスホウから此の線を傳つて幾らでも仕事が続けられるのである。其處へもつて來て更に

彼は三十箇所以上の中間局を設置して置く。その各々が至便なる呼出局と成るから、その地方の空襲警報者は皆これを使つて、近在の各家庭に對し命令や達示を送る事が出来る、と言ふ譯である。以上は文字ごほりの素描を行つただけで、なるべく難かしい事は並べなかつたが、それでも無線のラヂオに對立するものとしての、再生放送の價値を示し得たかと思ふ。此等は實に、吾が國の知識層の間では完全に認められてゐる事なのであるが、而かも政府は、例の優柔不斷で今だに逡巡してゐる。成程政府として、再生放送を褒めもしなければ悪くも言はないが、其の不決斷に依つて事實上これが發展を阻止してゐる譯で、予はこれに就て後章更に一言を費やす心算である。

擬て以上の次第で、ラヂオは最も偉大な且つ直接的な宣傳の仲介物であつて、指導者の口から被指導者の耳へ届くのだが、その届き工合に至つては今の處未知數なのである。何にしても一定の制限を伴つて使はれるものと言ふ事は確かである。同じくもう一つ確かな事は、これを戦時に利用すると必ず種々の制限や不利益を生ずると知れてゐながら、それを現在では漠然と看出せるだけだと言ふ事である。

## (七)

人的宣傳

宣傳の最後の手段と言ふのが最も効果的で、即ち口に出して言葉で表はす人的宣傳である。宣傳家

はあらゆる手段を盡した揚句、結局は皆此處に落着くのである。その目標とする處は、被宣傳者をして其の宣傳に盛り込まれた趣旨を考へさせ、隨つて其事を人に向つて話させるに在る。兎に角宣傳者としては、種々な組織や送達機關を飛び越えて、個人的に直接に相手に打突かつて、言葉を以て宣傳をする事が出来る。予は茲で敢てラスウェル教授には無斷で、曾て英國の宣傳が遂にアメリカを大戦に曳き込んだ事情に關する教授の批判を、引用して見よう。曰く「その主たる原因は、人間を通じて働きかけた處に有する。英國の影響が、商人から商人へ、新聞記者から新聞記者へ、教授から教授へ、勞働者から勞働者へと傳播されたのである。舞臺の裏にも、噂や繪や演説の背後にも、人間から人間への個人的影響が力強く張り流れてゐた。戦争に關する論議は、公けの場所よりも寧ろ私的に行はれたのである。……此の方法を横から照らし出すものとして、一九一四年十月十日附けエドワード、グレイ卿からセオドア、ルーズヴェルトへ宛てた手紙である。即ち

『拜啓、今般ジー、エム、バリー並にエー、イー、ダブリウ、メイスン兩名が米國へ赴く事と相成候が、兩人の著書の中には既に閣下に於ても御讀了のものこれあるべしと確信仕り候。兩者の目的は演説又は講演等を仕る心底には無く、貴國の國民就中大學關係の人士と相會して、以て今次の戦争に關する吾が英國の立場を説明仕り、且つ吾人の見解を披歴致し度き儀に外ならず候云々。』

かくて、人中で英國の主張のために敢然辯ずる者は、必ず米國人であつて其他の外國人でないと言

ふまでに成つた。蓋し當時のアメリカにダンバーグの先生方は大勢ゐたが、吾れこそは英人で候と  
 反りかへつてゐるやうな人間はゐなかつた。而してホテルのロビーで、個人同士の會話で、果ては詰  
 らぬ口論の間に、英國と米國とを繋ぐ最も強い鎖が出来上がつて仕舞つたのである」と。斯う判然言  
 つて貫へたのは寔に有難い、と言ふのはそれが米國人の口から出たものだから尙更である。而して吾  
 人の個人的宣傳の成功の對照を爲すものは、馬力ばかり懸けて一向氣の利かなかつたフォン、バーベ  
 ンの遣方、乃至はフォン、リンテレンが共著「開の闢入者」中に説いた方法の失敗である。予として  
 も、右に述べられたやうなお茶の時間や、客をする食卓や、將た喫煙室等での宣傳にかけては、先づ  
 吾人は吾人の假裝敵たるべき國々の人間よりは常に立ち優さつてゐると考へ度くも成るのである。だ  
 が其處で一寸困る事は此の宣傳の手は、中立諸國並に吾が友好諸國の間にだけしか用ひる譯に行か  
 ないと言ふ一事である。無論此の兩者も最も大切なお客様であるには相違ないけれども。

#### 第四章 敵諸國、中立並に同盟國

(一)

將來戰に  
於ける攻  
擊的宣傳

扱て希くは此の邊りで、將來戰に於て何の程度まで攻撃的宣傳を實施し得るか、又如何なる手段方  
 法によるべきか、此の二つに就てかなり明確に計つて置き度いと思ふ。同時に、謂ふまでも無い事  
 あるがとりわけ對敵行動に關する限り、此の問題に餘り深入りする事も好ましい事ではない。

對獨逸

曩きにも述べたとほり、獨逸と、程度は少し劣るが伊太利と、それから此等と工合は異ふけれども  
 日本と、此の三者が、攻撃的意圖の宣傳家にとつての難關と成るであらう。先づ獨逸を考察すると、  
 先づ注目すべきは、一九一四年當時に於て彼國の「最高人物」は、獨逸人の過半数が欣然支持する處で  
 あつたが、而かも政治其の物は其の基礎を一定の支配階級の上に据えてゐた事である。かつ内輪に  
 見積つても、當時獨逸輿論の三パーセントから四十パーセントは、政治的に帝國組織に反對し、そ  
 の利害に對して冷淡であり若しくは憎惡を抱いてゐた筈である。此等の急進若しくは社會主義分子は  
 甚だ強力であつて、立派な組織を持ち且つその機關紙を所有してゐた。そこで始めにはつと燃え上  
 げた民族的愛國思想が冷却すると、未だそれでも戰に倦み疲れたと言ふ處までは行つてゐなかつたも

前大戰に  
於ける對  
獨逸宣傳

一四八

の、此の連中が先づ自由主義の宣傳に對して誘はば靡かむ風情を見せはじめた。やがて海上封鎖並びに軍事的壓迫が一層緊迫して來ると、彼等は忽ち吾方の宣傳に乗つてしまつて、國家に對する背反や平和禮讃のお先棒を勤めるやうに成つたのであつた。かるが故に吾人は、居乍らにして敵國內に御最負様を有つてゐた譯である。且又吾々は、右のお客様方が生れ付きでか口説き立てられて知らないうが悦んでそれを聽いて下さる好い口上を有つてゐた。曰く自由解放、平等であつた。それに當時は獨逸と奧太利とに、未だ議會政治の形態が保たれてゐて、これが漠然と吾國のウエストミンスター型に則つてゐた。此の兩國の急進分子も、固く議會政治の形式を信奉してゐて、選舉制を墨守する事に依つて右様の政治組織の完璧を期し得るものと思ひ込み、何かに付けて改革を行ふにも總てその式でやらうとしてゐたのである。されば吾方の宣傳家の信條をそのまゝ、鵜呑みにして彼等自身の信條としてゐた。第三には、吾々は彼國の新聞紙並に吾方の小冊子ブレットを通じて、彼等の上へ手を伸ばす手段を有つてゐたのである。此の前者は固より戰時檢閲の制度下に置かれてはゐたが、當時は未だ記事の細目に亘つて一々精査も届かず、隨つて差止めも徹底してゐなかつた。蓋し政府が任命した宣傳部門の専門家が居て、此の人々は苟も反國家的宣傳の匂ひのするものは盡く嗅ぎ出すやうに訓練されてゐたのであるが、中には此等の役人の精密な檢査も承諾も經ないもぐり、記事も相當譯山あつたのである。然らう言ふ意味の宣傳記事の数は、また實に大變なもので、これは獨逸の諸新聞が瑞西、和蘭、丁抹又は

スカンデナヴィア地方の同業者から手廣く蒐めて採録したのであつた。然るに此等の國々を常華客としてニュースを提供してゐたのが、獨逸新聞に轉載されるのを百も承知の吾國の宣傳者なのであつた。また其の時分、敵味方の塹壕線はダンケルクの砂丘地方からアルプスまで走つてゐた。其方では平射曲射の各砲を使つて、戰つてゐる部隊の頭の上に小冊子を撃ち出したり、後方獨逸領に對しても幾百萬と纏めてはこれを撒きちらしたものである。その上吾方として此等の宣傳を爲すには、孰れも好都合であつた、と言ふのは何しろ獨逸側から計畫的な逆宣傳をやつて來ると言ふ事が全で無かつたのであるから、此方は思ふまゝに仕事を運ぶ事が出來たのであつた。

だが今度は、條件がまるで異つて來るに相違ない。その後獨逸の政治の基礎は、ずつと擴大されたのである。それは曾て特權政治であつたのに對して、今は民衆のそれと成つてゐる。されば此の政體は尠くとも茲當分は、獨逸大衆の大半並びに社會各層の大部分から支持を受けるであらう。中にはこれに平かならざる小數者もあるのであらうけれども、それは今後一層嚴重な監視を受け統制を蒙るであらうし、且つ又彼等とても昔の古臭い民主主義謳歌を、心から受け容れて呉れそうな筈も無いのである。如何に不満な小數者だとして彼の時分の微の生へたタローガン等を聞かせたりすれば、自然と昔を思ひ出して、インフレーションの陰慘な目を、スパルタ主義や共産主義の簇生した頃を、扱ては佛軍とアフリカ土民兵とに依る保障占領を、憎惡と屈辱と飢餓の日を、彷彿せざるを得まいではない

將來戰に  
於ける對  
獨逸傳の  
困難



か。斯う言ふ聯想を抱いたが最後、抜目の無い宣傳に乗せられて益々考へを外へ逸らせて仕舞ふだけの話である。かくて舊式な呼び賣りがもう利かなくなつてゐるばかりでなく、よしむばもう一度民主主義を賣り付けようとしても、その店を擴げる事のはうに一層の困難がある。即ち新聞紙は、すべて國家社會主義の確乎たる信條を掲げて、以て徹底的反民主主義の途を辿るものばかりで、此方の役に立つものはないであらう。加ふるに、此前の時のやうに小冊子戦を展開する機會は餘程少からうと思はれる。換言すれば、獨佛戦線が再び、例へばマチノ線に沿つて膠着する等の事にでも成らぬ限り、駄目である。最後に、敵も今度は、かの大戰の時の如く拱手傍觀してはゐまい。今度こそ吾方に對し有力な攻撃的宣傳を進めて來るに違ひないのである。

然らば、獨逸が斐ふ全體主義の鐵の何處に弱い裂け口を見出し得るか？ またこれに切り込む宣傳の自刃を何處に求めて、堂々と吾が所信を遂行し得るか？ 予の見るところでは、問題は却つて敵陣の強い處に横つて居り、吾方として然るべき手堅い宣傳方針を選ぶ事の困難さや、又それを全體主義的宣傳の裡に育つた彼の國民に巧みに宣傳することの困難は、二の次である。中には始めから駄目と決まつた策もあるのである。例へば、吾々は彼の政治に對して一票の不信任をも投じ得なければ、亦ヒットラーを罵つて見ても何等益する處は無からう。物質的に樂な暮らし向きが出来る等と宣傳して見ても、いけない。何にしる獨逸の人間は、吾々英國人は奢侈の中に暮らし懶惰の裡に生きており、而も

魂の腐るほど利己的であつて、如何なる安樂でも吾々が頑張つてゐる限り他人はその一片すらも分けずには貰へないのだと教へられてゐるのである。また民主主義的自由の甘露を約しても駄目である。獨逸人は此のことに就いては、即ち之が何を意味するかに就いては既う經驗を積みすぎてゐる。一遍それ飛び付いて行つて酷い眼に遭つてゐるのである。更に吾々は、領土的報酬を約束する事も出来な。此の問題は、未だ議論の餘地はあるだらうが要するに英國としては、大して未練の無い殖民地を提供して、殖民地問題を調整する機會があつたのである。敵の宣傳家達は斯う言ふだらう。『今こそ獨逸は、彼等をして返すものを返させるか、獨逸が滅亡するかである』と。故にもう駄目である。

對獨逸傳  
の時期

獨逸が斯うであつて見れば、伊太利及び日本に就ても同様である。今更『自由』だとか、『民主主義』だとか、扱ては自由なる國民間の聯結だとか、舊式な呼聲で觸れて見たところで、何の效目がある譯のものではない。此等全體主義國が、潑刺として信念に満ちてゐる間は、彼等を目標とする宣傳方針は見出せない。而して彼等のはうが、他の戦争への氣構への少ない國々よりも多少とも早く疲れるであらう等とする豫測も、何等理由の無い處である。さりながら、吾々はこれを以て狼狽する必要は少しも無い。元來攻撃的宣傳は、それを受け入れ得る雰圍氣が生ずるまでは、却々效力を現はさぬものである。過ぐる大戰の時も、斯う言ふ條件に達するまでに殆んど四箇年の歳月が経つたのである。予は此邊の事を能く考へた上で、先づ冒頭に述べたのである。即ち將來戦に於ては直接敵に浴び

せる宣傳が然う都合好く發達はすまいと論ずるはうが穩かである、と。また其後隨所に予が強調した如く、一旦それが消耗戦とまで發展して來れば、再び宣傳戦の本舞臺と成つて來るのである。然う成れば向ふの剛健な思想の何處か一角が崩れて來る事は、殆んど確かであるから、希くは其時に吾國の賢明な人達が起つて、うまく其處を捕まへて貰ひたい。それにしても戦争が擴大されて全歐洲を包んでしまひ、吾國が復た以前の如く大陸に於て參戰する事に成らぬ限り、英國と獨逸とが直接に觸れる場所は何處にも無い譯である。尤も吾人の戦線はラインに在りと謂ひ、或は敵のはうはテムズ河口なりとも言ふ者がある。併し假りにそんなものが在りとすれば、それは専ら空中に於る戦線でなければなるまい。彼是考へ合はせると、たゞ空中宣傳だけが（飛行機に依らうと或はラヂオによらう）と先づ最初に兩者相見える方法と成るに違ひない。

仍でたつた一つは、如上の好適な雰圍氣を無理をせず造り出せそうな途があると思はれば、それは獨逸の宣傳統制の嚴密なところに在るのである。茲の處は彼の日本の柔術から暗示を獲られると思ふが、問題は敵の力を利用して何處まで敵を倒せるかである。若し本當に雄健な國民ならば、國家の利益を建前とした統制に對して如何程黙從する氣持ちがあらうとも、その統制が餘り獨斷的に行はれ國民の一般的利害の瑣末にまで及ぶに至れば、到底妥如たり得まいと予は信ずる。現に善良な獨逸人で、教養も高いし、亦その多くは『黨』の忠實な一員である連中に、英國その他の外國の新聞紙と提

對獨逸  
如何に  
す可きか

携して、相俱に非政治的發展を志す者のある事は明かなところである。一體獨逸人は知識を畏敬する。故に博識と言ふ事をひごく崇め奉る癖があつて、時を分かつたす心得顔をしたがる國民である。それと言ふのは彼等が天性學問を好むが故ばかりではない。つまり自から歐羅巴文化中の成り上がり者だと言ふ負目を感じてゐるからでもある。予の如きも、獨逸では吾國よりも政治的に二百年も遅れてゐるが故に、吾々には容易に彼等のする事が理解出來ないのだと、言ふ獨逸人の辯解をこれまで何度聞かされたか分らない程である。兎角野蠻人に限つて、自分達の皮の衣や洞穴の壁畫などを意識すればこそ、文明の紺の衣裳や、油繪を見るときやれ類廢だ、それ隋落だと怒鳴り度がるものである。而かも其の實内證で、おまけに丹念至極に、彼等の齒に立つかぎり斯る文明の所産を模倣してゐるのである。これがそつくり獨逸の態度だと言つても、それ程わたらぬ事は無い。もう一つ附け加へるとすれば、獨逸の指導者等はニイチエからルーデンドルフ乃至シュテュルマーに至るまで、いづれも何となく此の野蠻人の劣等性に根ざした道徳を作り出さうと努め、而して遂に例の『金髮の野獸』だの『鐵と血』だの言ふ偶像を押し上げたのである。かるが故に予は敢て薦める、此の劣等感を利用して、吾方の宣傳を以て獨逸人の無智を強調す可きである。但し彼等の指導者達に向つては、決して惡聲を放つてはならない。それとは反對に、能く難局に處して立つ先生方の手腕を讃め上げてやり乍ら、その話の中に而かも彼等にして尙ほ現在世界中が考へてゐる事を全然御存知無いと云ふ含蓄を有たせる事である。

いづれも優れた人物が揃つてゐる事は疑ひない。併し好漢惜しむらくは盲指導者であり、盲民を率ゐてゐるやるのである。これ下らぬ事でも構はない、何か彼等の知らなかつた事を匂はせて、其處に一抹の不安を植え付け、考へのある獨逸人の心に焦慮の色を深め得れば、既に吾事の大部は成れりと言つてもよろしい。尤もこれだけの事さへ、非常な困難を経なければ出来ない場合が多いだらうが、併し不可能ではない。成程、獨逸がやつてゐる準備は、その祖國を守る必要の上に立つものである事は自他俱に許す處であるけれども、かの再軍備並びに國民總動員の原理は、正しく攻撃的原理である。今や獨逸は、佛蘭西人が看板にしてゐる『飛躍』の原則、即ち『大膽に、常に大膽に邁進せよ』と言ふのを共儘拜借して、自國の總ての希望と組織とを、敏速なる突進と言ふ一事の上へ持つて來てゐるのである。かくて獨逸は其の國內宣傳に於て、直接には十分の含蓄を以て、國民をして彼等を取捲く諸敵國を防がうとする一方の恥づべき昔の姿を見棄て、全獨逸國民が結束して彼等の權利を阻まんとする者を倒して行くと言ふ新しい幻想のはうへ、瞳を注がせ了つた。であるから、此の新しく築き上げたばかりで未だ試練を経ない信念に對して、如何にして痛撃を加へ得るかを考へて見る事は心理的にも正しい途なのである。それには何うすれば良いかと言ふに、予をして謂はしむれば、戰爭勃發の直後に獨逸の各工業中心地方に對する大規模な空襲を行つて、これに爆弾ばかりでなく同時に小冊子をも落して、憐むべき獨逸の民衆は何も知らないかも知れぬが、英國の飛行機は凡そ獨逸の何

處の街へでも樂に飛んで行つて樂に飛んで歸れる事を、はつきり知らせるのである。此の仕事の勘處は、間接に獨逸に於る報道禁壓を曝露し同時に被宣傳者が空襲といふ事實に依つて直接確認し得る點に在るのである。此の方法で行けば、宣傳と軍事行動とが相伴ふ譯で、それが心理的に正しい遣方であると言は信じてゐる。

また右と同様の文句を、中立諸國に向つて放送し、然うして偶々それが獨逸で聴取される事をも庶幾ふのである。仍ち和蘭や瑞西や其他に向つて、全くの日常茶飯事でさへ獨逸がひた隠しにしてゐると言ふ次第を吹き込んでやる等もよからう。また時折りは機に應じて死傷数の詳報なぞの如き、詳細な報道又は偽の報道なぞを獨逸の放送局が沈黙してゐる隙に、獨逸放送局使用波長で放送するのもよからう。偽の報道のときは同じ題目を使へば、一層效驗が多からう。これより更に遣り易くて而かも直接に利目のありそうな分野はと言へば、それは外國に居住してゐる敵國臣民であらう。獨逸人、伊太利人並に日本人が大きく地まつてゐる處は南米、特にブラジル、それから米國その他である。これは吾國の宣傳者としては何うしても此の連中に向つて、多量の報道を不斷に注ぎかけなければ嘘である。斯くすれば無言の裡に容易に彼等が故郷へ送る手紙に依つて、全體主義的制壓の柵内に閉ぢ込められてゐる家郷の人々に右の報道の要旨が傳へられるのである。斯う言ふ、祖國の埒外に置かれてゐる敵國人は、これに對して同情的に働き懸ければ、彼等こそ真相の確かな宣傳者となるのである。蓋し

外國居住者之宣傳

宣傳の池へ斯うして澤山の石を投げ込めば、その波紋は忽ち擴まつて行く道理であらう。同時に又、不満を感じてゐる智識階級その他へも何ぞかして手を伸ばさなければいけない。これには種々な報道や小冊子を、獨逸國內から郵送して彼等の手許へ届かせるのである。尤も此のはうは前のご異つて、餘程難かしい仕事であらう。就中戦争の初期に於ては、容易であるまい。

## 對日宣傳

日本と言ふ國は、宣傳に依つて直接に攻めるのは、寔に以て困難である。然しこれとて予が曩にも示したごほり、日本が併呑した國々に於て日本のアキレス踵を見出す事が出来よう。即ち何を措いても真先きにやらなければならないのは、宣傳に依つて臺灣、朝鮮、滿洲その他日本が其頃までにはその支配下に收めて仕舞つてゐるであらう支那の諸地方に叛亂を煽動し、日本をして此等の擾亂や革命の處理に、その精力の出来るだけ多量を消耗せしめる事である。仍で日本の苛酷なる壓制の下に在る諸國民に呼び懸けるには、斯る制壓からの解放を確約してやるのを始めとして他にも澤山方策のあるべき事は確かであるが、問題は何うして之を夫等の國民に到達せしむるかに在るのである。新聞紙を通じてやるのは、望み薄であらう。第一それは教養のあるほんの少数人に讀まれるに過ぎず、而かも其の活動性並に内容は、最も嚴重な檢閲の制度下に置かれるであらう。無電も、此方の有力な局から餘り遠隔に過ぎ而も受信器の数は著しく尠い此の地方では、比較的役に立たぬであらう。映畫に就ても同様の事が謂へる。大きな都會には皆映畫劇場はあるが、當然軍當局の支配下に置かれるであら

う。結局残るものは、飛行機——小冊子宣傳と、口傳的な言葉で行くのご二つで、この二方法が最大限度に用ひられるだらう。日本が大戦争をはじめれば當然ロシアをも卷込むこととならうが、さうなると極東大陸の諸國を通じて反日宣傳を發展させて行くのに甚だ都合になるのである。但し反共思想の熾んな地方では、却つてロシア製宣傳に對する反響を喚起するかも知れない。

## 對伊宣傳

攷て伊太利と來ると、曩きにも謂つたごほり問題は大有望である。何せよ自由主義の酵母體と、英國に對する傳統的な友誼感の存在と、此の二つがあるから、伊太利の國民に向つてなら直接に宣傳を指向する機會がある譯である。前者は、現存の取締りが戦争勃發におたつて著しく峻嚴とならぬ限り、伊太利に對する宣傳導入の方途を拓いて呉れるであらうし、後者は又、吾が方の宣傳特に時機至らば反ムッソリーニ宣傳の爲に有效な土臺となるであらう。即ち伊太利の即戰即決計畫が蹉跌し、伊太利國民がその沿岸で行はれた空海戦の敗戦を知ればいいのであつて、此の時こそ、吾方としては、未だ伊太利人が光輝ある彼等の指導者によつて狭い壓制の露次の中にも追ひ込まれなかつた樂しかりし往昔には斯様に英國の飛行家や英國の水兵のために伊太利人が流血の慘を蒙るなどは夢にも考へられぬ所であつたに違ひないご指摘してやればいいのである。捕まつて今英國に連れて來られてゐる幾千の伊太利人の上を想つて見よ。さりながら何ぞ彼等は幸福であるごか！ どんなに御馳走を貰つて、十分に世話をされてゐることか！ 茲にあるのは皆ナポリ出身の兵隊で、今アレクサンドラ、パ

レスに收容されてゐる者達の寫眞である。彼等は斯うして、食に餓え憂悶に況んでゐる同胞達に向つて朗かに挨拶を送つてゐる、等々の事を並べ立てるのである。宣傳を斯う言ふ風に持ち懸けると、恐らく獨逸や日本に對する場合よりもつと早く効果が現はれさうに思へる。これが獨逸人だと、既に漠然ながら彼等の上に神聖な使命がある事を感じてゐるし、彼等はその民族を信頼し自己を信じてゐる。また日本人は頑迷な程自信を有してゐる。ところが伊太利人はそれほど自信は無いのである。但し予は茲でも繰返して言つて置くが、右の様にするには何處までも噛んで含めるやうに訓へ込まなければ駄目で、ムッソリーニもそのごほりの遺方を心得てゐたのである。さすがの彼れも、伊太利人の本質を變ずる事は出来ず、ただ其の素材を發展させてやつてゐるだけなのである。また如何にムッソリーニだとして、ただ聽従する外に能のない連中をして、殖民行政を立派にやつてのけさせる事も出来ないのである。かゝる次第で、伊太利人の道義心は全く疑ひを挟む餘地の無いものとは限らない。搦て加へて彼等が新しく獲得した殖民地帝國こそ、實に危険の源なのである。成程伊太利半島は、吾國の交通線に對して恐るべき指を突出してゐる形であるし、また伊太利側の宣傳と陰謀が近東並に埃及に働くと、吾人の耳の傍で熊蜂の巢を搗する位の事にも成り兼ねない。だが伊太利自身、それ以上の弱身を有つてゐるのである。現にトレンチノにゐる獨逸人達は、伊太利人たる彼等の主人達を悦ばず、つまりはブレンネル峠の彼方に陸望の瞳を放つてゐるのである。それからリビアのアラビア人

と言ふものがある。伊太利はこれに君臨して大いに壓政を行つてゐるが、その不安は蔽ひ盡せぬものがある。更に極く最近獲得したアビシニア帝國がある。茲も、吾方で能く方針を選んで、吾が國旗下に在るアフリカ人に動搖を興へぬやうにして、巧みにアラビア人なりアビシニア人に働きかけさへすれば、十分に宣傳の狙ひ處と成るべき場所なのである。

されば、宣傳行爲の方向として示された二線がある事に成る。その一つは即ち伊太利人をして、彼等自身並に彼等の指導者等に對する信念に動搖を生せしむるやうな行き方、もう一つは、伊太利人が他國民に君臨してゐる土地に擾亂を捲き起させることである。元來伊太利人は、白人ばかりではなく有色人種中の或る者からも、一段低く見られてゐる。此事がアフリカに在る彼等の殖民地を目標とする宣傳を容易なものとして呉れる筈である。且つ又此等の地方が英國の所領及び勢力範圍たる諸地方と境を接してゐる事實が、伊太利が支配するアビシニアのアフリカ人の状態と、英國國旗下に在るケンヤとか若しくはタンガニイカのアフリカ人の状態とを、比較對照させ易くする筈でなければならぬ。

その他伊太利に向つて宣傳を撤布するには、これを獨逸若しくは日本に向つてするよりも、一層直接的効果を有つ多岐なる方法が存する。伊太利の新聞紙の如きも事と次第に依つては、かなり早いところこれを利用する事が出来るやうに成るかも知れない。パンフレット搭載の飛行機を伊太利本國及

一六〇  
びその諸殖民地の双方へ飛ばせてやる事も亦、廣汎な効果をもたらすべきは疑ひない。ラデオも、伊  
太利人へは勿論、その所領のうち受信機の在る處へは、直ちに利用出来る。

(二)

對中立國  
以上すべてを大觀するに、次に來たるべき戦争に於ては、これが長期戦消耗戦とならぬ限りは、直  
接攻撃的な宣傳に大きな將來があるものと思へない。若し夫れ防禦的宣傳に至つては、吾人は寧ろ  
それが中立諸國及び友好諸國に指向せらるゝ場合の、間接的手段の各様を眺め度い。即ち能ふべくん  
ば前者を吾方の側に引き入れる、それが協はぬとしても絶対に敵側に立つ事だけは喰ひ止める。而し  
て後者をして吾れと歩調を合はせて敵に對せしむる爲めの宣傳である。此の中立地帯こそ、やがて宣  
傳の一大戦場と成るべき所であつて、此處で敵味方とも各自の全精力を傾け有りとあらゆる手段を盡  
して闘ふことになるだらう。これが復た、予の考へにして誤まり無くば、壁頭から困難な問題なの  
である。次にその次第を述べよう。

民主主義の盛衰と全體主義  
曩きの歐洲大戦中、世界は悉く民主主義の呪文の下に摺伏してゐた。即ち此の言葉には未だ魅力が  
あつたのである。誰一人その得體の知れない言葉の意味を、敢て咎め立てしようとはしなかつた。さ  
れば聯合側の一員として日本やロシアが在つたにも係らず、また中歐諸帝國側には半共和國たる新興

土耳其が加はつてゐたにも係らず、聯合國側の宣傳者等はかなり判然と、此の戦を以て『民主主義』  
と『反動勢力』との争闘であると斷じ去つたのである。謂ふ處の意は、此の世界が『混沌と暗』と  
の中へ轉落するのを防ぐのは『デモクラシー』だと言ふ事だつたのである。然るに一九一八年以降民  
主主義は挑戦され、今や受太刀一方に成つてゐる。獨逸と伊太利とは抑壓的政治を行つてゐるが同時  
に建設的である。彼等是一個の思想を掲げて邁進してゐる。それは別段第一流の思想ではないが、併  
し他までも具體的な思想である。彼等の鍊達せる宣傳軍は、その思想を眞向に振りかざして、彼等の  
國こそ新らしき進歩の推進力なりと謂つてゐる。その斷ずるところを聽けば、民主主義の導くところ  
は遂にあらゆる屈辱と災厄ばかりであつて、——爲に或る國々は不安なる衰勢に陥入り、或る國々は  
又救ふべからざる『混沌と暗』に頓落してしまつた。此の悲しむべき状態の中から、所謂『推進力』  
は此等の國々を救出し、或は救出しつゝあると言ふ。一九一四年——一九一八年の頃までは、民主々  
義こそ希望無き世界に希望をもたらすべき新しき力と謂はれたものが、今やその力は、不謹慎なる國  
國が濫用して以て價値ある既得物を保持するよすがと爲し、而して富と勢力の不平均な此の世界に  
『現状維持』を強ひようとする力に外ならぬ、と成つて來たのである。斯う言つた宣傳の結果は、果た  
して民主々義諸國——王冠を被つた君主を戴いてゐようごシルクハットを乗つけた大統領を仰いでゐ  
ようご——が漸く凋落の色を見せて來たに對し、全體主義型が非常に流行つて來たのである。大雜把

に言つて、民主々義側には、英國、自耳義、佛蘭西、米國、瑞西、和蘭、それにスカンデナヴィヤ半島の諸國が在る。獨裁主義の方は、獨逸、伊太利、露西亞、土耳其、葡萄牙、日本、希臘、波蘭、匈牙利、ブルガリア、それから實際的にはブラジルを筆頭とする南アメリカ共和諸國がある。スペインは雖て遠からず此の仲間に入らうし、おそらく支那も、幸に日本人に對し相當永く持ち應へる事が出来れば、これ亦加はる事に成らう。これ等の全部が嚴密な意味で全體主義だと謂ふのではない。又必ずしも全部が國家社會主義的性質を有するものでもない。併し總てが事實上非民主々義であり、隨つてその多くは精神的に反民主々義的である。その中には曾て吾が英國勢力の占むる處だつたものもある。就中南アメリカに多かつたのであるが、今では其處が無電の報道、短波に依るラヂオ講演その他の個人的努力に依る獨逸並に伊太利の宣傳の飛沫を不斷に浴せられて、漸くその影響が滲込みはじめて來てゐるのである。また中にはポルトガルの如く、傳統的に吾人の良友なる國々もある。これは將來戰に於て假令事實に於て然らずとするも感情的には多分吾が方に立つて呉れる國々かも知れない。とは言へ此のポルトガルにしても、敵方がうまい切懸けでも作つて呉れ、ばいざ知らず、さもなくば數世紀以來の友情と言ふ以外に、如何なる宣傳の方向を執り得るであらうか？ トルコは又なか／＼有力な國であり吾々にとつても極めて重要な國であるが、今日まで吾人が汲々としてその御機嫌をこり結んで來た甲斐は見えてゐ乍ら、一方建設的な獨逸を向ふに廻して、宣傳戰に於ては吾

々は抑も如何にして戦はうか？ 大體次に來たるべき戰爭が、「民主々義」と「獨裁主義」との闘ひだご銘打たれるであらう事は、疑ひの餘地が無いところである。然るに事實は、決してそんなものではないのかも知れない。次第に依つては吾人が伊太利を抱き込み、獨逸が自耳義を仲間にする等の事があるかも知れぬ。全體主義的ポルトガルが吾人と一緒に成りそうでもあるし、民主々義のスカンデナヴィヤ諸國が嚴正中立を守り通すかも知れぬ。ごごの詰り、同盟關係は、物質的利益から生ずるもので、必ずしも共通の觀念的信仰から出るものではないが、何にしても吾方の宣傳にあつては、吾人の立場と事實とを出来るだけ適合させて行く工夫が肝要である。吾々としてはフランスやアメリカや乃至は英帝國自身に對して、戰爭は「民主々義と自由」對「獨裁と壓政」の戰爭であるご宣傳することになるだらう。又もとより宣傳は、統一されたものでなければ困るから、如何にしたら中立諸國に對して一貫した強力な方針で押し進む事が出来るであらうか？ 單に中立諸國と言つても、その中にはスペイン、ポルトガル、ギリシヤ、並にトルコ等の如く、吾々の死生を制する國が多くあるのである。二股宣傳は、絶對にしてはならぬ。之は予が軍隊用語を籍りて假りに主宣傳と呼んでゐるものに就て適用す可きは勿論である。此の背骨が眞直ぐ通つてゐないと、その他の群小宣傳は幾らこれを行つても、所詮勞多くして効少きものと成らう。而も吾々としては正に大いに此の小宣傳もやる事に成るであらう。即ち數でこなし、大切な手を抜くと言ふ場合もあらうし、亦もとよりこれに依つて敵を

惱ます事も大なるものがあるであらう。その邊の事情を傳へる有名な話と言へば、恰も一九一六年頃中立諸國の間に相當な影響を興へた宣傳があつたが、それは當時米國駐在の獨逸大使ベルン、シュトルフが寫つてゐる一葉の小寫眞が手品の種だつた。その寫眞は職掌柄敏捷な或る英國人が、ベルンシュトルフの机の抽出しを搔廻して偷んで來たもので、大使閣下は水泳着一枚で、その兩脇にこれも同様裸ン坊の「水泳美人」二人を搔ひ込んで寫つてゐる。實は全く無邪氣なものだつたのであるが、これが殆んど全世界に公表されて如何にも質の悪い大使の道樂であるかのやうに書き立てられ、亂暴なプロシヤの役人にしても紳士にもあるまじき行爲、とばかり遣付けられた事があつた。茲でまた予の感ずる事であるが、獨逸並に伊太利に對して中立國の感情を惡化させる事は、日本を惡く思はせるのよりも餘程難かしいであらう。例へば獨逸の獨裁を向ふに廻すとしてからが、猶太人迫害を取上げて、猶太人を束にして強制労働キャンプに叩き込み、鞭打つたり唾を吐き懸けたりするとか、並べ立て、見ても、又反伊太利宣傳では、アラビヤ人がグラチアニアの飛行機から大勢振り落とされたとか、中で學識のある者にはみんな辛子油カステロールを服ませて馬鹿にしてしまつたとか、精々そんな事を放送して見ても中立國の人間を煽り立てる重みがあらうか?! 詳しく言へばその位の宣傳をやつたとして、スペイン・トルコ・ラテン・アメリカの諸國乃至はバルカン諸國の如く一朝事ある時は追害慘殺お手の物と成つてゐる國々を、何で憤慨させる事が出來よう?! 反對黨を一人残らず絞殺して議會の問題を解決した

彼の土耳其の指導者に向つて、今更何處を押しせば民主主義の寛容などを説教出來るのか? 一九二一年には土耳其人がスミルナに於て、一萬のギリシヤ人を計畫的に殺戮した事や、日本が支那に於て數十萬の男女、小兒を虐殺してゐる等の事も、よく考へて見なければならぬ。次の戦争に際しては斯様な殘忍行爲の宣傳をしても、中立諸國に對して幾何の效目も無いであらう。彼等はその位の事なら、平時に於てさへ既に喰ひ飽きてゐるのである。

日本の不  
人氣

扱て日本の特徴は、何處へ行つても人氣の無いことである。その下廻りの値で物を賣る猛烈な遣口と、ポロ商品を安い値段で投賣する滅茶さ加減とが相俟つて、日本は至る處で怨嗟の聲を生せしめてゐるのである。日本は商業上の危険人物である。随つて、宣傳上の見地からすれば、殘忍非道の汚名を負はせる位譯は無い。斯う言ふのは或は少々可哀想な觀方かも知れぬが、併し分り切つた事なのである。蓋し戦争に於ては、此方で同情を持つてゐる國は決して悪い事はせず、此方で何かされはしないかと恐れてゐるやうな國は、する事爲す事皆悪いと成るが故である。其處へ持つて來て日本は、隨所に人道的見解を蹂躪して懸かつてゐる。此の邊からして現在支那が遣つてゐる事を能く眺めて見ると、却々興味がある。大半は蔣夫人の採配でさう云ふ遣方をしてゐるらしいが、兎に角それで段々と日本に對する宣傳攻撃の素地を築き上げてゐるのは面白い。此の宣傳の特に著しい點は、日本が計畫的に阿片やコカインを獎勵して支那國民を墮落の淵へ追込んでゐる事の暴露である。これは如何に



も東洋人でなければ考へつかない戦争のやり方である。

將來戦に於ける中立國の對

ところ、吾人の中立諸國に對する場合には、理論上は要目と見えるものに缺けてゐるやうであるから、時と場合に應じて少し／＼作つて行かねばならぬだらう。曩きの大戦で既に吾人の水際立つた手腕をお目に懸けた通り、今度も柄の無い處へ柄をすげでん／＼方々へ撒き散らして見せようと言ふものである。今度も必ず敵は知らず吾々の機會を作つて呉れるに相違ない。此前も然うであつたやうに、敵に對する宣傳を發展させる好機を、いくらでも向ふから提供して呉れるであらう。但し斯かる際物的宣傳は、たとへそれが如何に大切なものだとは言へ、そればかりを恃みとする事も出来なければ之を以て建設的宣傳に振り換へる譯にも行かないのである。仍でその手段であるが、勿論これは中立諸國の新聞に手を伸ばして大々的に書き立て、貰ふ。何しろ吾々のはうは古くからのお馴染でもあり旁々吾々の宣傳の價値が立派であるのと相俟つて、今度も恐らく特別に餘白を多くとつて呉れることと思ふ。また幸運な事には獨逸の近くにすらりと並んでゐる中立國はと言へば、スキツアランド、オランダ、スカンデナヴィアの諸國であつて、いづれも民主主義的と言ふ形容詞を冠し得る國々である。されば此等の國々は、前回の時よりも多少は控へ目であらうけれども、吾々の宣傳を澤山掲載して呉れさうである。而してその中の若干は獨逸にも洩れて行くであらう。扱て映畫の世界へ行くこと、これも米國の映畫製造業者が元來英國の肩を持つて、獨逸や日本や伊太利を白眼視してゐるこ

新聞

映畫

ラヂオ

と及びフィルムの國際的配給網を一手に握つてゐる事を持つてゐることが出来るだらう。普通の娯樂映畫にせよ報道畫にせよ、宣傳の至寶となるだらう。そこへ行くに吾國の映畫は歐洲大陸では今より一層、問題にならない。獨逸にしても吾國にしても、どうせ米國と太刀打ちが出来ないが、それでも獨逸のはうが吾々以上に歐洲の市場を抑へてゐるのである。次に吾々は、中立諸國に對するラヂオ放送に一段と馬力を懸け、特に民主主義的同情を有する國々へ眼を付けなければならぬが、これも敵側宣傳が平時から不斷の努力を重ね既に確乎たる立場を作つてゐるのであるから、それへ向つて喰ひ込んで行くには容易ならぬ努力が要する事であらう。現に獨逸と伊太利は、双方とも茲數年來英語及び其他の國語を以て短波放送をやつて來てゐる。だから吾々としては、中立國の多くが必ずしも吾々に對して惡意は無いにしても彼等の抱懐する政策上吾々の民主主義宣傳を受け入れ度からぬ、と言ふ關係を克服し得れば、そこで始めて宣傳戰に優位を占むる機會が來よう。若し夫れ始めから吾人に同情を持つべき國々にしても、事宣傳に關するや餘程慎重に懸かつて呉れないと、獨逸伊太利ともに其邊手抜かりのあらう筈は無いのである。

(三)

對米宣傳

後に残つたものは、アメリカ、即ち偉大なる中立國である。將來戦も此の前の戦争と同様にその結



前大戦時  
米國に於  
ける英の  
宣傳

果は恐らくアメリカの動向如何に係るであらう。而して米國の態度は又、然るべく向けられた宣傳に對する彼の國民の反響を、そのまゝ反映したものであるに相違ない。歐洲大戦當時米國內で入亂れた敵味方宣傳家の奮闘の有様は、實に想像以上であつた。殊に獨逸側の活躍は一段と激しく遂に米國の國內問題にまで干渉の手を伸ばすに至つた程である。尤も斯様な事は將來再び許される事ではあるまい。彼等は彼等自身の組合を組織して、米國の勞働政策の分野にまで介入して行つた。彼等はあらゆる種類の宣傳母體を作り上げたが、その中には或は表面平和主義の組織を持つてゐながら、聯合國側が何時までも戦争を續行する事を巧みに批難するものもあり、又は黒人の輿論を焚きつけると言ふ仕事の事務所に成つてゐたものもある。彼等は更に、大學山の職業人に働きかけた。それから嚴正中立余米婦人聯盟その他の團體を結成しては婦女子等を獲得し、全國勞働者平和協議會の如きを通じては勞働者等にも手を伸ばした。ニューヨークの或る日刊新聞をさへ買収した。ところで吾々のほうも、それほどまでに喧しくは怒鳴り立てなかつたものゝ、萬事ぬかりなく手を擴げた。夥しい數に上ぼつた吾々の活躍中には、無慮三百六十種以上のアメリカ小新聞に對し間斷なく英國報道紙を供給した一事がある。

かくて暫くの間は、米國が果たして此の兩者の天秤の孰れへ左袒するか、俄かには分らなかつたのであるが、その結果若しも吾方の宣傳が能く信用を博し得たとするならば、それは獨逸側の手ぬかりのお蔭によるのもあつた。彼等は何をしても常に行き過ぎ、且つその生來の傾向で、總てが組織的に成るばかりで、仕事が皆頭隠して尻隠さずに畢つてゐた。その宣傳は精力的であればある程露骨であつた。予は繰返して言つて置くが、斯様に双方米國人でない者同士が米國內で唯み合ふ等と言ふ事は再び在り得べからざる事に相違ない。アメリカ人も、其頃はほんの二三の大新聞でも見なければ外國の政治問題等を窺ふ由も無かつたのであるが、爾來長足の進歩を續けて來た。今日では米國の通信員と言へば、世界中でも最も報道力あり且つ事情通の一と成つてゐる。彼等は外國の意圖なり思想なりを「素破抜く」ことに熱情に近いものを有つてゐる。而して此等の通信員のお蔭でアメリカ人は海外の政治問題に興味を抱くやうには成つたけれども、通信員等は讀者に向つて自己の客觀的觀察を傳へるまでには至つてゐないのである。されば現在のアメリカ人は、海外に在る其の報道蒐集者や通信員に依つて、逐一情報を提供されてはゐるものゝ、遠く離れた彼等の半球中に安住しつゝヨーロッパ事情の實相を眺めてゐるとはお世辭にも言へまい。早い話が一例をとると、アメリカ人は被壓制者の大なる庇護者であるが、それが大抵の場合自稱被壓制者であつて、兎角ロンドンの泣言相談所へ出かけて行つては何の彼のと苦勞話を訴へる底の曲者なのである。もう一つ、米國民は大戦當時の宣傳の多くに、未だ今日でも影響されてゐる。また米國民は大抵の國民よりも、大量示唆に影響され易く——尤もそれで育つて來たやうな國民でもあるけれど——爲に一九一八年から此方、彼等は自ら眼

を閉ざして事の實相から遠ざかつてしまった。第三には、彼等の國は現在、例のラベル宣傳の修羅の戦場である。

## 米の對英感情

兎まれ豫ねて米國の内心には、英國に對する疑念が藏されてゐると言ふ事は、到底拒み難い事に屬する。成程アメリカ人は、兎角吾々の癖を珍重したがつて、然うでないものを蔑視する傾向もあるが、そのくせ時折り吾々の眞意に疑念を向けて來る。かの大戰中米國內で、特に間接的宣傳で吾々のほうが傷め付けられたと言ふ事實がある。また獨逸が其處へ付け込んで思ひ切り米國人の感情を焚きつけたのが、曰く國內法制定を焦慮してゐる愛蘭人の悲惨、曰く英軍の虐政下に挫き倒されてゐる印度の民、曰く辛うじて生きてゐるだけの物しか與へられてゐない蛋だらけのエヂプトの農夫、又曰く英國の同盟國のために間斷的に同胞を打たれたり焼かれたりしてゐる憐むべき猶太人等の件である。尤も此の次の戦争では、こんな瓢箪鱈は二度と飛び出して來る筈はないから、安心である。よしんば飛び出すにしても、看板位は塗り變へずにはゐられまい。今ではその愛蘭に對しても自治領以上の様式を與へてあり、印度の憲法、埃及王國の承認等も行つたのであるから、右に述べたやうな吾れにとつて危険な宣傳の傳播地は失くなつた筈である。此等の賦與に依つて假令吾々が何物を失つたとしても、そのため吾人が米國に於て敵側宣傳に害なはれる事は遙かに少くなつたのである。されば將來もう一遍此の問題を探り上げてアメリカ人の感情を湧き立たせる事は、困難であらう。だが茲に未だ

## 米の與論問題

猶太人の問題が残つてゐる。ところで世界中にゐる猶太人の人口は、大凡千五百萬と計量されてゐるが、その中五百萬以上が米國に居るのである。而してニューヨークの人口の廿五パーセントは、猶太人である。吾々は歐洲大戰の際、パレスチナに猶太民族安住の地を與へると約束して、此の老大な在米猶太人大衆をうまうまど買収してしまつた。之はルーゼンドルフをして聯合國側宣傳中の白眉である。三、嘆せしめたもので、之を以て吾々は米國に在る猶太人に影響を與へ得たばかりでなく、獨逸にゐる猶太人にも影響を與へることが出來たのであつた。爾來吾々が此の約束を果たしに懸かるや、俄然土着のアラビア人との間に面倒を惹き起す事と成つたのである。而かも其のアラビア人は伊太利の宣傳に依つて煽られて居り、吾々はこれと打突かるばかりで一向猶太人の満足を購ひ得ぬまゝである。されば又吾々は、英國内の教養ある猶太人達をも満足させて居らぬ。果して然らば、遙かに大西洋の向ふから望見してゐる猶太人の社會をも満足せしめ得ぬこと、幾何であらうか！ 加之、最近英國政府が執つてゐる現實的政策が、こつとも無い處まで宣傳の材料に使はれて、今や英國は「半ファシスト」なりと極印をおされてゐるのである。既に「デモクラシーの看板を賣り飛ばして、機會だに惠まれなば忽ち『全的ファシスト』たむとしてゐる、のださうである。これが又、獨逸を熱烈に嫌つてゐる猶太人の間に擴まつて行き、其處からあらゆる獨裁諸國に燃え移つて行き、而かもこれに天主公教々々と宗派のない自由主義者共が後楯と成つてゐる仕末である。そんな譯で目下の處、吾人

に對して却々強硬な、一部米國の輿論が存在してゐる。然しながら英國と獨逸との間に若し明日にも戦争が勃發するとすれば、いづれ此の大量の輿論は孰方に傾く事に成らう。果たして獨逸側宣傳の御手際を以て能くこれを彼等の側に引張り込めたら、それこそ大手柄である。兎に角一般に米國に於ける状態は、一九一四年當時よりも英國にとつて好都合のやうである。曩きに擧げた惡宣傳の温床が失くなつただけでも、工合がいい。但し假令一時的にせよ、上述の如く吾々が「民主主義」國家の屬籍を失なつた等と宣傳され、恰も吾々が獨裁者等に屈服するか、又は少くとも此等に慫慂をさせんとしてゐるものゝ如くに唯し立てられた事は、如何にも拙い。何にしても吾々はそれほど不利な立場に立たされてはゐないのであらうが、米國をして好意的中立を保たしめるには、もつと馬力を懸けて宣傳に努めなければなるまい。而かも米國を口説いて吾方に立たしむる事は尙更至難で、恐らく旨くは行くまいと思はれる程である。それにはアメリカ自身をして決定的な脅威を感せしめる外は無。脅威と言つてもただの脅威ではいけない。其處を宣傳して各人が其の脅威を家庭に持つて歸る程度にまで至らないと駄目である。そこで始めて此の共和國は再び武器を執つて、外界の争ひに加はることにならう。若しその戦争に日本が捲き込まれてゐれば、勿論事はすつと容易に成り、恐らくは放つて置いてもアメリカのはうから進んで飛び込んで来るかも知れない。孰れにしても、恰度歐洲大戰の時吾方の宣傳陣が活動して米國と獨逸との間に摩擦を生せしめたと同じ工合に、今度は日本を山汁にし

對米宣傳  
如何に  
す可きか

てアメリカを引張り込むと言ふ事が、吾方宣傳諸家の當然且つ明瞭な目的であらねばならぬ。

それに運好く、事アメリカに關する限り、吾人の宣傳は足下が確かである。即ち吾方としては何處までも真正に押し行けばよろしい。蓋し吾人が掲げる綱領が、例の昔の「民主主義」で済むだらうからである。されば吾々は、吾々が政治の民主主義的形態を信奉してゐる事を明快に宣示し、何處までもそれに即して行くと言ふ吾々の牢固たる決意を展べて見せなければならぬ。更に比較的小さな宣傳に於ては、猶太人の如き肝心な部分に對して、十分の支持を仄めかしてやらないといけない。例へばバレスチナ問題に關して截然たる政策を宣揚して、若し吾人が勝利者たらむ曉には反セミチック運動の暴虐を斷然終熄させてやる、と唱へる等もよからう。それからロマン・キャソリックの一派に對してもそれと似たやうな文句を並べるがいい。此の位の事なら遣つて遣れぬ事はなし、それをアメリカの民衆に押し付ける事も、さして困難ではなからう。それには此前の時のやうに、吾方から文壇の著名人や其他アメリカで名の賣れた人士を送つて、晩餐の席等で吾方の見解を述べさせる事である。だが茲で吾人の頭痛の種と成るのは、キング、バリー、シヨウ、ガルスウァー、ウエルズと言つた面々の蠅を摩す程の名聲を博してゐる人間を見出す事である。寧ろ今度は逆に吾國若くは吾が友好諸國に力添えをしてくれそうなる、アメリカ人の見解や經驗を最大限に利用す可きであらう。吾々のはうで然う言ふ人々を十分厚遇し、勳章を與へ、通信や新聞に載つた彼等の言説を指摘して、彼等の言説

をそのまゝ、宣傳の材料に用ひて彼等の同國人に振り撒いてやる。これは歐洲大戦中、佛蘭西人が好んで用ひた宣傳の一形式でもある。惟ふにロンドンにあるアメリカの新聞人は、由來その俊鋭を以て鳴つており、まさか露骨な宣傳に乗る連中ではないが、併し何と言つても此方から見て如何にも宣傳力の一番多い人達である。蓋しその中の大部分が此國を好いてゐるといふ事實は別として、彼等が日毎に報道を送る力は大したものだからである。予も過去十八年間彼等の多くを知つた経験からして、曾てブラウソング提督が彼等を褒めて語つた言葉を、予の口から繰返してもいいと思ふ。提督の言葉に曰く「あの連中なら絶対に信頼していい。彼等は實に誠實だから、私が止むを得ず打聞けるか若しくは洩らしてやつたほうが良さそうだと考へるかした秘密な情報を、私がよしと言ふまでは決して外へは出さない」と。斯様な次第であるから、次期戦に於ても彼等は、觀察に報道にあらゆる便宜を與へられ、彼等の通信も同情的な検閲を受ける事に成るであらう。ニュース映畫の撮影者達もこれと同然であらう。此の人達は空襲などあつた場合、一番乗りの撮影を許されるであらう。然うすれば、未だ「殘虐行爲の宣傳」が利く、二三の大國の一つに適當量の「恐怖」の實寫を見せる事が出来るからである。次で吾國の海底電線と無線電信も、不急若しくは極秘の通報をなすための働きをする事と成らう。扱てラヂオ宣傳は、これ亦全力を擧げて活動すべきであるが、但し現在のやうな不景氣な状態から思ひ切り進歩を遂げる必要がある。予は茲に予個人の經驗を掲げて、這般の事情を闡明し

對米ラヂオ宣傳

て見よう。それは、獨逸がオーストリアを併合した餘勢を驅つて若しチェコスロヴァキアに迫るならば、これに對する英國の態度如何と言ふ問題を首相自身の口から聽かうとして、世界中が耳を聳てゐた恰もその晩の事である。予は、吾國でも恐らく最も有名なラヂオ解説者だと言はれてゐる一友人の家へ尋ねて行つた。すると彼は「何うだ、何かアメリカ向けの話は無いか！　もう冊分ばかりするぞ全米のラヂオ網を通じて、英國政治問題の週刊講演をやらなければならぬのだが、何を話していいんだか、未だ全で考へが纏つてゐない」と予に訊ねた。仍で予は訊き返した「だつて貴君の事だから政府のはうとも何か連絡があるのだらう。貴君が毎週規則的に何十萬と言ふアメリカの聽衆に相對してゐる事ぐらゐ、政府だつて知つてゐるのだらうから、ちよつと、位何か教へて呉れなかつたのか！」と何と呆れた事には彼れの返事が斯うであつた。「何の、一と言だつて教へて呉れるものか。政府の情報關係のはうとは、全然連絡がないんだ。奴等は決して俺と連絡を付ける氣に成らぬのだからね。中には一人や二人俺のやつてる事を知つてる者もゐるのにサ。而かも此方としては是迄も随分渡りを付けて懸かつたんだが」。斯う言つて彼等は、從來も頻りに役所へお百度を踏んだ揚句漸く新聞班の若手の役人達にだけは會へるやうに成つたが、その連中では十分此方の役に立つては呉れられないのだ、と言ふ次第を話して聽かせて呉れた。これは全くの事實で此邊から考へれば、今や段々米國內に蔓延して來てゐる反英ラヂオ宣傳を打ち破るために、吾が當局が果たして何れ程の事をやつてゐるかが一目

ブリタニ  
ッシュ・カ  
ウンスル

瞭然とする譯である。

七七六

さりながら予は、現在吾國が諸外國に對して何等かの宣傳に従事せる事絶對に無し、と言ふ印象を與へる心算は毛頭ない。それでは例のブリタニッシュ・カウンスルなる幽遠至極なる團體に對して餘り階であらう。蓋し此の團體が専ら力を注いでゐる處は、かの『文化的宣傳』と稱するものだからである。もう少し平明に言ふと、『吾國の國語、文學、美術、科學並に教育に對する知識と鑑賞』とを宏めると言ふ仕事である。其處には、政治家、民間學者、製造業者、商人並に教育家等から成る數多の委員會があり、また英國の講演者や音樂家、扱ては蓄音機のレコードから雜誌小説に至るまでを、様々な國へ向つて送り出し、英吉利斯を訪問して來る本屋さんや先生方に御馳走する。又ラトヴィアだらうとウルグアイだらうと處構はず少年少女に英語の勉強と尊重とを奨励する。さうして實際上その團體は常任の御歴々を描へてゐる譯でもないのに、他の諸團體の宣傳活動の統合といふ、難澁極まる任務の遂行にあたつてゐると稱してゐるのである。茲に他の諸團體と言つたのは、孰れも夫々の領域で秀でゐる、例へば旅行協會(昔の『來たれ英國へ』協會である)、それから映畫協會(これは何を置いても教育映畫と記録映畫を眞先に援護するために存在する團體である)等がそれである。更にブリタニッシュ・カウンスルは此等全部を引括るめて英國放送協會の漠然たる仕業に結び付けることをやつてゐると稱してゐるのである。成程カウンスルのやつてゐる仕事の多くは、それ自身の行き方では確

かに却々優秀ではあるが、併し、それは斷然宣傳ではない。今のやうな状態だと、寧ろ勞働階級の母親達に綺麗事の編物を奨励してゐるやうに見える。何ぞ知らん外の精力的な國民は、然う言ふ母達に向つて家計を豊かにする事を切々と教へてゐるではないか。文化的宣傳などと稱するものは、所詮好事家的な夢想である。そんなものから建設的な仕事は一つも生まれて來はしない。委員の數ばかり多くてその仕事には統一が無い、その上専門家なり又は常任の幹部なりに統御されてもゐず、獨りよがりの素人ばかりの集りに支配されてゐるのである。その最も悪い所は、他に一層有效な使ひ方もあるべき公の金を何萬圓と費消してゐる事である。そのいい所は、そんなものが在つても何の害にも成らぬといふことであるが、而も間違問誤するご、ブルガリヤとかベルウあたりの古老が、英國がその文化を人工的に持込んだ以前の状態を懐しんで涙することにもなりさうである。そのほか亦此の團體を案として、その人員の器量と數を強化し、宣傳精神を吹き込んで、將來戦と成るやこれを宣傳省の一部となすことも出來やう。

(四)

英佛關係  
と宣傳

最後に、將來戦に就て確實なことは、吾人がフランスを以て、よし吾が英帝國の外側に在る唯一の恃みある友と謂はぬまでも、兎も角主たる同盟國とすらうといふことである。地理的にも吾々

一七七

は恰も一錠に繋がれた相囚人のやうにフランスと結付いてゐる。吾人とフランスとの共通點は此の地理的連結と、それから獨逸の攻撃に對して身を護らうとする意志と、ただそれだけである。此の二つ以外には、吾々は實際に共通の利害も手段も將た前途をも有つてゐない。斯く言へばとて、何も英國輿論の大切な部門殊に非常に發言的な部分が眞に親佛的でない、と言ふ譯ではなく、またフランスと言ふ國が恐らく世界中で最も高い知識の水準を有ち、且つ最も廣汎な個人的自由の限度を示してゐる事を拒まうと言ふのではない。然し乍ら不幸にして、宣傳は先づ政策の一致を要求する。されば此の事由からする時は、吾々とフランスとの間の友好關係は、明らかに脆弱なのである。如何にしてフランスと同一線上に吾々が具體的政策を進め得るかと言ふ事は、休戰當時から以來つゞ困難な問題であつたし、また將來戰に際しても相變らず厄介な事として残るであらう。一體フランスと言ふ理論好きな國は、自分の眼から見て當然と思へる其の利益を、歐洲大陸に立つて防衛すべき國は自分なりと深く思ひ込んでゐるのであるが、吾人が若し此國と一緒に足枷せをされてゐなかつたならば、歐洲に於ける宣傳の筋道と隨つて亦歴史とは、過去廿年間にものつと異つたものであつた筈である。此の桎梏があるばかりに、將來戰に際し吾々が中立諸國に向つてする宣傳は掣肘を受ける事であらう。否、當面の敵に對する宣傳さへ、思ふやうには出來ないかも知れない。假りに吾々の發意で宣傳政策にうまい考へが湧いたとしても、フランスがそれに同意しなければ、亦同意するまでは、それを遂行する譯に

行かないと言ふ事に成るであらう。而かも吾人の予見する處とフランスのそれとは、まるで懸け離れてゐるのであるから、フランスが滅多に同意をしさうな筈もない。同様の意味で亦、吾々は吾々の同盟國たるフランスに向つて、何か斯う心臓興奮劑でも與へるやうな按梅に、終始宣傳を續けて行かなければなるまいと思ふ。何しろフランスは何時でも疑ぐり深い國であるから、何彼と言ふと吾々が戰爭に對して何處まで真劍であるか又どの位犠牲を拂つてゐるか、そんな點ばかり聞き度がるから、絶えず之を證據立てて見せてやらなくてはならぬ。寔にフランスと言ふ國は、女性的な相棒であつて、餘程の辛棒をし十分の注意を拂つてつきあつて行かねばならない。それでも尙ほ吾人が何一つしやうと言ふにも、うるさく其の譯を訊き度がるに相違ないし、かりに双方納得づくで一定の道を踏んで行く事に成つてからも、兎角歩調を亂すやうな事はかり仕出來すであらう。尤もこれは恐らく同盟國間に常に起る面倒だとも謂へよう。けれども予が現下の世界情勢に於てフランスが必ずしも氣樂な道連れでないと言ふ觀察を下したからとて、予を以て好んで反佛に偏する者と批難されては、たまつたものではない。何にしても斯かる次第であるから吾人も俱々重荷を曳いてゐるのだと言ふ事を始終言ひ聽かせて、彼女を安心させて置くだけの努力を決して怠つてはならないであらう。

扱て同盟諸國並に中立諸國を説き伏せるに最も効果的な手段の一は、夫等の國々の宣傳家をみんな連れて來て、吾人が彼等のために存分戰つてゐる事實を、十分に便宜を計つて見せてやりもし亦報告

も書かせてやる事である。此の邊の事は歐洲大戰の時にも吾々が大いに手腕を發揮し得た處であつて、且つ又極秘と公開の中間にうまく舵を取つて行く才能と云ふ點で吾人には特殊な直感が備はつたのである。但し此種の宣傳は宣傳に従事する者に對し、十分なる想像力と忍耐及び機才を併せ必要とする手際を要する仕事なのである。而かも軍部のほうから見ると始終大切な將校をその方面に引き抜かれて、何をさせられるかと言へば、洪水のやうに押し寄せて來る外國の政治家や、新聞記者、寫眞屋、映畫技師等を彼方へ引張つて行つたり此方へ連れて來たりする仕事なのであるから、餘り慌ばれない。その上此の仕事には、或る危険も含まれてゐる。だが兎に角その効果は大きいのである。何にせよ見る事は信する事である處へもつて來て、元來宣傳家の目的は報道を作り出してそれをうまく通信させるに在りとするれば、もともと此方から吹込みたいと思つてゐる當の相手方を連れて來て其の人達の手で通信を送らせるに越した事は無いではないか。それにしてもブラウソング提督が自分の經驗を面白く纏めた手記を讀んだ程の人ならば、斯かる特殊な宣傳の途上にはこれを圍むで如何に多くの脆計と陷阱が設けられてゐるかを知つて、成程と思ふであらう。

英自治領  
問題

尙ほ此外にも一層の注意を拂はなければならぬのは、英帝國內の諸國に對してである。此等は吾がウエストミンスターで出來上がった憲法に由來する變つた政情を持つてゐるが故に、無論同盟國として扱はれる事を要求するであらう。而して同盟國であれ復た兄弟であれ、ごつちみち世話の焼けない

國は無いのである。固より一般論としては、英帝國自治領はすべて英本國と歩調を合はせて進むべき筈ではあるが、屹度然うすると言ふ確實な目安は一つも立たないのである。最近國際聯盟でアビシニア問題が討議された時、ニュージラランドが英本國に背いた事などは、吾々として戒心をする必要がある。その他、人種の宣傳や反英帝國宣傳が段々爾餘の自治領又は印度等に力を占めて來てゐる事も、忘れてはならぬ。扱て同盟諸國に對する宣傳の上から見て大きな安心と謂へるのは、如何にして夫等の國々へ宣傳を到達せしむるかに苦しむ必要のない事であらう。凡ゆる手段を用ひ得るのである。強ひて困難と言へば正に何を言ふべきか、又それを何處まで強調するかを見出す處に在るであらう。

對同盟國  
宣傳の統

それより最大の留意を要する事は、同盟國に對する宣傳を整理統一すると言ふ問題である。元來一國がその同盟國に對して抱く友好的感情は、製造されるものである。これは英吉利斯に就て言ふ時、殊に然りと云はなければならぬ。蓋し予が前にも指摘して置いた如く、英國と言ふ國は是まで假裝敵と目してゐた者を、政界の氣紛れ一つで忽ち信頼すべき友人にしてしまつたりする事がよくあるからである。此の理由からすると、此の種の宣傳は、寧ろ國內に於て一層肝要なものと成つて來るのである。フランスが吾人の友好國だとしても、吾々として肝心な事は、吾國の國民がフランス人の事を快く思ふやうに仕向けて置く事並にその反對が必要である。従つて宣傳に従事する者は餘り相互の信頼の點を強調し過ぎぬやう注意が要る。予は曩きにも、此の信頼宣傳の行き過ぎでロシア人が却て外方



を向いて仕舞つた話を述べたが、これには何時も次のやうな危険が伴つて來るのである。即ち同盟國間に戦線統一の必要を鼓吹する爲めには、同盟國が一心同體となつてゐるが故に總てがうまく行つてゐると傳へて貰へば好い工合なのであるが、然うすると弱小同盟國の中には、分つた。併し萬事が然ううまく行つてゐるなら、此方も何時まで強大な同盟國の言ふ事ばかり背いてゐる必要もあるまい。これから將來はもつと此方の思ふ通りやらして、貰ふとしよう」などと言ひ出す者が出て來るかも知れないのである。

## 第五章 國內戦線

(一)

將來戦  
市英國各都

將來戦は、國內戦線に於てする防衛的宣傳の重要性を増すであらう。それは相手國の一般國民の氣力に一撃を加へる事が現代戰略の第一要諦だと言ふ事が、全般的に認められて來たからである。無防禦の都市に對する完膚なきまでの空爆、就中一國の神經中樞たるべき主要諸都市に對する徹底的空襲と、その住民を爆碎に依る殺戮を以て恐怖の底に陥入らしむる、此の二つが歐羅巴に於ける將來の戦の最も顯著なる生面であると思ふべきであらう。將來戦に於ては一般銃後の國民は戦線の塹壕に居ると同じことになり武装部隊は寧ろ外側に立つ軍隊として、専ら敵の攻撃を排除し、若しくはこれに反撃を加へるはうの役目をする事に成るであらう。此の變化は、吾國人にとつては、文明世界の何れの國民よりも、餘程その事に馴れにくいに違ひない。その所以は第一に、吾國民の上には何處からでも容易に手が届くばかりでなく、人口が何處よりも稠密であるからである。さればヨーロッパ中を探して見ても、ロンドン程空襲にやつて來る空の戦士の心を躍らす好目標はない。第二に亦、他處の國々と異つて吾々は、最近三百年戦争を眺めること恰も米國が歐羅巴を眺める如

く、奈く對岸の火災視してゐられたからでもある。されば吾々がクリミヤで敗戦した時でも、マンチエスタアの木綿の仲買人は決して忙てふためいたりはしなかつた。彼等にとつては馬耳東風だつたのである、と言ふのはサウスイールズの邊境の民は、南阿のズルランドから此方にはまるで縁が無いのだつたからである。又近くは、ソナムの戰場或はバツシエンデーレの戰場で物凄く殺戮が行はれたからとて、ロンドンへ逃げて來てゐる仕立屋さんにとつては痛くも搔くもなかつたのである。ところが愈々敵機がチートハム・ヘルやワイトチャペルの上空に現はれたと成つて來ると、話は全然變つて來るのである。恰も有史以來歐洲大陸の家々が直接に戦争の脅威を受けてゐたと同様に今や戦争の暗い影は英國の家々の屋根に覆ひ被さつてゐるのである。されば予が曩きに述べた如く、此の新しい恐怖すべき事態が抑々吾が國民の大部分をして國際聯盟を通じて安全を求めしめ、聯盟を金科玉條と崇めしめるに至つたのである。何にしても吾々は空からの好目標として曝け出されてゐるし、従つてその當然の成行きとして、最も精神的傷害を受け易い目標、とも成つてゐるのである。

英國内戦  
線の現状

扱て、或る場所が空襲を受けると分つてゐれば、其の場所の防備を強化する手段の執られる事は當然である。此の當然の方針は、市民の精神的危険にも當嵌められるだらうが、併し其のために今日まで行はれて來た宣傳其の物に至つては、實に散漫であり、矛盾だらけであり、且つ一向無效果であつた。第一、國家が其の事の總元締として何等の責任を認めなかつたのである。而してその謂ふ處を聽

けば、曰く一朝危期の至るならば必ず立派なイギリス的精神が働くから大丈夫だ、傍々宣傳など言ふものは此際不適當でもあり他事でもある。否如何なる場合と雖も、そんな事は國家としてやるべき仕事に非ず、と言ふのである。それこそ危険極まる信條ではないか。そのイギリス魂とか言ふものも、少くとも今では混亂してゐるのである。その上英本國の各都市は、いづれもこれが精神的破壊を企圖する者の好餌であり、且又歐洲大戰以後或は歐洲から或は愛蘭から、生活不安定の移住者がどんどん流れ込んで來てゐる。想ふても見よ、かの一九一七年中空襲の行はれた度に、倫敦東部に於ける態度の見つともなさを。此等の分子こそ、堅忍不拔な土着の住民の間に危険なヒステリーを傳播して行くものと言ふ事がよく分るであらう。次に又吾が當局は、右の如く一方に於て宣傳を行ふの可なる事を拒みつゝ、相變らず志願兵制度保持の再確認を繰返すばかりであつたのである。即ち政府は曰く、吾人は國民道徳の強化にも亦銃前銃後の補充にも、たゞ國民の自發的努力に信頼して居れば良い、と。だが然う言ふ努力は是れを懲進する事から始まるものであり、やがて又宣傳と言ふ處に戻つて來る譯なのである。で進退兩難に陥つた當局は、結局折れた。而して兎に角宣傳らしい恰好のものが、行はれるやうに成りはしたが、それも各省區々である。従つて其の間に何等統一も無く、あるものは唯各省間の横の整調ぐらゐるものである。其處には統一も無ければ亦建設的な政策もない。一個の具體的な考へも確かりと押し進められては居らぬ。その代りただ漠然とした間斷的な警告を以

て、國民に向つて民主主義の危期を叫ぶだけである。而かも悪い事には、これでもつて専ら一般の恐怖心を掻き立てゝゐるではないか。曰く爆彈の恐怖、毒瓦斯の恐怖、獨逸の恐怖、將來の恐怖、と。これがみんな、各方面の補充増員を計らうとする腹から出てゐるのだから、敵はない。

現に陸軍省でも、正規部隊及び外地派遣部隊のために人を求めてゐる。空軍でも人が足りない。海軍省でも水兵を募つてゐる。内務省でも防空事務のために、男女を求めてゐる。衛生保健省では、健康國民を求めてゐるのである。

英國内宣  
傳の現状

そこで各省とも一名づゝの新聞班長を任命し、これが大抵は如何にも貧弱な部下を揚げたきりで、何かごそごそと、宣傳めいた情報や記事を新聞に出したりしてゐる。此のお役人は或は新聞の所有者やその主筆と友達交際をしたり、またB・B・Cと連絡をしてゐるが、然も宣傳をやつてゐるとは變氣にも出さない。その役人がやつてゐる事は、精々新聞に情報を提供するとか、一般に向つて話すとか言ふ位の仕事に過ぎない。而かも然う限られた埒内さへ、彼れが能く成功するか否かは懸かつて彼れの長官の馬力と、宣傳に關する埒の良否とに據るのである。また固より彼れが民衆に訴へる事柄の如何にも係つてゐる。但し彼れが賣名好きな大臣の個人的榮達に利用される可能性を別にしての話である。兎に角上記の各省は、何とかして人間を集めようとする懸念に笛を吹き、その或者は大いに成功を収めてゐる。かと思ふと中には、うまく行かない省もあるが、その失敗の跡を考へて見ると餘り執拗に宣

傳を繰返しすぎた場合が多いやうである。併しすべて此等の努力の後ろには、何等の統制も何等の指導的な考へも無い模様である。各大臣はそれぞれ人を求めるまゝに、兎角自分がラヂオに向つて雄辯や自分の勘に信頼したがかり、また自分が任命した新聞班長の馬力や器用さに任かせて人を獲ようとしてゐる。而して所望の人員の或る部分が集まると、何と押し強くも聲を大にして自分の處の成功を誇る有様である。假りに所望人員の總數を引張り込めたとしても、それは獨りで悦に入る位が落ちである。とても旨く行かぬと見ると、慥面もなくまた新奇譚き直して募集を始める。然う言ふ譯であるから、つまりは各省互に競り合ひの形と成つて、第一に各種宣傳機關の一番良い處を占めようとする争ひ、第二に民衆の中で一番動かし易い連中か、若しくはせめて他と同じ位好意のありそうな連中の、御機嫌ばかり取結ばうとする。固より殆んど總ての新聞紙、映畫並にB・B・C等は、孰れも國家の利益と成るべきあらゆる運動を悦んで支持したがつてゐるのであるが、その支持とても、夫等の運動が民衆に呼びかける事柄の如何にも依り、また其の呼びかけの利き方如何に依るであらう。仍で次のやうな事が矛盾無しに言へるやうな事にも成るのである。即ち英國正規軍の各兵科に志願者を募集する運動が、手廣く且つかかなり確實な呼びかけをすると、その結果いくらか力の弱かつた國家勤勞運動の影を薄くしてしまつた、と言ふ事がある。それでゐて前者のほうが、餘り効果的な計畫も立つてゐず、大して氣合も懸かつてゐなかつたのである。兎に角その成果は、正規軍に應募した者の數に依つ

てこれを窺ふ事が出来る。但し茲で特筆して置くべき事は、現在のところ、たつた其の五十五パーセントだけが、たださへ貧弱な吾國の募兵基數を充たし得るに過ぎぬと言ふ一事である。獨逸の如きはそれ以下の標準數である筈はないのに、八十パーセント以上が補充可能である事を忘れてはならない。此の外、斯様に各省各別の雑多な呼びかけをする制度の遺憾なる現象は、實際上、寢呆けて氣の無い大衆が呼び醒まさずして、既に其の氣に成つてゐるか若しくは容易に訓へ易い人々の戸口に向つて、要らざる非常呼集をかけてゐると言ふ事である。而かも孰れの省の呼び聲を聴いても、申し合はせたやうに社會奉仕の念を以てその基礎として居り、自由なる國民が自發的に民主制度へ奉仕すると言ふ考へを土臺としてゐる。民主主義に口先きだけで大いに奉仕してゐると稱してゐるのである。而も矛盾したことは、左翼諸團體が行ふ大量の宣傳が、スペイン、ロシア、又は獨逸、支那に於て頻りにデモクラシーの後楯をしてゐるのに、英國政府の宣傳當事者等は英國に於てデモクラシーの支持をやらないのである。一體商業上の廣告を専門とする人達でも、特製の商標を貼つた品を廣告して賣り付けるには、先づ大方の顧客の間に好意の素地を作つて置く必要のある事を、夙くから認めてゐるのである。また廣告を成功させるには、十分に練つた賣出し計畫に基づいて廣告せねばならぬといふことも知つてゐる。予は何も此の廣告と言ふ事を以て有效さの手本とせよとは、決して言はない。廣告の中には随分出鱗目なものがある事を能く知り抜いてはゐるけれども、敢へて予は言はう。即ち若し

商人でも或る專賣品を賣出すに當り、そのために使ふ金と現金で戻つて來る額とを考へて、計畫を立てる必要を認めるならば、まして政府には尙ほ一層之が必要であらう。第一政府は兎角定め無き民衆の支持だけが頼りであり、而かも三省四省と多方面の手を通じて、彼等を選出して呉れた人達に對して、やれ國民の義務に就けの、やれ出來るだけの犠牲を甘受して奉仕せよとの頼むのであるから、尙更の事である。その呼びかけが如何に聲を大にし如何に遠方まで轟き亘らうとも、金が懸かつてゐるから上手だと言はれても多寡が廣告ぐらゐるものに較べてすら、唯だ呼びかけただけで何の支持も得てゐないとするれば、到底それは成功しよう筈は無いのである。這般の消息に就て少々古い例を挙げれば、一九三二年五月、アルバート・ホールに於てウサンザー侯が行はれた『勤勞』に關する御演説がそれであつた。侯は當時皇太子として國民間に最大の人気を博して居られた頃だつた。されば此時は、場所柄と言ひ機會と言ひ又人と言ひ、殆んど最大限の理想に近かつた譯である。侯の演説の主旨も非常に優れたものではあり、傍々英帝國全部に亘つてこれが伸張された。かくてこれに應じて立つた各種の勤勞促進機關は一齊に大會を開き、手具腰引いて應募者の殺到に備へてゐると、驚く勿れ全體でたつた七百名と言ふ大した反響を示したではないか！ 慘澹斯くの如きものがあつた所以は、然う言ふ高貴な方の森嚴すぎて少々濕めつばい訓話の精神と言ふものが、まるつきり前受しなかつたと言ふ處に在つたのである。扱て本筋に戻つて世間を見渡すと、或は若い者に呼びかけては、正規軍

なり外地派遣軍なりに這入れと言ひ、或は古い兵隊には進級を薦め、また元將校だった連中には各種豫備軍並に應急豫備軍に這入れと言ふ。此のはうの補充員は第一に空襲警報隊に入れ、又一般民衆には一般防空勤務、と言ふのである。特務警察官、特設空襲警務官、豫備警官隊等に應せよと云ふ、等々次々色々なものが出て来たのである。孰れも似たやうな話であるのに、その間何等計畫の一貫したるものを見ないばかりか、その各々が一つとして豫め計畫を練つてから發足してゐるものは、一つも無いのである。その顯著な例を挙げれば、國民を驅つて空襲の危険の前に立ち上がらせ、A・Aの防備工作隊、高射砲射撃隊等に入れて國民自ら空の護りに就かしめんとした彼の一聯の企圖がそれである。ところで例の恐怖宣傳を頻りにやつた初期の頃は、特に毒瓦斯に對する恐怖を宣傳した。されば此の宣傳とは本來反對の立場にあるべき「反戦派」までが政府の宣傳に合流したのである。かくて或る著名な一紳士が次のやうな確言をするに及んで、その仕事は正に頂天に達した。曰く、若しも一個の毒瓦斯が『ピカデリー廣場に落ちんか、リーヂェントの公園からチームズ一團にかけて一人残らず殺されてしまふ』であらうぞ。さしづめ約百萬の市民が死ぬ勘定に成る。ところが此の毒瓦斯の危険は早くから科學者にとつてそれ程のものでないことが指摘されてゐたのである。

既に一九三四年一月に、予の友人で致死毒瓦斯の實際研究家として全國有数のフランス、フリーズ博士が、毒瓦斯などは空中から蒔いたとて大した危険なものでないことを喝破したばかりに、嗤はれたり

毒瓦斯の宣傳に  
關して

威かされたりしたものであつた。果して今では、慄へ上がった國民に對する精神的効果を期待する時を除いては、如何なる都市を空襲する者と雖も大抵は強力な破壊弾か若しくは焼夷弾を用ひて、何もわざわざ毒瓦斯などを持ち出すものは無い。然るに吾が内務當局が漸くのこと此の見解の正しさを認めたのが一九三八年の四月である。その時の口上に曰く『最近の事件の示す處に依れば、焼夷弾並に爆弾のほうが脅威の大なること概略毒瓦斯に優るものゝ如し』とある。その『最近事件』と謂ひまた『概略』等と漠然たる語を平氣で使つてゐるところに眼を留められたい。言葉を換へて謂ふならば、それまでの政府の宣傳が眞實の上に立つてゐなかつた證據ではないか。更に政府の宣傳は輿論を指導するどころか、汲々としてその後を追つてゐたのである。兎に角、責任のある大臣が、心理的に見て選ばれたる機會に、無慮百萬の人間を雄辯を振つて募つたとなれば、少くとも彼れの其の呼びかけは最も細心な準備を経た上でなされたもの、且つ周到な計畫によつて全國市町村とも連絡がとれてゐて、他の各省で同時に行はれつゝある同様の募集とも齟齬せぬやうに成つてゐるものと、考へられるのが普通である。ところが全でそんな形跡も無いのである。而して間違つた毒瓦斯の宣傳をやつて國民を恐慌に陥入れた罪を鳴らされるや、その大臣は慄面もなく言譯を並べて曰く『瓦斯と言ふものは、それ程恐る可き恐慌を捲き起す道具である』と、成程それに違ひない。けれども其の恐る可きなのは、精神の不健全な大衆に對してのみの話である。然らば大衆を毒瓦斯で脅した責任は、誰の執るべきも

のであるか?! 何ほ何でも政府の宣傳ともあらうものが初めから敵の爲を計つて行はれた譯でも無からうではないか。そのはじめ、軍隊で瓦斯防毒面を被らせて弾雨の下に毅然として頭を上げさせて置くためには、實に大變な訓練を要したものである。それから見ると、強力な訓練がしてない一般國民に防毒面をかぶせたら、砲火を浴びる前から士氣廢頹せる烏合の衆と成るばかりであらう。

扱てそれから二た月後、重ねてA. R. P. の募集運動が國民の前に登場し、大臣は復たしても時機に適した一と放送をやつた。さうして、何うやら見込數の五十パーセント以上を蒐め得たと言つて、大いに得意であつたらしい。ところがそれも、公けのあらゆる機關を總動員して手助けさせ、その上反對側の宣傳家達までも狩り出しての事である。予が其の省の役人共に彼等の募集の成果が貧弱だつた事を責めてやつたに對して、何と呆れた彼等の返事と言ふのが、此の際それ以上押し懸けられたつて遣り切れない、とある。然らば何が故にあれ程人間を求めたのか?! 何で時の流れが、吾が英國だけを待つてゐて呉れると考へるのか?! 國內の事がきちんと片附いてゐなければ、決して國外問題に於て毅然たり得るものではない。軟弱な外交政策は、勢ひ戦争の危険を増す事に成らう。而かも某閣僚は嘆息して『する事は山程あるのだが時間が足りない』と言ひ、『然う焦慮つたつて始まらない』と、もう一人の仲間はずぶやいてゐる仕末である。

官廳の注意と言ふのは各省夫々の豫算分捕りに釘付けされて仕舞つてゐるため、より以上大きい問

題のある事は頓と失念の形である。即ち彼等の背後に四千八百萬の人間が居り、彼等はそれに向つて何彼と微用を押し付けてゐるのであるし、その四千八百萬は軍服も着ず腕章も捲いてはゐないけれども、事實既に火線に立つてゐる人間だと言ふ事を忘れてゐるのである。實に此の數千萬人が國民精神を決定するものであり、彼等の示す反響が國民氣力の健否を明かにするものである。然るに此の數千萬人を指導するに何等建設的な考へもなく、ただ徒らに空襲警報の銅鑼を叩き續ける許りでその神經を慰はせる術を知らぬ様である。

#### 建設的 傳方針

扱て將來戦に處せんとする宣傳の大樓門も、肝腎の角石が据わらなければ、たゞの瓦の堆積に過ぎぬものと成つてしまふ譯であるが、その角石たるものは何であらうか。即ちそれは先づ、もつと積極的な宣傳陣を張つて、かの自發的應募の制度は、社會の自發的奉仕が在つて始めて、その結果としてのみ存在するのであるといふ訓へを、懇々と泌み込ませる事ではならぬ。また民主主義國家の一員と生まれた事が無上の特權なる事を教へ、されば國家に對する義務の觀念を振起せよと一般の良心を揺り醒ます事ではならぬ。換言すれば、吾が民主主義下の國民は、かの全體主義諸國の人民が宣傳と強制とに誘導されて始めて行ふ處の努力に、進んで赴くべきだとなすのである。宣傳をするにも、同じ宣傳には相違ないが、必ず一つの建設的な理想との聯携を忘れてはいけない。即ち祖國に對する愛の宣傳であるべきで、他國に對する恐怖の夫れであつてはならないのである。誰か知る、

此邊の措置にして妥當を得んか、やがて遠からず民衆の間に、あの『愛國主義』と言ふ古語が再び戻つても來ようと言ふものである。此の民主主義の宣傳を、今こそかの一九一四年當時の如く、最も旺んに行はなくてはならぬ。それは恐らくもう輸出向きの商品ではなくなつてゐるかも知れないが、これが指導に適切であつたなら、國內では十分昔のどほりの賣行きを示す筈である。

宣傳の中  
中央統制

而して、それは決して個人たる政治家や、將軍や、又は空軍總監、海軍大將等の手で行はれただけでは、満足な進展を示すものではない。必らずそれは統制ある中央的管理の下に置かなくてはいけない。それも成るべくならば非政治的統制が良い。さうして民衆の心に觸れるにあつて、何等特定の利益や黨派に關係の無い人々が、これを流布するのぞなければならぬ。言ひ換へれば、露骨であつてはならないのである。又無論、彙きに述べたやうな統制を必要とするが、此の點に就ては吾國民は天性整合妥協に巧みであるから、斯かる統制と雖も、新聞紙、英國放送局、映畫工業方面、その他一般民衆、と言つた雑多な機關の支持と同意とを以てこれを遂行し得ると信ずる。今日まで既に多くの時間と大切な機會とが失はれて來たし、斯う言ふ裡にも刻々時は去つてゐる。此頃ではまるで地を拂つてしまつたかに見える肝腎要な現象は何かと言へば、それは上述の精神的背景こそ、ひとり將來戦に耐ふる持みの綱であるばかりでなく、平時に於ても權力は實に其處に在ると言ふ事實である。今から恰度八年前、吾人が未だ今日のやうな軍備の重荷を背負はされてゐなかつた頃である。吾國は大變

な貿易上の行き詰まりに遭つて危地に陥つた事があつた。その時は一般に向つて若干の節約を要望する事に依つて、兎も角も難を免れ得た譯であるが、實際には別段吾國民の生活標準や吾國の社會業務の上に何等の影響を及ぼさなかつた。それと言ふのも一般民衆が、例の勘の良いところを見せて呉れたからであつて、而かも國家と言ふ屋臺骨のはうは、如何にも不快な衝撃を感じたのであつた。それから以來は吾國の軍備費は増す一方で、それが重税賦課と言ふところへ反映して來て、忽ち大戦當時の水準に近接してゐるのである。世界貿易の低下と同時に、吾國の貿易額も段々減少してゐる。此の次にもう一度大きな貿易不振が襲つて來る事ありとすれば、恐らく時の政府はどの政黨が政權を握つてゐやうとも、此の上民衆を釣つて公に奉仕させるに然う然う甘酒進上を極め込んでもゐられない事をすぐにも悟る外はない。それどころか何としても國民に訴へて、一層奉公の實を格すやうまた救恤金、貸金、その他社會的慰安の數々をぐつと引き下げて以て今までのやうな割りの好い話や有給休日等に換へる事を承諾して貰はなければならぬであらう。是から先未だ未だ歐洲の緊張する事が幾らでもあるだらう。さすれば當然國家としては武備を整へて油斷なく構へてゐなければならぬ。かくて一旦問題が勃發したとなれば、軍備が大切か社會奉仕が肝腎か、その答へは如何か。今日の國際狀勢に順應せんとすれば、軍備を熄める譯には行かない。而かも吾が國內事情からすれば、社會奉仕を缺いては危険である事も、三思すべきである。予としては、此處に將來の最大の危険を感ずる。その危

險はそれ自身危険たるばかりでなく、その結果として必らずや、敵が虎視眈々として待ち望んでゐる隙隙を吾が國民精神の真中に打ち開けて、以て戦争に飛込んで行くに違ひない危険である。此の一事こそ、予が按ずるに、たとへ今直ぐ戦争と成る氣配は無いにせよ、國民全般に對してもつと建設的な宣傳を行はなければならぬ所以だと信ずる。

(二)

予も萬々承知であるが、今日のやうな貼紙宣傳の時代に『統制』と言ふ語は最も鬼門にあたるであらう。その統制の形式に就て何の彼のご論する予は、批難の筈を浴びなければならぬ事亦必定と思つてゐる。にも係らず予が敢て以下の事柄を提唱する所以のものは、戦時とも成れば一國を擧げて、政府の手に依つて國家の利益のために行はれる統制に、悦服しなければならぬからである。それは『鼻歌まじりて平和を過ごして』ゐる時ならば、左様な統制は要るまい。だが吾人は、現在を目して何と呼ぶべきであらうか？ 予が今これを非常時なりと呼んでも、それに反對する人間は恐らく然う澤山はゐないと思ふ。凡そ毎日新聞を讀んでゐる程の人ならば、吾が英國が汲々として有事に處する準備をしてゐる事を、拒否む者はあるまい。即ち換言すれば、これは正に非常の秋であつて、平時でもなければ、戦時でもないのである。かるが故に、聰明なる國民に對し非常時的統制の處置に悦服する事を期待したからとて決して不合理である筈は無い。それは兎も角として、政府の宣傳に反對の立場を執つてゐる者が、彼等自身の宣傳に於て大聲叱呼して熄まぬ論點と言ふものは、『民主主義』と『獨裁主義』との中間に在るのである。かるが故に亦、政府を助けて憎むべき獨裁者共に對抗せしめる事を、國民に向つて要望しても、決して無理は無い筈である。仍て予自身が信ずる處に依れば、政府は早晚統制を布く外はあるまい。但し國民大衆が今日のやうに酔ひ痴れた状態であつては、そんな氣振りでも見せたが最後、例の徵兵令施行が政黨關係で癡狂に反對された如く、痛烈な反對を受けるであらう事は、予も認める。それで止むを得ぬ行き方としては、先づ國民の自發心に働きかける事であらう。扱て予は此のための議論の土臺として、また叱られるのを承知の上で、茲に最も實際的であり且つ最も役に立ちさうな案を二つ提供して見よう。

第一は、政府が各種宣傳團體の代表者等を一ヶ所に合同せしめて、何とか説得して一つの中央協議會を作らせるのである。その協議會に代表を送るものは、各新聞社、映畫製作所、英國放送協會、中繼放送會社、曩きに論及せるブリテッシュ、カウンスル、並に各省の新聞班長等とする。而して此の新機關を、誰か一人の高名な人物の指導下に置かしめる。例へばトッキーヅミュール卿と言つたやうな、著名な人物の下にである。尤も卿を直ちに此の地位に持つても來られない事は勿論であるけれども、予が卿の名を擧げたのは、ただ斯かる人物こそ待望する所以を示しただけの事で、兎に角名

中央統制  
機關二試  
案その一



弊比類無き人、誰が行つても自然頭の下がる人、才能經驗共に卓抜なる人物である事を要する。此の中央機關の任務は先づ政府と聯携して宣傳を作成し、次で各種宣傳機關の手を通じて、これが統合發展を計るに在る。同時に其の責任として、恰度現在映畫檢閲局の上に課せられてゐるものやうに、宣傳上の各種文章映畫並に手段をして時潮の適性及び國民道徳に背反せしめぬやうに心懸けなくてはならぬ。これは近い將來に必ず檢討されるべき問題と思ふ。斯う言つた團體ならば現在の如き時機に於て有効な働きをするであらうし、必ずしも「自由」と「放埒」を始終混同してゐるやうな連中の憤激を買ふとも限るまい。一旦戦争と成れば、早速これを變じて宣傳省ともなし、又は情報省ともする事が出来る。それには豫め日星を附けてある専門家を多く集めて、機構を擴大し、直ちに仕事を進める事も出来る。予は曾て或る有名な文官に向つて、これを提案して見たところ、彼氏は身震ひをして、仰天した調子で斯う言ふのであつた。『では何ですか、此の平時だと言ふのに情報省を設けようとも言はれるのですか?』と、借問す何の不可あらん、である。之を要するに、斯かる中央機關があれば能く政府と聯携を保ち乍ら、多くの宣傳を統合發展させて行く事も出来るやうし、同時に戰時機關としての骨組を作つて置く事にもなるのである。

扱て右に述べたやうな線に沿つた機關が、直ちに實際の運用を見ようと思まいと、將來戦と言ふ點から觀て最も重要なことは、敵對行爲開始の宣せられる前に吾國の宣傳機關が出来上がつてゐなければ

情報省の  
必要

ばならぬ、と言ふ事である。蓋し戦争は愈々その速度を加へ來つたのであるから、もう以前のやうに樂々四年間も修練を重ね工夫を凝らし、その揚句漸く吾人の目的に最も適つた型の機關を作り上げる等と言ふ事は、到底期待し得ぬ處なのである。その上、宣傳に對して國家的統制を加へる事は避け難いにも係らず、これを民主主義の國に課する時は必ず批難反對を伴はぬ譯にも行くまい。惟ふに過般の大戦の時は、吾々も實は乗るか反るかで彼のやうにやつたのであつた。それは恰度トブナイ人形のやうなよきよきよきと仰びる行き方で、はじめは小さな新聞班であつたものが情報局と成り、やがて一個の宣傳省と育つて行つたのである。此の生長期間を通じて、それは絶えず議會方面並に新聞紙の批判の前に立たされ、これが却つて最後まで拍車と成つたものの、やはり其の現實の發達を遅からしめた次第であつた。されば此次の機會には、戦争勃發の當初兵馬倥傯の際すくにも實行に移せる計畫を有つてゐる事は好いが、それよりも先きに右の如き機關の骨組だけでも既に存在させて置く事が肝要である。這般の大戦で結局出来上がった機關では、遂に攻撃的宣傳防禦的宣傳の双方を統一するに至らなかつたが、米國のはうで出来た組織ではその點統一されてゐたのである。吾々のはうでは止むなく、それぞれの所管大臣の間で協調を保ちつつ各自の立場から直接首相を扶けると言つた形で、誰が見ても如何にも脆弱な提携の仕方であつた。此の頃の時には此の統制を一人の手裡に收めさせるはうが賢明であらう。如何なる時でも適材を適所に据えるのはかなり難かしい事であるが、殊に土壇

統制機關  
主腦者の  
人選

場へ来て早急に人を得ると言ふ事は一層困難である。宣傳の總裁たる地位の重要さを考へて見ると、陸、海、空軍等の總司令官同様とまでは行かないにしても、本國の防空司令官に匹敵する位の事はあらう。問題はそのやうな人物を何處に求めるかである。予は曩に、理想的な人物として假りにトゥッキー・グミューア卿を挙げた。けれども卿は、歐洲大戰中一時情報局に長たる事はあつたものの、結局ノースクリップ卿やビヅブルーク氏等の任命を見たところからすると、新聞方面に關係のある人が望ましいと言ふ事に成つた譯であらう。ラスウェル教授や其他の人々も、新聞人が一般に最良の宣傳家であると言ふ見解を支持してゐるらしい。だが予は遽かに賛成しない。その第一の理由は、一口に新聞人と言つても、新聞社主と新聞記者とは今日では同意語ではなし——一方の新聞の所有者を持つて來ると必ず他方から批難攻撃を招く事は昔からの定石である。仍ち一般性を缺く事おびただしし、そんな事をすれば『新聞が自由を失ひ、隨つてその權威を失墜する』とか言つて酷く論難を蒙るに決まつてゐる。それよりも然う言ふ總裁たる人物は、これを求むべき處に求めさへすれば——予の考へでは植民地總督階級の豪い人の中に必ずあると思ふが——ちやんと決まつてゐるも同然であらう。その名前は愚か、幕下に在つて彼れを扶ける専門家や顧問の名まで、早いところ名簿に並んで待つてゐるに違ひない。

宣傳家と  
新聞人

予が新聞人任命に反對する第二の理由は、假りに其の當局が、攻撃的宣傳を管掌しようとする防禦的宣傳を行はうと若しくはその双方を受け持たうと、いづれは幹部どころに多勢の新聞記者を蒐めなければならぬであらうが、新聞記者必ずしも最良の宣傳者ではないのである。宣傳者本來の仕事は、報道を作り出すに在り、新聞記者の訓練と任務はそれを報道する事なのである。故に此の二者は、一つの武器の兩端を占めてゐるものである。かゝる次第であるから、たとへば砲兵の訓練が優秀な軍需品の職工をつくることは言へないと同じに、新聞記者の訓練が共儘うまく宣傳事業の資格に成るとは限らない。それは中には、新聞記者にして宣傳の方面にも勘の良いところを見せる人達も能く見かけないではないが、つまりは然う旨く兩天秤の利く人間は稀れだと言つてよろしい。本當に優れた宣傳家は、資性を有つて生まれた人間であつて、後天的に出来るものではないのである。さればこそ、當局としては十分時間の餘裕のある今のうちに、餘計な毛嫌ひなごせずに、丹念にその邊を見廻して人を求めなければいけない。

撰て少々道草を喰ひすぎて、予が二つの提案中の第一のものから離れてしまつたやうであるが、本筋へ戻ると、それはたつた今から政府と聯携して宣傳を統一的に發展させる團體を作る事に在つたのである。第二の提案と言ふのは、これに對して附加的なものとも言へるし、又改善策でもあるが、兎に角一個獨立の團體を作つて此處から宣傳を作り出さうとするものである。

此のはうは別段國家非常時と言ふ幻影を以て、強ひて民衆を武装せしめんとするものではない。寧

その二

ろ個人並に集團の自由の防衛にあたらんとするものである。謂はば—もごと予としては茲に具體的な提議をする譯ではなく、ただ予が腹案としての組織の型を示すに過ぎないが—此のはうはその趣旨として、かの全體主義諸國家が好んで唱へ英國人これを唾棄するところの強制と言ふものを、決して無用の長物に非ざるとする議論を掲げて行くのである。斯様な強制は數年を出ずして消え失せるものは言はせず、寧ろ當分は此世に止まるものと論ずる。又政府は日一日、社會の利益のために個人の上に強壓を加へる必要に迫られて來た事、又獨り吾英國のみ此の壓迫を免れ得るものでない事、就中今や民主主義諸國は荒れ狂ふナチズム、フシズム並にコミニズムの海中に揉まれてゐる。離れ岩に等しい事を認める。されば英國人たる者、若し自からの自由を保存し子女の生存權を保持せんと欲するならば、猶豫を置かず一致し自發的に團結して、不幸なる憐憫人等が法律で強制されてゐる事柄を進んでやる外は無い。何よりも要諦とすべき處は、新しき非民主主義の世界では英國臣民の自由なごは、英國臣民からこれを守る準備を整へ自から防衛實力を持たぬ以上、必ず雲霧消せしめられるに違ひないと言ふ事である。また第二の要諦は、寧ろ英國人と生まれて被給食失業者と成り、無料で醫療や褌母仕事を施され、病院もあり學校へ行つてゐる子供は牛乳を貰ひ、その他様々やつて貰へる事がどんなに有難いかを十分に悟らせる事である。それに較べればスペインやロシアの就業労働者又は波蘭のお百姓若しくはつと手近かなフランスの田舎者など、そんな結構な身分でない事を深く思は

せなければならぬ。よろしく宣傳を以て照眞の鏡を掲げた如く、事の實相を映して國民によく眺めさせる必要があるのである。

統制機關  
の組織形

宣傳の準備  
工作の手

斯かる組織のものが執るべき形態は、固より譯山にあるであらう。その中で先づ最も手頃と思はれるのは、極く有能で且つ活動力の旺盛な協議會とか委員會を以て根幹とする事である。而して此の委員會には、世間で十分に名の賣れてゐる男子並に婦人を持つて來て据える。これだけ言へば此の團體がどんな方向に働きはじめるかは、敢て専門家の意見を煩はさなくても分るであらう。予としては以下、單にその手段の一を示すに留めて置かう。即ち先づ、愈々何等かの形で宣傳戦を始める前に、それぞれ最適の人物を選んで準備工作を進めさせるのである。如何なる方面に進めるかと言ふご、例へば公設食糧品店とか、小賣商聯合會とか、大きな保險會社とか、方々の酪産品販賣所とか、毎日公共の建物の中で、お店の勘定臺で、將た往來に面した玄關で、一般大衆に接する使用人を持つてゐる處へ働きかけるのである。此の着想は、例の最も大切な口傳の宣傳戦から先づ創めようと言ふに在るのである。その第一に理由とするところは、公衆に向つてする如何なる宣傳も、先づその素地を整へてから懸からないと容易に成功の望みを得られぬからである。又第二には、予が曩きにも力説した如く、人から人へ話の序でに通つて行く宣傳ほど効果の大きいものは無いからである。だから、何の事はない唯々みんなに斯う言はせさへすれば占めたものである。『これは或る友人から聞いた話だがね：

……』とか、『うちの若い者がロンドンで聞いて来たんだが……』とか。斯うやつて段々と民衆をして一定の見解に對して聴く耳を有たしめるのである。此の遣り方で行くに又、世間には金棒曳きが多勢ゐるから、耳寄りな話か何か聴き込んだ心算で得意になつて方々へそれを店卸して歩く。又もう一つ此の行き方で利きの良いところは、街の細君連と事務員諸嬢で、これが眞面目に時局談を論議する氣は無くて、閑さへあれば巷説を饒舌りまくる連中だから尙ほ更うまい。

その次には、著名な講演者に、欣然と肩入れる事を約束して貰ふのである。その講演者も、就中教會方面、學校の先生方、教育家、醫者、文壇人、司法官と言つた處から抜いて来る。政治家と軍人方面は出来るだけ少ない方がいい。擬て然う言ふ好意の支持者等の名を懸け連らねたら、今度は會自身の仕事としてその人達が意見を披歴すべき機会をどんどん作る事である。B・B・Gからでも、演壇の上からでも、映畫乃至舞臺の上からでもよろしい。およそ宣傳上のあらゆる機關を總動員しなければいけない。随つて團體自からこれ亦正常な手筈を経て、大商店、貿易協會、學術團體、有力會社、學校及び各大學、市町村役場から有らゆる組合等々に接近して行つて、その支持を確保すると共に、自分のはうの所屬講演者達のために、ありとあらゆる聴講者を集めなければならぬ。また同様の努力を、いろいろ獨立した團體の方面へも振り向ける必要がある。斯う言ふ團體も實に夥しい數のあるもので、それぞれ特殊の宣傳を目的として存在してゐるのである。随つてその目的には正常なものも

あり、無用のもあり、ちと調子の狂つたのもある譯である。此の種の組合、協會、聯盟、聯合と言つたものが一團と成つて費消する金と精力とこそ、實に尨大なものがある。故に能率の計るならば、此等の内の大部分を廢止して仕舞つて、各々が其の大本おほもとから願けて貰つてゐる勢力や資金を合併するのが一番望ましい事なのである。だが大懸かりに然うする事も却々實行困難であらうから、次善の策としては、彼等の支持を得て、彼等を通じて仕事をやる事である。最後に取つて置きの一策と言ふのは、御承知の共產主義讀本の戰術から借りて來て露達磨を轉がして行く式に『細胞』を形成して行く事である。但し『破壊の細胞』では困るから『奉仕の細胞』とする。誰か一人惻かな男か女があれば、それが二人なり三人なり友達を仲間に入れて、其の友達に同様の事をして貰ふのである。

斯う言ふ運動の遣方は幾通りでもあつて際限が無からう。さればと言つて、上述の準備工作的手段の總てが必ず成功するか、又はその内の或るものなら屹度うまく行くと言ふのではない。併しその企てにして確かりした基礎を持ち、不撓不屈に遂行されたなら、塵も積もつて山と成る式に偉大な成果を得るに決まつてゐるのである。ただ肝腎なのは、此の仕事の必要とするものは金よりも寧ろ馬力だと言ふ事である。寧ろ名も知れぬ獻身的な一千人の方が、少し許りの政治家その他が人氣商賣にやつて呉れるより、ずっと有難いのである。但し此の團體の看板としての並び大名は無論入用で、無くては困るが、仕事の大半以上はその連中の友人の手で取り仕切つて行かなくてはいけない。

予は曾て官邊の人達から、そんな宣傳事は緩慢で時宜に合ふまい、恐らく数年も経たなければ成果が見えて来ないだらう、と言つた抗議を受けた事がある。だが、かなり出鱈目の商業的な廣告仕事で、これに従事する者もその方面に限られた商人だけかためた事でも、ただ一定の標語を繰返してさへゐれば、別段内に心理的基礎を藏する事なくして尙ほ且つ短時日の間に民衆の習慣を一變せしめる力があるものならば、學識あり名聲ある人々の指導下に、特別の文字を掲げて廣く世間に呼びかけ、それで數ヶ月以内ぐらゐに一定の成果を擧げるはうが、どんなに容易いからぬではないか?! 將た又、ある壓力を加へて國民の意見を揺り動かして行ける時計の振り子の速さ等から考へて見ても、右の見解は裏書きされる、予はかたく信じて居る。いづれにしても、無爲であるよりも何かするはうが優しであるに決まつてゐる。

それにもう一つ特に述べて置き度い事は、此の機關をして現存の各組織を利用し且つ現存の善意に訴へて、さうして民衆の考へを愛國的道義の線へ捏ね戻し、吾國の地位の實際に對する覺悟にまで立歸らせることが肝腎である。若しも、もつと大きな使命に呼ばれて國を擧げてそれに赴いてでもゐるならば、實に何を苦しんで、微用の補充のご夢中に成つて怒鳴る必要があるか! 右のやうな各方面への應募を勧誘する仕事などは、従前ごほり各々所管の省に任かせて置けばいいのである。要するに兩個の吃緊事、即ち攻撃に對する國民の奉公的決意と、續々微用に應ずる事との二つは、同じ心構へ

の兩端を言ひ現はしたものに外ならないが、又おのづから右のやうな本來の序を持つてゐるものなのである。扱て此の非政治的にして且つ國民的な宣傳組織を作り上げると言ふ提案は、予がこれを一冊に纏め上げて、實は二年許り前に各關係の許へ提出して見たのである。ところが何の反響も無かつた。その時々返事は、先づ、考へとしては正しからうが別段何處の省でも特に「愛用」の策とはして呉れない、と言ふのであつた。尤も一人の關係はわざわざ筆をこつて返事を寄越して呉れたが、それはお手柔かな御注意を賜はつたもので、何でも予は『甚だ熱意に満ちて結構ではある。また國家奉仕の御意見の流布を計られんとする御趣旨も分る。つまり世間に散在せる理想主義が自分を預けて呉れる適當な銀行が無いために邪道に陥入つてゐる、それを掻き集めてお役に立てようと言はれる。(の)だそうだ。こんな處に理想主義と言ふ文字が使はれてゐる事も、それから茲に用ひられてゐる大變な比喩法も、よく眼を留めて御覽じろ)だが貴下の御思考は一般のものであるところ、當方は特殊の仕事であるから、獨自の方法でお役に立つてゐると思ふ云々』とあつた。然し役に立つにも何にも實體の無い處へ向つて何を寄與すると言ふのだらう? 予には到底そんな藝當は無い。

## (三)

最後に、一方に於て國民精神を盛り立てて行く事が防禦的宣傳の最も肝要な仕事であるに對し、愈

々爆弾が落ち始めてからの市民の身體と氣力を護つてやる事も亦、宣傳に俟つべき仕事である。空襲への警戒とこれに對する遮蔽物に關しては、國民に向つて一々詳しい指示が與へられなければならぬ。人員の配分を如何にするか、避難は何う行ふべきか、遂一指圖が無くてはならぬ。敵機の近迫も警報されねばならぬ。國民の對敵觀念は愈々旺んに煽られてゐなければならぬ。且つラヂオの番組や映畫の上映等で、國民は絶えず元氣を鼓舞されてゐなければならぬ。だが此のための宣傳が效果的に遂行されるには、何う言ふ機關を通じてやつたら良いのか?! 中には手段を種々に分けて、國民の各方面へ同時に働き懸ける工夫をなすべきである。それには先づ新聞と言ふもののある事は、論を俟たない。だが新聞を利用出來ぬ事態に立ち到つたとすれば、これは何の役にも立つまい。全然駄目である。それに、新聞には戦争の特輯版など發行する策もあるが、然う素速く全國に亘つて宣傳の趣旨を徹底させたり、若しくは空襲の脅威に曝らされてゐる特定の地域に警報を與へたりする事も出來ない憾みがあるみがある。爾かく敏捷に全國に徹底させようと思へば、恐らくラヂオを通じてやるのが唯一の途であらう。と又しても、無線放送組織の弱體と言ふ處へ考へが落ちて來る。勿論B・B・Cの如きは忽ち駄目にされて仕舞ふ事は分り切つてゐる。但しそれにも、曩きに予が繰返し説明を試みたごほり、戦争が半ばにも及ばないうちの事である。大體B・B・Cの局などは空襲に對して雨曝らし同然なのであるから、何か外に獨立した通信の方法か、若しくはその改善の策ぐらゐ既に出來上つてゐ

ラヂオ

有線放送

ないと言ふ法は無いのである。敵方にして斷然空襲を續けて來るならば、吾國の重要な無電放送局の多くが必ず閉鎖されるものと、今から覺悟してゐなければいけない。然らばその後には於て尙ほ警報を發したり或は演藝番組を送つたりするために、如何なる手段が残つてゐるか?! 茲に於てか當局も、漸く有線放送の問題を眞面目に考へはじめてゐる様子である。

ところでマルタ島の住民は、伊太利側から送られる宣傳に對して、まるで開け放し同然に踏み込まれる位置にゐるのであるが、これに反撃を加へると言ふ見地から、植民地政府が音頭取りと成つて有線放送の専門家を動員して此の島に頻りに架線させたため、今では島中最も住民の多い部分は、十分に配線されて來たやうである。但し、此のマルタ島の有線放送會社が伊太利からの放送を仲繼する事は許されてゐないが、生憎く島の地方當局が無電受信器の所有を禁じてゐないものだから、假りにその當局が何か目的を持つてゐるものとすれば自からその目的を破壊してゐるも同様な有様である。蓋しマルタ島民はみんな伊太利語を解し、且つ歌劇を愛好するが故である。そんな譯で、街へ行けば、伊太利の局だけしか聴こえない受信器を幾らでも安く賣つてゐるのである。實に咄々怪事ではないか! 而かもこれと似たやうな似ないやうな話も、英國内ではぼつぼつ聞かぬ譯ではない。現に二年前アルスツォーター委員會の報告がもたらされ、それがラヂオ全般の問題に亘つたため當然有線放送の事にも觸れたのであつた。その頃恰も、此の有線式の方法が驚異的な發展を遂げつゝあり、就中人口

稠密な地方では旺んに成つて來てゐた。されば該委員會としても、此の制度を採用する事が國家の利益であるから、よろしく國營に移すべしと推薦したのである。然るに政府は「暫く靜觀」と來た。仍ち彼等は、有線放送を重要視して國家の手でこれを普及する事も認めず、さればと言つて反對に、これを商人の營利に任せ随つて現存の有線會社等に對し事業の繼續並に進歩の促進を許可する、と言ふ事もしなかつたのである。その孰れを選んだとしても、それはうなづける筋であつた。ところが然うはしないで、彼等は嚴肅にもその中庸の途を執り、暫く成行きを注視して三年後に再びこれを執り上げて考へて見る、旨を宣言したのである。その期間は、幸にも一九三九年十月で切れる。右停止命令の次第依つて件の如しであつた。これでは營業中の諸會社の運命も、全く彼方任せ同然であるから、會社は世間の支持を失つてしまつて、發展しようにも何にも全然新奇に資本を入れて呉れる者が無い。寔に有難かりける鶴の一と聲のお蔭で、考へて見れば劍呑極まるその三年間と言ふものは、非常の際の通信並に宣傳にぎり最も肝要な手段が、全く釘付けにされてしまつたのである。かくて各會社は強制的に期限の來るまで待たされた譯であるが、既に會社の手に依つて最も細かく架線されてゐた中心地が、たまたま戰略的並に軍需的中心地でもあり且つ人口稠密の場所であつた事は、會社の經營が宜しきを得てゐたが故ではなくて、寧ろ一つの幸運に過ぎなかつた。夫等の地方とは、ドイツのポルト、ニュウキヤツスル、ハル、バアロウ、スワソニー等である。此の外に既に架線を見た處は、

ノッテングムとアイル・オヴ・タネットであるが、此處は前回の戦争でも然りし如くに、今度も恐らく逸早く爆撃を蒙るであらう。これであつて有線放送のために架線されてゐるのは、全國でたつた三十萬家族である。先づ百二十萬人の間だけで有線放送に依る通信の到達圏内にゐる事と成るが、無線のラヂオ放送を聴ける人間は、これに對し三千二百萬と言ふ。吾人はよろしく吾人の立場を和蘭のそれと比較して見るがいい。彼の國では人口の七十パーセント以上が此の有線放送の組織の中にあると言はれてゐるのである。

## 放送妨害

妨害の問題に至つては、曩きにも述べたが、敵はダヴェントリー或はドロイトウキッチをも併せて、此等の局が海外へ宣傳放送を行つてゐるところを妨害して來るに違ひない。また後者の局に對しては英國内聽取者へ向けて放送してゐる時でも、次第に依つては妨害を試みて來ないものでもなからう。兎に角これ等は、獨逸がやらうと思へば何時でもやれる事なのである。然し若しも向ふでそのやうな妨害をして來たら、吾國の無電技師等も獨逸の局の數々を選び喰ひ的に仕返しに妨害をなし、一方國內に向つては對空防衛上許される限り、吾が方に特有の中間波長の放送局を恃みとして仕事が続けられるであらう。

## 映畫と演劇

あごは映畫と芝居である。戦時と成つても平時と同様、映畫と言ふものは民衆娛樂の根本形態である。『いまくしいハイケルめ!』(さかその他昔のゴータ爆撃機に匹敵する今の爆撃機の名を云つて)

家の中なんか素込んでゐたつて始まん、映畫でも觀に行かうせ。戦争に成ると皆が斯う言つた調子に成る。仍で、娛樂方面だけでも何とかして『平常どほり』に事を運ばせてやる事が、非常に大切に成つて來るのである。元來映畫は、正統な芝居や又その腹違ひの妹か何かで素性の少々怪しいミュージック・ホール等と異つて、機械工業の一部と見る事が出来る。他の興行が個人を根幹としてやつて行くに對して、映畫は機械が特みである。だから競演でも盛澤山の番組でも、極めて簡單に出来る。古い物からつと並べたお涙ひ興行なども、比較的容易にやれる。だが、工場から生産される映畫其物は、これを一本作り上げるにも却々そんな容易な話ではない。娛樂映畫はその製作に非常な時日を要する。これへ又附いて廻る厄介な事と言ふのが、營業關係に於ける配給の問題である。されば、十分映畫の供給を確保し其の配給を行き直らせるやう、然るべき計らひをして置く必要がある。とりわけ人の多勢集まつてゐる地域や、大部隊の集結してゐる地方が肝腎であらう。然るに吾國自身の映畫工業は、平時に於てさへ大きな顔をして『英國映畫』と銘打つには、外國の技師や俳優の助けを借りて四苦八苦する状態なのであるから、右の要求を充たす等は望外である。これは何うしても、米國映畫に俟つ外は無からう。新作映畫の大部分を共處に仰ぎ、それをうまく配給するのである。此の行き方を辿つて行く、つまりは吾國の映畫法の根本觀念と成つてゐるものを、少々取り換へると言ふ事にも成つて來るであらう。即ち吾國の映畫市場は歐洲大戰中米國に蹂躪されたと思ひ込んでゐる、

あれを改めて懸からなければいけない。それは未だしも斯う言ふ事さへ持ち上がるかも知れない。即ち外の一般の資源が枯涸してしまつて、米國映畫の供給まで駄目と成つてしまへば、遂に古い映畫に二度棲を取らせる外はなくなる。然うなる厄介なのは、一つの映畫に就て一本の原版が藏つてあるのが通例であるから、これ亦何とか手配を付けて、寫し直しをやつて而して配給する必要がある。ただ此等の手筈は總て、予が藝きに提唱した中央協議會の映畫部門の手で事前に準備すれば、容易く出来る話なのである。誰か宣傳家としての資格が特に備はつた人を連れて來て、戦時興行としての娛樂映畫を檢閲選定させなくてはなるまい。實に娛樂映畫こそは、恰度疲れた時の一椀の茶と同様、慰安と成り氣力の回復ともなる絶對のものである。これあつて始めて國民の胸の中から、憂慮と恐怖とを除き去り、最後まで戦ふ決心を固めさせる事が出来るのである。故に映畫に依る慰安の方法を立てる事も、それ自身大きな仕事であるのは言を要せぬ。これへ附け加へて確かりした宣傳映畫の作製と上映とを、併せ行はなければならぬ。而してその宣傳は、娛樂映畫報道映畫、並に話題的『短篇』の中に盛り込まれるのである。公式記録映畫でも云ふべき『短篇』を多量にぞしぞし出す事が非常に大切と成るであらう。報道映畫ばかりでは十分に行き届かない點を生ずるので、毎週毎週一本乃至それ以上の記録映畫で各々一千呎以内の短かいものと、規則的に出さなくてはなるまい。これは當局の後援の下に、およそ國民が知らんと欲し且つ知る権利のある事柄と、並びに宣傳の本義に照らして各



人の家庭へ徹底させて置き度いと思ふ事柄等を、洩れなく蒐めなければならぬ。大體戦時映畫を扱ふ役所の責任は、映畫の製作、配給、上演を管理する事と併せて、夫等の宣傳を指導する事にも及ぶべきであらう。これに較べると寄席、芝居、ミュージック・ホール乃至は音楽會等は、いづれも左迄面倒を見てやる必要は無い。尤も此のほうも、大部隊の集結地や市民が引き上げて行つてゐる郊外の天幕村のやうなところで、これに最適の興行をさせるためには、大分仕事の量も大きくは成つて来るだらう。殊に後者に至つては、宣傳をする者にとつて却々頭痛の種であらう。蓋し、始終彼等の家のはうが何うなつてゐるかを知らせてやらなくてはならないし、それも出来る限り明るい氣持を保たせて置くやうにしなければならぬからである。何にせよ彼等の大半は、女、小兒、と老人ばかりで、家の男達は市内に残されてゐるか又は國家に徴用されて行つてゐるから、兎角怯えて騒ぎ度がるのも無理からぬところである。斯う言ふ群集的ヒステリーがどんな大きな危険をもたらすかは、曾てバスに於ける小兒避難民の間に勃發した事件を考へて見れば、大凡の見當は付くであらう。それは寔に恐ろしい事であり、しかも燎原の火の如くに燃え擴がるのである。

されば之を要するに、國內宣傳機關の整備は、それ自身實に容易ならぬ企てなのである。即席風に手早く事を運ぶなど言ふ事は却々何うして出来ない。どんなに派手にやつても、急いで到底いけない。後から後からと面倒な仕事が生じ、細かい手配りが幾らでも附いて廻ると思はなければなら

國內宣傳  
機關整備  
の急務

ぬ。かるが故に、此のための根本計畫は、事の起る前に十分立て、置かなければいけない。而して此の計畫の立案と、然るべき人物の選定とは、予が曩きに提唱した中央協議會の、適當な部門に任せざるがよからう。換言すれば、防禦的宣傳が宣戰直後に運用を開始し且つ効果を擧げ得るためには、その機關の全般が事前にすつかり用意されてゐなくてはならないのである。それまでは、上から油布でもそつとかけて置くなども良いが、併しエンジンもちやんとかけて置く可きで、ギヤをいつでも入れられるやうにして置くべきである。宣傳も攻撃方面に使用する時は、兎角質の悪い聯想が付き纏ふが國內だけに指向する場合には之はない。仍ち敵に對する宣傳は害心を藏するが、自國の國民に向つての宣傳は極めて思想的なのである。だから何うしても、これだけは等閑にして置けないのである。およそ現代的國家と言ふものは、それが獨裁的であらうと民主的であらうと、現代人と同然で非常に神經質な組織體であるから、その安定と統一のためには、宣傳に依る糜痺劑と興奮劑の二つが是から先ますます必要と成つて来るのである。

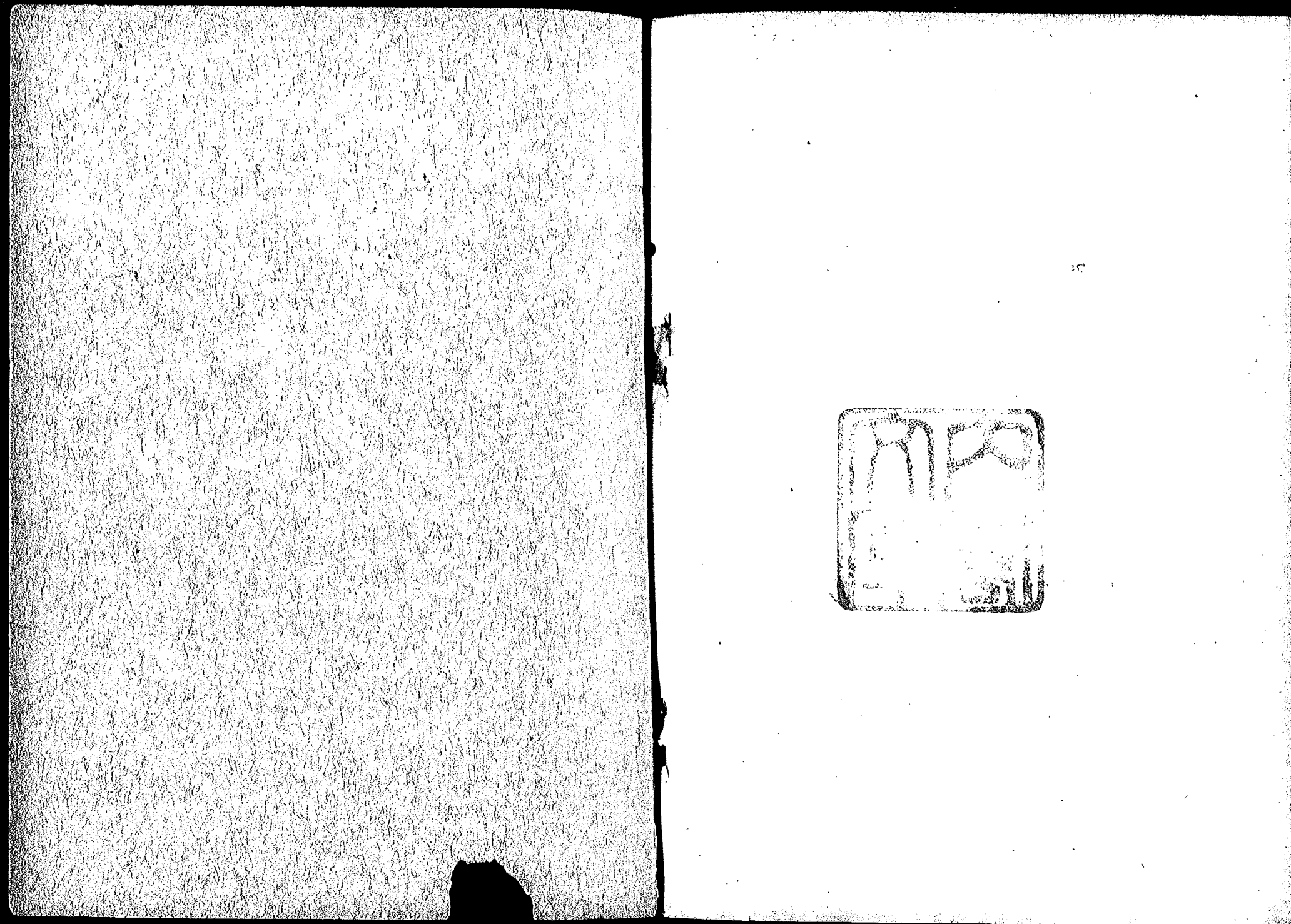
予の感ずるところでは、遠からぬ將來に四圍の狀勢に強ひられて、吾人は止むなく此の宣傳の問題と、正面から正直に打突かる時が来るであらう。愈々その時が到來したならば、吾々は、過去に於て決して卒の無かつた如く今度も亦小改變をほんの一夜のうちにして退けよう。而かも根本的の革新をして置いて、また何喰はぬ顔をして仕事を續けるであらう。予をして此の國民性に注目させて呉れた

人は、トキーツミュール卿であつた。卿に言はせると、英國人は世界一の革命的な國民である。彼等は改變を必要なりと決する事に於ては遅いが、一旦改變をするとなれば、非常に素早く而かも一向物を立てずに事を運ぶ。随つて何れの國民よりも完全に其事を遂行するのである。吾々は過去十年間に、過去二百年來の傳統と成つてゐた政黨政治の形式を變へた。また一夜にしてこれ亦傳統的に成り懸がつてゐた財政政策を見棄て、吾人が以て誇りとしてゐた金本位制をさらりと西の海へ投げ込んでしまつた。而して又、一人の王の退位に同意もしたのである。されば吾人が一旦宣傳の統制を必要なりと認めたら、即刻その制度を布き、而かもその統制機關の上に大きな文字を以て、『民主的』とか『自發的』とか言ふ貼紙をするであらう。斯う言ふうちにも吾々は、一方でせつせと革新の準備を進めながら、口ではそのやうな統制には決して服し難いと、斷言してゐるのである。恰度一九三一年以前、自由貿易を以て尚ほ生きた政策なりと叫び、吾人は斷じてこれを離れずと頑張つてゐたのと同様であらう。

今、予が唯一の望みとする事は、吾人が餘り遅過ぎぬうちに實現に到達する事である。予は今日の事態の上に立つて宣傳の必要を力説するものであるけれども、予は決して民主々義國の諸特權を低く評價してはゐない。ただ予の觀るところでは、それ等の特權は將來戰に於て必ず危地に曝らされるであらう。而して予はそれ等が永遠に失はれる如き危険を冒したくないからこそ、暫くそれ等の或物を

手放すべきだと唱へるのである。予は民主々義的自由を尊重すると同じ程度に、民主々義的放縱を唾棄するものであり。且つ今日の世界のやうに組織が總て緊張し切つて今にも裂けさうな秋にあつてその放縱の結果何を招かなければならぬか、それを惧れるものである。茲にエツチ・デー・ウエルズの言を引用して見よう。「太古の恐龍で最後まで生き残つてゐた奴は、自分ではうまく生き残つたさ考へたに違ひない」とある。若しも民主々義にして、今日これと同様の考へ方をして安心してゐるやうな事がありとすれば、それは正に悲劇でなければならぬ。

了



(本書は国定規格A5判)